

第五十二條 免役日ニ於テ囚人ヲ炊事掃除病者ノ看護其他監獄ノ用ニ使役スルトキハ科程外ノ工錢ヲ與フヘシ
第五十三條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ示スヘシ

第四章 給與

第五十四條 囚人ノ衣類ハ赭色懲治人ノ衣類竝ニ刑事被告人ニ貸與スル衣類ハ淺葱色ニシテ總テ筒袖トシ長短二種ニ分
ツ男ノ通常服ハ長衣就役服ハ短衣トシ女服ハ總テ長衣トス

第五十五條 囚人ノ蒲團ハ赭色懲治人及刑事被告人ノ蒲團ハ淺葱色トシ各自ニ貸與シ二人以上合著セシムルコトヲ得
ス

第五十六條 刑事被告人ノ着用スル衣類ニシテ時季ニ適セス又ハ汚穢シテ衛生上ニ害アリト認ムルトキハ之ヲ貸與
ス

第五十七條 在監人ノ衣服ノ外襟及蒲團ニハ白布ヲ縫著シ之ニ其者ノ番號ヲ墨書スヘシ
第五十八條 在監人ニ貸與スル衣類雜具左ノ如シ

通常服

- 一 單衣
- 一 袴
- 一 綿入
- 一 襦袢
- 一 單衣
- 一 袴
- 一 綿入

就役服

- 一 單衣
- 一 袴
- 一 綿入

一 襦袢

一 股引

婦女ニハ股引ニ代テ前垂ヲ貸與スルコトヲ得

雜具

- 一 蒲團
- 一 蚊帳
- 一 莞蓆
- 一 木枕
- 一 帶長尺
- 一 襪長尺
- 一 手巾
- 一 蓆
- 一 笠
- 一 履物

以上ノ貸與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ澁濯補綴シテ其用ニ充ルコトヲ得此他草鞋用紙ハ之ヲ付與ス
極寒ノ地方ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ足袋ヲ貸與スルコトヲ得

第五十九條 病者ニ貸與スル衣類雜具ハ醫師ノ意見ヲ問ヒタル上典獄ニ於テ變更又ハ増減スルコトヲ得
第六十條 病者ノ食糧ハ醫師ノ診斷ニ依テ之ヲ増減スヘシ

第六十一條 病者ノ攝養ニ効アル飲食物又ハ温ヲ取ル湯婆等ヲ用ユルコトヲ要スルトキハ醫師ヲシテ其旨ヲ證明セシメ
典獄之ヲ考檢シテ許可スルコトアルヘシ

第十九類 第一章 監獄

第六十二條 囚人及懲治人作業ニ勉勵シテ食費ヲ償フニ足ルヘキ工錢ヲ得ル者ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但其種類分量ハ典獄豫メ制限ヲ設クヘシ

第六十三條 工錢ヲ以テ食物ヲ購給スルハ一月十回以下ニシテ一回金三錢ヲ過ルコトヲ得ス但其購給費ハ領置工錢ノ半額ヲ過クヘカラス

第六十四條 食用器具左ノ如シ

- 一 木椀
- 一 箸
- 一 飯器

第六十五條 監房常置ノ器具左ノ如シ

- 一 貯水器並ニ飲器 木製
- 一 唾壺 木製又ハ竹製
- 一 便器 木製大小二種但監房ニ廁圍ノ接續スルモノニハ此器ヲ用ヒス
- 一 小箒 草ノ種類ヲ用テ製作セシ軟ナルモノ
- 一 洗手盆 木製

第五章 衛生及死亡

第六十六條 監獄ハ常ニ清掃シ不潔ナラシメサルヲ要ス

監獄内ノ廁圍並ニ便器ハ度數ヲ定メテ掃除シ常ニ清潔ナラシムヘシ

第六十七條 病者ノ居室身體衣類臥具等ハ特ニ清潔ニ爲スヘシ

第六十八條 刑事被告人及定役ニ服セサル囚人ハ毎日一時以内監房外ニ於テ運動ヲ許ス

第六十九條 衣類臥具雜具其他ノ物品ハ種價ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ澀ヒ又ハ大氣ニ晒シ臭氣ヲ去リ虫害ヲ防ク

ヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ晒洗スヘカラス

第七十條 入浴ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月迄ハ五日毎ニ一次以上十月ヨリ五月迄ハ十日毎ニ一次以上トス

第七十一條 刑事被告人又ハ定役ニ服セサル囚人及拘留囚ノ鬚髮ハ不潔ナラサル様梳理セシムヘシ但鬚髮ヲ剃刈センコトヲ請フ者アルトキハ典獄之ヲ許可スルコトアルヘシ

第七十二條 髮ヲ短縮セサル者ノ監房ニハ木梳一箇ヲ備ヘ置クヘシ

第七十三條 刑事被告人ノ親屬故舊ヨリ澀濯ノ爲メ其衣類ノ下付ヲ請フトキハ本人ノ承諾ヲ得テ典獄之ヲ許可スルコトアルヘシ其密室監禁者ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ經ヘキモノトス

第七十四條 傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防ヲ慎重ニスヘシ若シ在監人中傳染病者アルトキハ直ニ離隔室ニ移シ其消毒ヲ嚴ニシ病性及感染ノ形狀ヲ詳悉シ典獄ヨリ所屬長官ニ報告シ且其旨ヲ市町村長及警察署ニ通知スヘシ

第七十五條 傳染病流行ノ際ハ飲食物ノ差入及購給ヲ停止スルコトヲ得

第七十六條 傳染病流行地ヲ發シ若クハ其地方ヲ經過シタル者新ニ入監スルトキハ一週日以上他ノ者ト離隔シ其携有スル物品ハ消毒ヲ行フヘシ

第七十七條 死亡者又ハ刑死者アルトキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨリ親屬ニ通知スヘシ

刑事被告人死亡シ又ハ囚人及懲治人ニシテ裁判所ノ訊問中ニ係ル者死亡シタルトキハ之ヲ其裁判所ニ申報スヘシ

第七十八條 在監人病死シタルトキハ醫師ノ診察ニ據リ病症及其因由並ニ死亡ノ年月日時ヲ名簿簿ニ記載スヘシ若シ變死シタルトキハ醫師ノ檢案ニ據リ死亡ノ因由及其年月日時場所死狀等ヲ名簿簿ニ詳記スヘシ

第七十九條 死者ノ親屬若クハ故舊ニ其遺骸ノ下付ヲ許シタルトキハ其者ヲシテ簿冊ニ署名捺印セシムヘシ

監署ニ於テ遺骸ヲ假葬スルトキハ棺ニ入テ之ヲ埋メ其上ニ面三寸長三尺五寸ニ過キサル氏名標ヲ建ツヘシ

第八十條 在監人ノ遺骸ハ假葬シタル後ト雖下付ヲ請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第八十一條 在監人死亡シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ親屬ニ下付ス刑死者ノ貨物モ亦同シ

第十九類 第一章 監獄

得タル者ニハ三回増給ス但其價ハ一回一錢ニ過クルコトヲ得ス
 第九十七條 囚人及懲治人左ニ掲ケタル所爲アルトキハ金二十五錢以下ヲ以テ之ヲ賞與スルコトヲ得但賞表ヲ與フルノ限ニ在ラス

一 在監人ノ逃走セントスル者ヲ密告シタルトキ
 二 人命ヲ救援シ及逃走者ヲ捕得シタルトキ
 三 監獄ニ係ル水火風災ヲ防禦シタルトキ

第九十八條 刑事被告人ニシテ前條ノ所爲アルトキハ之ヲ録シテ所屬長官ニ申報シ仍ホ當該裁判官ノ參考ニ供スヘシ

第十章 懲罰

第九十九條 減食受罰者ハ其罰期中別房ニ入レ置クヘシ
 第一百條 懲罰ヲ受ケタル者ノ居房ハ其罰期終ルモ仍ホ懲罰ヲ受ケサル者ト別異スヘシ但改悛ノ情著シキトキハ合居セシムルコトヲ得

第一百一條 犯則者ニシテ事未タ發覺セサル前ニ於テ司獄官吏ニ自首シタルトキハ其懲罰ヲ全免又ハ減輕スルコトヲ得

數犯俱發シタルトキハ一ノ重キニ從ヒ處罰スヘシ

第一百二條 懲罰ニ處セラレタル者裁判事件ニテ出廷スルトキハ當日ニ限り其執行ヲ中止スヘシ但中止中經過セシ日數ハ懲罰期限ニ算入スヘカラス

第一百三條 兩脚ニ鈎ヲ施ス者改悛ノ狀顯ハレ其施鈎期限ノ半ヲ經過シタルトキハ一脚ノ鈎ハ免除スルコトヲ得

第一百四條 鈎ヲ施シタル者改悛ノ狀最モ顯著ニシテ其施鈎期限ノ四分ノ三ヲ經過シタルトキハ假ニ其鈎ヲ免除スルコトヲ得

第一百五條 假ニ鈎ヲ免除シタル者其罰期内更ニ懲罰ヲ受クルトキハ直ニ之ヲ復シ其假免中經過セシ日數ハ施鈎期限ニ算入スヘカラス

第六百六條 懲罰ニ處シタル者アルトキハ典獄若クハ看守長時々其動靜ヲ觀察シ教誨師ヲシテ之ヲ問ハシムヘシ

附則 此細則ニ於テ市町村長トアルモノ市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戸長之ニ當ルヘシ

在監人動作時限表

月名	時限	起	床	監房掃除	就	役	午	飯	罷	役	還	房	就	寢	服役時間合計
一月	前六時	六時	一時	前七時	十二時	ヨリ	午後三時	四時	四時	五時	五時	午後八時	八時	七時三十分	八時
二月	六時	六時	一時	七時	十二時	ヨリ	四時	四時	四時	五時三十分	五時	八時	八時	八時	八時
三月	五時三十分	六時	一時	六時三十分	十二時	ヨリ	四時	四時	四時	六時	六時	八時	八時	八時三十分	八時
四月	五時	六時	一時	六時	十二時	ヨリ	四時三十分	四時	四時	六時三十分	六時	九時	九時	九時三十分	九時
五月	五時	六時	一時	六時	十二時	ヨリ	五時	五時	五時	七時	七時	九時	九時	九時三十分	九時
六月	四時	五時	一時	五時	十二時	ヨリ	五時三十分	五時	五時	七時三十分	七時	九時	九時	十時三十分	十時
七月	四時	五時	一時	五時	十二時	ヨリ	五時三十分	五時	五時	七時三十分	七時	九時	九時	十時三十分	十時
八月	四時三十分	五時	一時	五時三十分	十二時	ヨリ	五時	五時	五時	七時	七時	九時	九時	九時三十分	九時
九月	五時	六時	一時	六時	十二時	ヨリ	四時三十分	四時	四時	六時	六時	八時	八時	九時	九時
十月	五時三十分	六時	一時	六時三十分	十二時	ヨリ	四時	四時	四時	五時三十分	五時	八時	八時	八時三十分	八時
十一月	六時	七時	一時	七時	十二時	ヨリ	四時	四時	四時	五時	五時	八時	八時	八時	八時

十一月	六時三十分	一 時 間	七時三十分	一十二時	三時三十分	四 時 間	八 時	七 時 間
-----	-------	-------	-------	------	-------	-------	-----	-------

備考
一 就役罷役及還房ノ時間ヲ除クノ外ハ囚人ニシテ服役セザル者懲治人及刑事被告人ニモ亦本表ヲ適用ス
一 炊事又ハ病者ノ看護ニ從事スル囚人並ニ病者ノ起床及就寢時間ハ本表ニ依ルノ限リニ在ラス

○假出獄證票ノ雛形並ニ特赦免幽閉假出獄申渡及賞表授與式ヲ定ム
二十二年七月三十一日
內務省訓令第三十三號
廳府縣集治
監假留監

監獄則施行細則第二條同第二十三條及刑法附則第三十九條ニ所定ノ名籍假出獄證票ノ雛形並ニ特赦免幽閉假出獄ノ申渡及賞表授與式左ノ通相定ム

番 號	典 獄 (檢印) 囚 人 名 籍	主 檢 書記氏名印
出身地籍	何國郡市(區)町村産	某府縣郡市(區)町村番地任又ハ何某子弟妻女
身 體	長何尺何寸何分肥瘠強弱	身 分 何 某 某年月生
容貌 聲貌	面體肩毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘癩癩子癩溜黑痣癩風天 黥創瘰ノ類及音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス	アバタイホコホクロナヅア
及犯由ノ大略	財物ヲ竊取シ或ハ人ヲ毆傷スル等犯罪ノ大略ヲ記ス若シ再三犯ナレハ往年何罪ヲ犯シ某裁判所ニ於テ何刑ニ處セラレ	
收監及滿期ノ年月日	何年月日午後何時入監何年月日滿期	
刑名及宣告ノ月日	何刑若干年月日 何年月日何裁判所ニ於テ宣告	
管 業 及 親 屬	營業ノ種類及親屬ノ營業在所 父母兄弟及配偶者子孫ノ有無 文字ノ知否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ普ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳	
赦 免 及 宗 門	何年月日假出獄或ハ免幽閉或ハ減等	
假 幽 閉	何年月日滿期放免赦免他監押送死亡逃走	
出 監 及 終 結	前項欄内ニ記入スヘカラサル事項假令ハ乳兒携帶者等ノ如キハ其乳兒ノ男女生年月及出監死亡等ヲ詳記スヘシ	
要 摘		

番 號	典 獄 (檢印) 懲 治 人 名 籍	主 檢 書記氏名印
出身地籍	何國郡市(區)町村産	某府縣郡市(區)町村番地任又ハ何某子弟妻女
身 體	長何尺何寸何分肥瘠強弱	身 分 何 某 某年月生
容貌 聲貌	面體肩毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘癩癩子癩溜黑痣癩風天 黥創瘰ノ類及音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス	アバタイホコホクロナヅア
及犯由ノ大略	財物ヲ竊取シ或ハ人ヲ毆傷スル等犯罪ノ大略ヲ記ス若シ再三犯ナレハ往年何罪ヲ犯シ某裁判所ニ於テ何刑ニ處セラレ	
收監及滿期ノ年月日	何年月日午後何時入監何年月日滿期	
刑名及宣告ノ月日	何刑若干年月日 何年月日何裁判所ニ於テ宣告	
管 業 及 親 屬	營業ノ種類及親屬ノ營業在所 父母兄弟及配偶者子孫ノ有無 文字ノ知否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ普ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳	
赦 免 及 宗 門	何年月日假出獄或ハ免幽閉或ハ減等	
假 幽 閉	何年月日滿期放免赦免他監押送死亡逃走	
出 監 及 終 結	前項欄内ニ記入スヘカラサル事項假令ハ乳兒携帶者等ノ如キハ其乳兒ノ男女生年月及出監死亡等ヲ詳記スヘシ	
要 摘		

音容	聲貌	面體肩毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑瘰癧子癭瘤黑痣癩風天癩 アキタイボコブホクロナマツア ウキツバト
出身	籍地	何國郡市(區)町村産 某府縣郡市(區)町村番地任又ハ何某子弟妻女
入監	年月日	何年月日午時何時入監
裁判官	氏名	何罪ヲ犯ス共犯者ノ有無前犯ノ有無
身	材	長何尺何寸何分肥瘠強弱 面體肩毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢姿態其他痘斑瘰癧子癭瘤黑痣癩風天癩 アキタイボコブホクロナマツア ウキツバト
音容	聲貌	創瘰ノ類及音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス
番	號	典獄 (檢印) 刑事被告人名籍 主檢 書記氏名印
出監	及終結	何年月日某家ニ放還轉監死亡逃走 病室ニアル者情狀ニ由リ親屬ニ交付スル等ハ此欄ニ詳記スヘシ
假	出	場
出監	及終結	要
音容	聲貌	母屬親ノ任居及 管業親屬ノ有無 任所及管業ノ種類 父母兄弟及配偶者ノ有無 入場ノ時文字ノ知否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳
教育	及宗門	
假	出	場
出監	及終結	要

營業	及親屬	管業ノ種類 父母兄弟及配偶者子孫ノ有無
教育	及宗門	文字ノ知否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳
裁判關係	ノ事項	何年月日令狀變換故障上告審問度數
保	釋	何年月日保釋若クハ責付
出監	及終結	何年月日放免若クハ刑ノ宣告執行又ハ他監押送死亡逃走
要	摘	前項欄内ニ記入スヘカラサル事項假令ハ乳兒携帶者等ノ如キハ其乳兒ノ男女 生年月及出監死亡等ヲ詳記スヘシ

假出獄之證票

某府縣郡市(區)町村番地任又ハ何某子弟妻女

身分

何 某年月日生

身 材

名籍ノ様本ニ倣
ヒ詳記スヘシ

容 貌

上ニ同シ

罪質犯數
刑名刑期
附加刑

何年月日某裁判所ニ於テ宣告ヲ受ケ
何年月日ヨリ執行何年月日滿期殘期

第十九類 第一章 監獄

何年月日間假出獄ヲ許ス

一此者ハ假出獄ノ裁可アリタルヲ以テ何年月日出獄ヲ許シ何地ヲ通過シ居任スヘキ何地ノ警察署ニ約テ何日迄ニ到着シテ此證書ノ檢閱ヲ受タル上住宅ヲ定ムヘキ旨申渡シタル事

一此者ハ本刑期限内特別監視ニ付セラレタル事

一此者假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯スコトアルトキハ直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサル事

一此者發病其他ノ事變ニ因テ途中ニ滯留スルトキハ滯留地ノ警察官ヨリ其證書ヲ受ケ居任スヘキ地ノ警察署ニ到着ノ上之ヲ差出スヘキ旨申渡シタル事

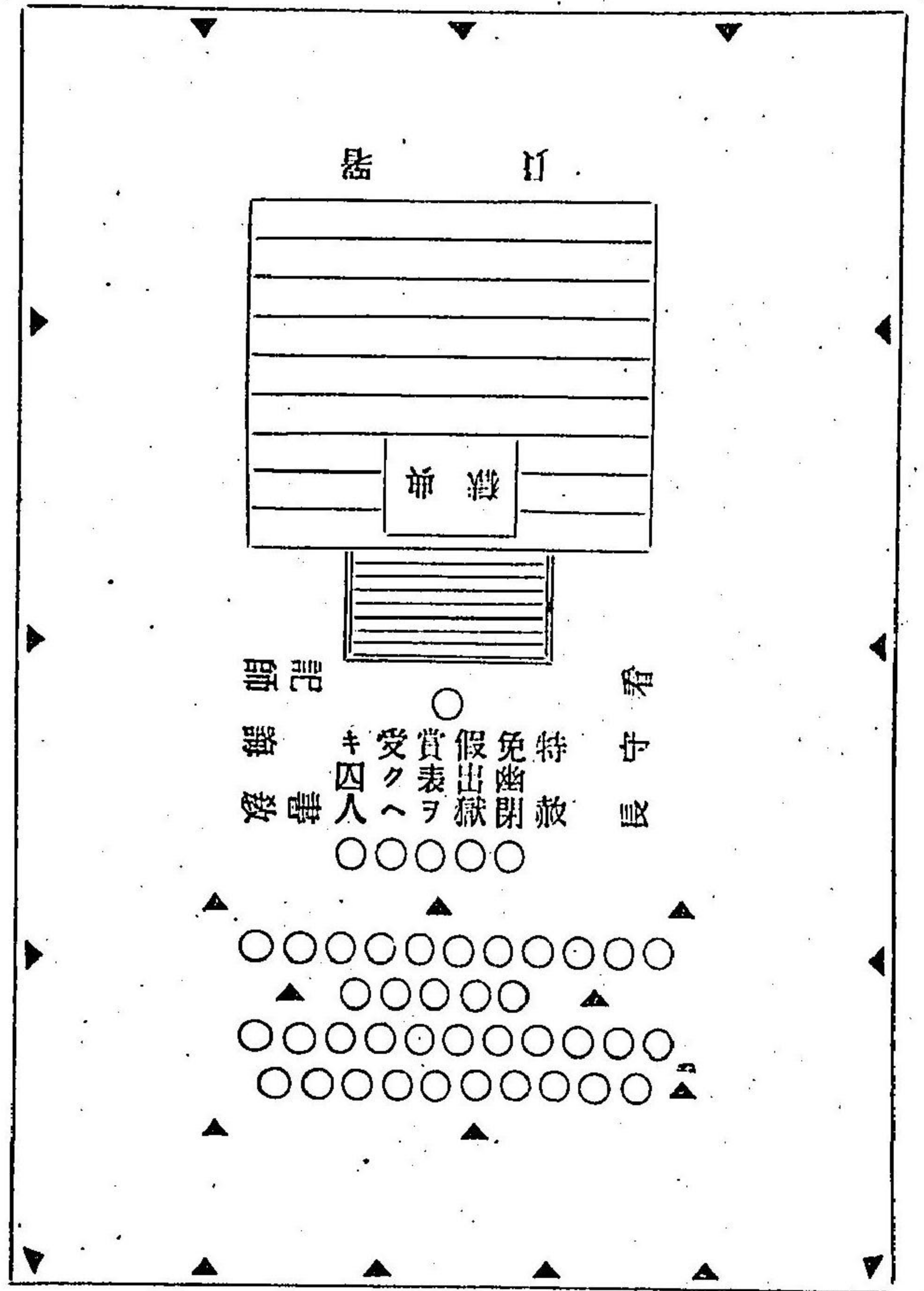
右ノ通心得サセ假出獄ノ證書ヲ與フル者也

何年月日

典獄 某 印

特赦免幽閉假出獄ノ申渡及賞表授與式

- 一式場ハ教誨堂又ハ衆囚ヲ整列セシムルニ足ルノ場所ヲ以テ之レニ充テ臨場官吏ノ席次及ヒ囚人ノ列次ハ左圖ノ如クスヘシ
- 但女囚ハ男囚ト同列セシメス其式場又ハ時日ヲ異ニスヘシ
- 一典獄席ニ著クヤ看守ハ衆囚ニ號令ノ類シ之ヲシテ齊シク敬禮セシムヘシ式畢テ典獄ノ退席セントスルトキモ亦同シ
- 一典獄卓ニ著ケハ書記ハ特赦免幽閉假出獄若クハ賞表ヲ受クヘキ囚人ヲ一人ツ、順次ニ呼出シ典獄ノ卓前ニ進マシメ而シテ典獄ハ其申渡書ヲ執リ之ヲ朗讀シテ聽得セシメ免幽閉又ハ假出獄者ニハ尚ホ出獄後ノ心得方ヲ懇諭シテ其證書ヲ授與シ賞表ヲ受クヘキ者ニハ其申渡書ノ證書ヲ添ヘ賞表ヲ授與スヘシ
- 但賞表ハ白紙ニ包ム等其鄭重ナランコトヲ要ス
- 一假出場申渡モ亦此式ニ準スヘシ



○監獄内ノ建物中稟請ヲ要セス處分ノ件

二十一年十二月十四日

内務省訓令第二十六號廳府縣

第十九類 第一章 監獄

○▲看守 囚徒

監獄内ノ建物ニシテ左ニ掲クルモノハ自今稟請ヲ要セス處分シテ後其位置ノ略圖ヲ具シ一箇年取纏メ翌年一月三十一日迄ニ報告スヘシ

- 一 倉庫ノ新築
- 一 物置ノ新築
- 一 人民控所ノ新築
- 一 小使部屋ノ新築
- 一 監舎ニ屬セサル厠ノ新築
- 一 馬建ノ新築

○監獄ニ係ル建物ハ處分後取纏メ報告ス 内務省訓令第二十七號 廳府縣

監獄新築改築又ハ監房建設ノトキヲ除クノ外自今監獄ニ係ル建物ハ二十一年十二月當省訓令第二十六號ニ掲ケサルモノト雖モ稟請ヲ要セス處分シテ後其位置ノ略圖ヲ具シ一箇年取纏メ翌年一月三十一日迄ニ報告スヘシ

○監獄慈惠ノ貨物ハ府縣會ノ決議ヲ經テ地方稅ニ組入ル 内務省訓令第二十三號 警視廳府縣

(沖繩縣ヲ除ク)

監獄則第二十四條ニ依リ監獄慈惠ノ用ニ充ツヘキ貨物ハ追テ開ク所ノ府縣會ノ決議ヲ經テ地方稅雜收入ニ編入シ其金額ハ監獄費内譯ニ慈惠費ノ科目ヲ設ケ支辨スヘシ

○監獄則ニ依リ處分ノ貨物精算報告方 内務省訓令第三十五號 廳府縣集治監假留監

監獄則第二十四條ニ依リ處分シタル貨物ハ毎年四月三十日限リ前一週年度ノ收支精算書ヲ調製シ當省ヘ報告スヘシ

○沖繩縣人民ノ徒流刑ニ處セラレタルモノノ發配所 太政官達第四號 官省院廳府縣

沖繩縣人民ニ限リ徒流刑ニ處セラレタルモノハ同縣下八重山島ニ發配スルヲ得ヘシ此旨相達候事

但囚人取扱方ハ慣舊ニ因リ沖繩縣令之ヲ管理スヘシ

○懲治場ニ留置セシ者假出獄規則ヲ定ム 内務省令第二十四號

刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ依リ懲治場ニ留置セラレタル者ニシテ獄則ヲ謹守シ改後ノ狀アルトキハ警視總監北海道廳長官府縣知事ハ左ノ規則ニ據リ假ニ出場ヲ許スコトヲ得

假出場規則

第一條 假出場ヲ許スヘキ者アルトキハ典獄ヨリ其長官ニ狀ヲ具シテ認可ヲ受ク可シ

第二條 假出場ヲ許シタルトキハ典獄ヨリ其證票ヲ本人ニ下付ス可シ

第三條 假出場證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

- 一 本人ノ屬籍氏名年齢住所懲治期限及ヒ宣告并ニ滿期ノ年月日
- 一 殘期何年何月何日 何年何月何日起
- 一 本日出場ヲ許スニ由リ住居ノ地ニ歸着ノ上ハ即チ所轄警察署ニ其旨ヲ届出ツ可シ
- 一 毎月一回謹慎ヲ衷スル爲メ所轄警察署ニ到リ假出場證票ヲ出シ警察官吏ノ認印ヲ受ク可シ但已ムヲ得サル事故アレハ其事由ヲ届出可シ
- 一 一日程ヲ過クル地ニ旅行スルトキハ其行先並往復滞在日數等ヲ詳記シ所轄警察署ニ届出可シ但シ其滞在一月以上ニ滞ルトキハ一箇月毎ニ其滞在地ノ警察署ニ到リ前項ノ手續ヲナス可シ
- 一 事故アリテ其住居ヲ轉スルトキハ所轄警察署ニ届出ツ可シ
- 一 第三項以下ノ事ハ本人自ラ爲ス能ハサル場合ニ於テハ親屬故舊代リテ之ヲ爲スコトヲ得
- 一 右ノ各項ニ違背シタルトキハ直チニ出場ヲ停止シ出場中ノ日數ヲ懲治期限内ニ算入スルコトヲ得

○罰金ヲ輕禁錮十日以下ニ換ヘタル時警察署附屬ノ留置場ニ於テ執行方 十七年七月十日

兩省達第三拾四號 警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

第十九類 第一章 監獄

罰金ヲ輕懲罰ニ換ヘタル場合ニ於テ其日數十日以下ナル時ハ拘留ノ例ニ依リ警察署附屬ノ留置場ニ於テ執行スルコトヲ得ル儀ト心得可シ此旨相達候事(刑法第二十條參看)

○看守及監獄傭人分掌例

二十二年六月二十六日
內務省訓令第二十九號
總府縣集治監假留監

看守及監獄傭人ノ分掌例左ノ通改ム

第一章 看守ノ職務

- 第一條 晝夜交番シテ警守受持場ヲ巡警スヘシ
- 第二條 看守長若クハ看守副長ノ立會ヲ受ケ在監人員ノ點檢ヲ爲スヘシ
- 第三條 看守長若クハ看守副長ノ立會ヲ受ケ監房ヲ檢査シ其常置器具等ヲ點檢スヘシ
- 第四條 在監人ノ郷貫、氏名、年齢、罪質、刑名等ヲ記憶スルハ勿論日々ノ行狀ヲ視察シ其事項ヲ手帳ニ詳記シ看守長若クハ看守副長ノ檢閱ニ供スヘシ
- 第五條 在監人ノ役業ヲ督勵シ其科程ノ了否ヲ點檢スヘシ
- 第六條 服役者ニシテ其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ又ハ器具等ヲ交換シ或ハ漫リニ部外ノ工場ニ到ルカ如キ所爲ナカラシムヘシ
- 第七條 新ニ入監スルモノアルトキハ其身體衣服ヲ搜檢スヘシ其入監後監房ヲ出入スルトキモ亦同シ
- 第八條 監門ヲ守リ其出入者ニ注目シ漫リニ通行セシムヘカラス
- 第九條 監房ノ開閉ヲ掌リ其鎖否ヲ點檢スヘシ
- 第十條 工場、器械庫其他ニアル物件排列ノ整否ヲ注視シ器具等ノ散失ナキ様嚴密取締ヲ爲スヘシ

爲スヘシ

- 第十一條 炊場、浴場等ヲ巡視シ火災ノ虞ナキ様嚴密取締ヲ爲スヘシ
- 第十二條 獄則違犯者又ハ應禁物藏匿等アルコトヲ認知シタルトキハ嚴密ニ取糺シ其證據ヲ明舉シテ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ
- 第十三條 密室監禁者及屏禁、闇室、獨愼者ノ動靜ハ特ニ之ヲ視察シ其狀況ヲ看守長若クハ看守副長ニ具申スヘシ
- 第十四條 戒具ハ日々點檢シ不時ノ使用ニ支障ナカラシムヘシ
- 第十五條 食物ノ配與、獄衣其他給與品及差入品等ノ受渡ニ立會ヒ不正不良ノ所爲ナカラシムヘシ
- 第十六條 在監人ノ接見及教誨ノ席ニ立會ヒ其舉動ヲ注視スヘシ
- 第十七條 病者ノ醫治ニ立會ヒ其舉動ヲ注視スヘシ
- 第十八條 在監人中ニ急發病者アルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ
- 第十九條 水火風震等非常ノ變災ニ際シテハ最モ取締ヲ嚴ニシ在監人ヲ避ケシムルノ準備ヲナシ上官ノ指揮ヲ待ツヘシ
- 但事急遽ニ出テ上官ノ指揮ヲ待ツノ違ナキトキハ救護ノ爲メ一時房外ニ出スコトヲ得
- 第二十條 反獄逃走等アルトキハ非常ノ合圖ヲ爲シ直ニ鎮壓捕獲ノ手配ヲナスヘシ此場合ニハ直ニ上官ニ報告スヘシ
- 但事急遽ニ出テ擱キ難キトキハ直ニ追跡スルコトヲ得

第二十一條 在監人ノ頭髮、身體、衣服ニ注目シ若シ垢染破損セシ等ノモノアルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

第二十二條 監房、炊場、浴場、厠、工場等ノ掃除ニ立會ヒ不潔ナカラシムヘシ

第二十三條 押丁、授業手ノ在監人ニ接スル狀態ヲ視察シ若シ相狃ル、モノアルヲ認ムルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

第二十四條 監内ノ異狀ヲ見聞スルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ押丁ヨリ報告又ハ在監人等ヨリ密告ヲ得タルトキモ亦同シ

第二十五條 在監人ノ押送ヲ掌リ其押送中ハ在監人ノ路人ト聲語シ又ハ之ヲ侮笑シ又ハ歩行ヲ紊シテ行人ヲ妨クル等不都合ノ所爲ナカラシムヘシ

第二十六條 在監人ヨリ願訴ヲ爲サントスル者アルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ若シ封書ヲ出ストキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ致スヘシ

第二十七條 文字ヲ書スル能ハサル在監者ノ爲メニ願訴ノ書面ヲ代書シ且之ヲ本人ニ讀ミ聽スヘシ

第二章 教誨師ノ職務

第二十八條 典獄ノ指揮ヲ受ケ専ラ已決囚及懲治人ノ教誨ニ從事シ又懲治人及十六歲未満ノ已決囚ニ讀書、算術、習字等ノ學科ヲ教授スヘキモノトス

第二十九條 新ニ入監スル已決囚若クハ懲治人アルカ又ハ賞表ヲ受クヘキ者アルトキハ其者ニ對シ特ニ教誨ヲ爲スヘシ其出獄スルトキモ亦同シ

第三十條 在監人ノ起居、動靜、勤怠及其行狀ノ良否ハ時々其狀ヲ具シテ典獄ニ報告スヘシ

第三十一條 監房ヲ巡迴シ修身齊家ノ講談ヲ爲シ又揭示條項等ヲ解説スヘシ

第三十二條 懲治人ノ就學、年月、卒業ノ科目、學業ノ優劣等ヲ簿冊ニ記載シ典獄ノ檢閱ニ供スヘシ

第三十三條 在監人ノ賞罰ニ付典獄ヨリ意見ヲ問フコトアルトキハ之ニ報答スヘシ

第三十四條 獄則處分ヲ受ケ受罰中ノ者アルトキハ其居所ニ就キ教誨ヲ加ヘ又其狀況ヲ視察シテ典獄ニ報告スヘシ

第三十五條 受罰者ニシテ改悛ノ狀顯著ナルヲ認知セシトキハ典獄ニ具狀スヘシ

第三十六條 授學上及教誨上ニ要スル書籍、器具等ヲ管理シ散失破損セサル様注意スヘシ

第三十七條 特赦、免幽閉、假出獄、假出場、假免懲罰ノ言渡又ハ賞表授與式ニ立會フヘシ

第三章 醫師ノ職務

第三十八條 典獄ノ指揮ヲ受ケ在監人ノ疾病ヲ診察治療シ醫治ニ關スル一切ノ事務ニ從事スヘキモノトス

第三十九條 常ニ監内一般ノ衛生事項ニ注目シ其方法ヲ考究シテ意見ヲ典獄ニ具申スヘシ若シ衛生上ニ關スル事項ニ付典獄ヨリ諮問ヲ受ケタルトキハ之ヲ詳查シテ報答スヘシ

第四十條 在監人ヲ診斷シタルトキハ其氏名、病性、徵候、治否、及處方ヲ調治簿ニ詳記シ典獄ノ檢閱ニ供スヘシ

第四十一條 已決囚新ニ入監スルハ其體質ヲ檢査シ其體質ノ強弱等ヲ典獄ニ具申スヘシ

第四十二條 各監房及工場等ヲ巡迴シ在監人ノ飲食物及衣類等ヲ注視シテ衛生上ニ害アリト認ムル事アルトキハ改良ノ意見ヲ典獄ニ具申スヘシ

第四十三條 流行病及傳染病發生ノ兆アルカ又ハ該患者アルトキハ直ニ典獄ニ稟議シ其病症及感染ノ形狀ヲ詳悉シ豫防消毒ヲ施行スヘシ

第四十四條 減食又ハ閤室等ノ懲罰ニ處セラルヘキモノヲ診察シ其身體ニ妨ケナキヤ否ヤヲ詳記シ其證明書ヲ典獄ニ差出スヘシ

第四十五條 在監人中ニ急發病者アルノ報知ヲ受ケタルトキハ直ニ其居所ニ就キ診察治療スヘシ

第四十六條 服役スヘキ囚徒ノ疾病快復スルトキハ其堪ユヘキ役業ノ種類ヲ指定シ典獄ニ具申スヘシ

第四十七條 患者攝生ノ爲メ特別ノ衣食物品等ヲ要スルトキハ事由ヲ詳記シ典獄ニ具申スヘシ

第四十八條 施療上危險ノ恐アル手術ヲ施ストキハ其旨ヲ典獄ニ具申シテ許可ヲ受クヘシ

第四十九條 患者癡篤疾若クハ危篤ニ至レハ診斷書ニ處方箋ヲ添ヘ之ヲ典獄ニ差出スヘシ

第五十條 在監人中病死又ハ變死シタルモノアルトキハ典獄竝ニ看守長ト俱ニ驗屍シ其死亡ノ原由及病症死狀等ヲ詳記シ死亡證書又ハ檢案書ヲ添ヘ之ヲ典獄ニ差出スヘシ

第五十一條 患者若シ死後ニ解剖ヲ請フモノアルトキハ速ニ之ヲ典獄ニ具申スヘシ

第五十二條 在監人中作病ヲ構ヘ診察ヲ乞フモノアルトキハ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

スヘシ

第五十三條 差入飲食物アルトキハ之ヲ検査シ其可否ヲ典獄ニ具申スヘシ

第五十四條 看病者ノ適否ヲ監視シ意見アルトキハ直ニ典獄ニ具申スヘシ

第五十五條 醫療器械竝ニ書籍等ヲ管理シ散失破損セサル様注意スヘシ

第五十六條 患者ノ日表及月表ヲ製シ典獄ノ檢閲ニ供スヘシ

第五十七條 看守押丁志願者ノ體格ヲ検査スヘシ

第四章 女監取締ノ職務

第五十八條 看守長ノ指揮ヲ受ケ女監ノ戒護其他婦女ノ取締ニ關スル一切ノ事務ニ從事スルモノトス

第五十九條 監守ノ職務第一條乃至第二十四條及第二十六條第二十七條ハ本職ニモ之ヲ適用ス

第六十條 病監ニ於テ治療中ノ未決患者ヲ看護スヘシ

第六十一條 作業器械及素品製品ノ受渡ヲ爲スヘシ

第五章 押丁ノ職務

第六十二條 看守ノ助手トナリ新ニ入監スル者ノ身體衣服ヲ搜檢スヘシ入監後監房ヲ出入スルトキモ亦同シ

第六十三條 看守ノ指揮ヲ受ケ監外押發ノ在監人ニ戒具ヲ施シ又ハ控繩戒護ニ從事スヘシ

第六十四條 死刑者アルトキハ上官ノ指揮ヲ受ケ其執行方ニ従事スヘシ

第十九類 第一章 看守監獄備人

第六十五條 看守ノ助手トナリ監房ノ検査ヲ爲スヘシ

第六十六條 看守ノ指揮ヲ受ケ監門及監房戸扉ノ開閉ヲ爲スヘシ

第六十七條 看守ノ立會ヒヨ受ケ食物ノ配與、獄衣其他給與品及差入品ノ受渡ヲ爲スヘシ

第六十八條 上官ノ指揮ヲ受ケ病監ニ於テ治療中ノ未決患者ヲ看護スヘシ

第六十九條 上官ノ指揮ヲ受ケ刑死者及死亡者ノ死體取片付方ニ從事スヘシ

第七十條 看守ノ立會ヒヨ受ケ作業器械及素品製品ノ受渡ヲ爲スヘシ

第七十一條 工場内其他ニアル諸器具其他ノ物件ヲ排列シ看守ノ點檢ニ供スヘシ

第七十二條 獄具及消防具等ヲ看守シ毀損紛亂セサル様注意スヘシ

第七十三條 在監人ノ頭髮身體衣服ニ注目シ若シ垢染破損セシ等ノモノアルトキハ直ニ看守ニ申告スヘシ

第七十四條 獄則違犯者又ハ應禁物藏匿等アルト認知シタルトキハ直ニ看守ニ申告スヘシ

第七十五條 監内ニ異狀アルトキハ直ニ之ヲ上官ニ申告スヘシ在監人ヨリ密告ヲ得タルト

キモ亦同シ

第七十六條 在監人ノ行狀ノ良否ヲ認知シタルキハ之ヲ手帖ニ記シ置キ看守ニ申告スヘシ

第七十七條 炊場、浴場等ニ於テハ火災ノ虞ナキ様注意スヘシ

第六章 授業者ノ職務

第七十八條 工業掛員ノ指揮ヲ受ケ農業工業等ヲ教授スヘシ

第七十九條 受業囚ヲ督勵シ科程ノ了否ヲ注視スヘシ

第八十條 授業上ニ要スル器械雜具ヲ整理シ取扱上及保存方ニ注意スヘシ

第八十一條 役業ノ科程及工錢料定上ニ付テハ意見ヲ工業掛ニ開申スヘシ

第八十二條 役業ノ廢設及改良方ニ付意見アルトキハ之ヲ典獄ニ具申スヘシ

第八十三條 役業ヲ怠ルカ又ハ指導ニ從ハサルモノアルトキハ速ニ看守長ニ申告スヘシ

第八十四條 器具ノ新調及修繕ヲ要スルトキハ其買入又ハ修繕方ヲ工業掛ニ申立ツヘシ

第八十五條 毎月受業囚ノ勤怠及技藝ノ優劣進否等ヲ調査シ之ヲ看守長ニ具申スヘシ

○看守長看守ニ帶劍ヲ許ス 十四年三月十八日 太政官達第十八號 警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

監獄看守長看守ニ爲取締帶劍可爲致此旨相達候事

但劍制ハ適宜タルヘシ

○看守被服及帶劍給貸並保存期限 十四年四月十五日 內務省達し第二十一號 警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

本年第十七號第十八號ヲ以テ看守被服及ヒ帶劍之儀御達相成候ニ付テハ被服ハ適宜保存期限ヲ定メ給與シ帶劍ハ貸與候儀ト可相心得此旨相達候事

○監獄署押丁給與品ヲ定ム 十四年三月三十日 內務省達し第十七號 警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

集治監監獄署押丁給與品左ノ通相定候條此旨相達候事

一笠 段頭 晴雨 共用

一筒袖法被 色紺地 質木綿

一股引 同上

一雨衣 桐油 色黒

一 縛繩
一手帖
一 呼子笛

○集治監假留監典獄書記看守長獄醫旅費支給方ヲ定ム 二十年二月十八日 內務省訓令第十號集治監假留監
集治監及假留監官制被定候ニ付テハ典獄訓典獄書記看守長監獄醫ノ旅費ハ明治十九年六月閣令第十四號內國旅費規則ニ據
リ官等相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

○集治監假留監看守人員及俸給ヲ定ム 二十三年十月十日 勅令第二百二十八號
朕集治監假留監看守人員及俸給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二百二十八號

集治監假留監看守ノ人員及俸給ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 看守ノ人員ハ在監人五百名ニ付七十五名トス
但三池集治監及北海道ニアル各集治監ニハ此定員ノ外五十名以下ノ看守ヲ増置
スルコトヲ得
- 二 在監人五百名ヲ超ユルトキハ百名ヲ増ス毎ニ看守十名ヲ加ヘ五百名ニ滿タサルト
キハ百名ヲ減スル毎ニ看守十名ヲ減ス
- 三 看守人員ノ増減ヲ行フハ在監人ノ員數ニ百名ノ差ヲ生シタルトキニ於テスヘシ

四 看守俸給ハ月俸拾圓以下六圓以上トス但勤續滿九年以上ノ者ハ拾貳圓滿十二年以
上ノ者ハ拾五圓ヲ給スルコトヲ得

五 在監人ノ減少ニ由リ過員トナリタル看守ハ休職ヲ命シ現俸ノ三分一ヲ給スルコト
ヲ得但休職ハ一年ヲ期トス期滿ツレハ其職ヲ免ス

○府縣看守俸給ノ件 二十三年十月十日 勅令第二百二十九號

朕府縣看守俸給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二百二十九號

勅令第二百二十八號集治監假留監看守人員及俸給ノ件中俸給及休職ニ關ル規定ハ廳府縣
看守ニモ適用ス

- 看守押丁賞與方 上卷第四類第一
一章ニ載ス
- 巡查看守精勤證書授與規則 上同
- 警部消防指令看守長等官等俸級改正 上同
- 巡查看守俸給支給規則 上同
- 巡查看守給助令 上同
- 巡查看守給助條例施行前二年以上在職者退職ノ時慰勞金支給方 上同
- 巡查看守給助例第二條第一項勤續割註心得方 上同

- 巡查看守給助施行期限(上同)
- 巡查看守給助例中年金支給方(上同)
- 警察官吏司獄官吏内國旅費概則(上同)
- 警察官吏等官船へ乗込出張ノ節食卓料支給方(上同)

第二章 囚人

○囚人護送手續十五年二月一日
大政官達第十號内務省開拓使警視廳府縣(東京府ヲ除ク)
 明治六年^{十一月}第三百九十一號並同十年^{七月}第四十九號ヲ以テ囚人護送規則及ヒ遞傳方相達置候處今般更ニ別冊ノ通囚人護送遞傳方改正シ本年七月一日ヨリ施行候條從前達中矛盾ノ廉ハ同日限り廢止ス此旨相達候事
 (別冊)

囚人護送手續

- 第一條 甲廳ヨリ乙廳又ハ集治監へ送移スル囚人ハ囚籍及ヒ處刑宣告書所持ノ物品ヲ併セ沿道警察本分署ニ於テ遞傳護送スヘシ
 但一府縣管内本支監獄ノ間ニ護送スル囚人モ其距離拾里以外ニ至ルモノハ本文ニ準スルヲ得
- 第二條 新タニ就捕セシ犯罪人及ヒ諸令狀ニ據リ引致スル刑事被告人又ハ脫走ノ軍人軍屬ノ遞傳護送ヲ要スル者モ前條ノ手續ニ準スヘシ
 但入監後糾問等ノ爲メ所在ノ法衙ニ往復スルハ本條ノ限ニ在ラス
- 第三條 第一條第二條ノ護送ニ付スル囚人ノ員數及ヒ發出日時ハ其當該官吏ヨリ前以テ沿道警察本分署へ遞報スヘシ
- 第四條 護送囚人ノ數ハ一行拾名以下トス護送警吏及ヒ繩取ノ人員ハ適宜タルヘシ

但便利海路ニ依ルトキハ適宜囚人ヲ増加スルヲ得

第五條 遞傳護送ハ日出ヨリ日没マテヲ限トス

第六條 警察本分署ニ於テハ護送囚人ノ郷貫氏名刑名又ハ犯罪見込書ノ要領及著發日時ヲ記載シ置クヘシ

第七條 護送ノ囚人ハ沿道警察本分署ニ宿セシムヘシ若シ支障アルトキハ該地戸長ニ照會シ宿所ヲ定メ適宜取締ヲナスヘシ

第八條 護送途中囚人病發スルトキハ沿道警察本分署ニ付シ治療スヘシ若シ死去スルトキハ該地戸長ニ埋葬ヲ囑シ引取人アル者醫師ニ死去證書ヲ作ラシメ戸長及ヒ護送警吏連印シ書類物品ヲ併セ送達スヘキ衛署ニ遞付シ仍ホ發出衛署ニ報知スヘシ

第九條 護送途中囚人逃亡スルトキハ先ツ緝捕方ヲ最寄警察本分署ニ報告シ仍ホ發出衛署及ヒ達スヘキ衛署へ報告スヘシ

但第八條及ヒ本文ノ手續ヲ爲スタメ他囚護送ヲ遲緩ス可ラス若シ速ニ手續ヲ了シ難キ場合ハ最寄警察本分署ノ助力ヲ請フコトヲ得

第十條 遞傳護送スル警察官吏ノ旅費ハ都テ沿道地方ノ警察費ヲ以テ支辨スヘシ但繩取ノ雇給ハ第十一條第十二條ノ區別ニ依リ囚人ニ屬スル費用中ニテ支辨スヘシ

第十一條 第一條ニ掲クル囚徒ニ屬スル護送中ノ費用ハ明治十四年第十七號布告ニ依リ區分シ集治監ニ送ルトキハ沿道府縣ノ仕拂ニ立テ其他ハ出發府縣ノ監獄費ヨリ支拂フヘシ

第十二條 第二條ニ掲タル各犯人ニ屬スル護送中ノ費用ハ沿道地方警察費ヲ以テ支辨スヘシ

第十三條 護送囚人死没シ引取人ナキモ其所持金錢物品埋葬費ニ足ルモノアル者及陸軍隊付下士卒海軍下士卒ノ埋葬費ハ第十一條第十二條支辨ノ限ニアラス尤其費額ハ都テ拾圓以内タルヘシ但下士卒ノ分ハ追テ陸軍省海軍省ヨリ各自ニ拂戻スヘシ(十五年第六十八號公達ヲ以テ全條改正)

第十四條 遞傳ニ係ル囚人犯罪人ノ贖費額ハ警察本分署ニ於テハ都テ拘留人ノ例ニ依ルヘシ他ニ宿泊セシムルトキハ一宿ニ賄臥具點燈手數料ヲ併セテ金貳拾五錢以下一晝食金七錢以下藥價診察料等ハ實費支辨スヘシ

○集治監ニ入ルヘキ囚徒並ニ其費用區分方ヲ定ム十四年三月八日 布告第十七號

集治監ニ入ルヘキ囚徒並ニ其費用ノ區分當分ノ内左ノ通相定メ本年七月ヨリ施行候條此旨布告候事

第一條 集治監ニ入ルヘキ囚徒ハ刑期終身ノ者及ヒ國事犯罪期五年以上ノ者トス其費用府縣獄ニ拘留中ノ費用并ニ集治監ニ押送ノ費用トモハ國庫ヨリ支給スヘシ(地方稅規則第三條 十八十九項參看)

第二條 府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ費用ハ其刑ヲ宣告セシ地方ノ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

○已決囚ニ係ル經費區分實地取計方十四年七月二十一日 內務大藏兩省達シ第三十四號警視廳府縣沖繩縣ヲ除ク

本年第十七號公布ヲ以テ已決囚ニ係ル經費區分等被定候ニ付テハ實地取計方左ノ通可心得此旨相達候事
一豫算ヲ以テ受入レタル監獄費中國庫金ト地方稅トハ混一シテ諸費(懲役人ノ諸費)ヲ任附置每一ヶ月囚員ノ延數ニ照シ平均ヲ以テ一囚若干ノ費金タルヲ算出シ而シテ刑期終身ノ者ト國事犯五年以上ノ者ト延人員ニ乘シタル金額ヲ以テ國庫費ノ支出ニ可取計事

但臨時加給療養費埋葬費寫眞費移轉費ノ如キ惣囚ニ關ラサル費項ハ其囚員限リノ平均ヲ以テ算出スヘシ
一府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ハ經費モ前項ノ例ニ依リ地方稅支出方可取計事

○集治監ニ入ルヘキ囚徒ノ費用管理方 十四年九月一日
本年第十七號公布ニ係ル費用ハ當省ニ於テ管理候條該布告第一條國庫下附金ハ當省ヨリ可下渡候ニ付以後豫算帳及ヒ決算帳等簿ニ當省ヘ可差出第二條地方稅受拂方ハ集治監ニ於テ直ニ爲取扱候條此旨相達候事

○在府縣獄囚徒費小科目流用方 十五年十月十四日
內務省達シ第五十二號警視廳府縣(東京府北海道三縣沖繩縣ヲ除ク)

在府縣獄囚徒費小科目(獄署費已決囚)彼此流用支辨セントスルトキハ當省ヘ伺出候儀ト可相心得此旨相達候事
但本件伺出候節ハ金員任譯書添付スヘシ

○監獄不用品賣拂代金看守罰俸等國庫地方稅收入區分方 十六年九月二十七日
內務省達シ第三十八號集治監(樺戸空知三池ノ三監ヲ除ク)府縣(東京府及沖繩函館札幌根室ノ四縣ヲ除ク)
國庫下付金及地方稅受ケ入レ金ヲ以混一ノ上罪囚ノ刑期ニ區分シ十四年內務大藏兩省達シ第三十四號計算法ニ照據購入セシ監房常置ノ器具ヲ始メ戒具雜具等不用品賣拂代金及看守罰俸金等納入方ノ儀國庫地方ノ區分計算ニ據ラス十五年度以降集治監ニ生セシモノハ總テ國庫ヘ收入シ警視廳及府縣ニ生セシモノハ地方稅ヘ收入セシメ候條此旨相達候事

○在府縣獄囚徒費取扱方 十七年六月十二日
內務省達シ第貳拾九號警視廳府縣(沖繩縣北海道三縣ヲ除ク)

在府縣獄囚徒費取扱方左ノ通改定候條十七年度ヨリ施行スヘシ此旨相達候事
但十四年七月內務大藏兩省達シ第三十四號同年九月達シ第四拾貳號十五年十月達シ第五拾三號之達ハ十六年度限リ廢止ス
一集治監ニ入ルヘキ囚徒ニシテ府縣獄ニ在ル者檢束衣食一切(從前ノ獄署費已決囚)諸費管轄費ノ費用トシテ一囚一日ニ付金貳拾錢ヲ交付スヘシ
但朝夕出入アルモ各一日ヲ以テ計算スヘシ
一十四年十月達シ第五十三號達之内現員表ハ差出ニ不及前々年度中宣告濟人員ニヨリ左ノ科目表ニ照據豫算帳調整定期ノ通差出スヘシ
但十七年度分ハ差出スニ及ハス

(科目表略之)

○輕罪控訴被告人ニ係ル拘禁中ノ諸費支辨方 二十三年十月三十一日
內務省令第五號
重罪輕罪ノ公訴ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合又ハ上告ニ由リ他ノ裁判所ニ移スノ言渡アリタル場合ニ於テ被告人拘禁中ノ費用竝ニ裁判確定ノ後囚人ニ係ル費用ハ總テ最前裁判言渡アリタル地方ノ監獄費ヲ以テ支辨シ其費額ハ一人一日金二十錢トス
但裁判確定後ノ囚人ハ汽車又ハ汽船ニ依リ最モ押送ニ便ナル地方ニ在テハ原地方廳ノ請求ニ依リ送還スルコトヲ得此場合ニ於テハ護送官吏ノ旅費及囚人ニ屬スル費用ハ請求地方ノ負擔トス

○陸海軍軍法會議ニ於テ處斷ヲ受ケタル囚徒ノ費用支辨方 十九年一月二十九日
內務省達甲第一號警視廳府縣
陸海軍軍法會議ニ於テ輕重懲役及ヒ劊官ヲ附加シタル禁錮ノ刑若クハ普通刑法ニ依リ懲役禁錮ノ處斷ヲ受ケ官職ヲ失ヒ軍籍ヲ除カレタル囚徒ニ係ル費用ハ來ル二十年以後軍法會議所在地方ノ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ
但從前陸海軍軍律ニテ處斷セラレタル囚徒ニ係ル費用ハ明治十四年三月第十七號公布ニ依リ區分シ陸海軍刑法ニテ徒刑流刑禁獄ノ刑ニ處セラレタル費徒ニ係ル費用ハ國庫費ヨリ支辨スヘキ儀ト心得ヘシ

第十九類 第二章 囚人

右相達ス

○在府縣獄囚徒費用交付金地方稅編入方二十一年九月二十九日內務省訓令第十九號警視廳府縣沖繩縣ヲ除ク
明治十七年本省七第二十九號達ニ據リ集治監ニ入ルヘキ囚徒ニシテ府縣獄ニ在ル者ノ費用トシテ交付スル金額ハ府縣會
ノ議決ヲ經地方稅ノ收入支出ニ編入スルコトヲ得

●沿革要領

明治六年十一月第三百九十一號達ヲ以テ囚人護送規則ヲ定ム○八年五月第七十八號達ヲ以テ囚人護送途中賄料草鞋
錢等官費支給セシム○十年七月第四十九號達ヲ以テ脱走ノ軍人軍屬其他ノ囚徒自今沿道警察署ニ於テ護傳護送セシ
ム○十五年二月第拾號達ヲ以テ囚人護送手續ヲ定メ其護傳方ヲ改正シ從前ノ達中矛盾スルモノハ廢止トス

本日規則全書下卷 終

本日規則全書追録

第一類

第一章 法例 公文式 官報 訴願

○廳府縣令ニシテ司法事務ニ關係スルモノハ發布ノ都度司法省并ニ

裁判所ニ報告方二十四年五月一日

廳府縣ニ於テ發布スル廳府縣令ハ其司法事務ニ關係スルモノニ限リ發布ノ都度當省ヘ報告シ且ツ其管內ニ在ル地方裁判

所區裁判所及ヒ其地ヲ管轄スル控訴院ヘ報告スヘシ

但明治十五年四月司法省丙第十五號達ハ廢止ス

第二類

第一章 府縣制 郡制 郡區町村編制

○府縣歲入歲出豫算調製式並ニ費目流用規程設置二十四年八月一日

府縣制第七十五條第三項ニ依リ府縣歲入歲出豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ノ規定ヲ設ク

第一條 府縣歲入歲出豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分シ第一號ノ式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 歲入歲出豫算ニハ府縣會參考ノ爲各項ヲ各目ニ區別シ各其豫算ノ基ク所ヲ詳記シタルモノヲ添付スヘシ

第三條 數年繼續費 府縣制第七十ノ年期及支出方法ハ第二號ノ式ニ依ルヘシ

第一類 第一章 法例 郡制

夫役現品ヲ増課 府縣制第七十三條

第四條 歳入歳出中更ニ科目ヲ設クルコトヲ要スルトキ其款項ハ此書式ニ依準スルモノトス

第五條 各款ノ金額ハ彼此流用スルヲ得サルモノトス

各項目ノ豫算金額ニシテ不得止流用ヲ要スルノ必要アルトキハ府縣參事會ノ決議ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第六條 市制施行ノ縣ニ在テ府縣制第七十二條第一項ノ負擔ニ任セシメ及同條第二項ニ依リ一方ノ負擔ノ増加スル場合ハ第一號書式中へ第四號ノ式ノ如ク之レヲ記載スヘシ

第七條 東京府京都府大阪府ニ在テハ府縣制第二十七條第一項ニ依リ專ラ東京市京都市大阪市ニ關スルモノト專ラ其他ノ部分ニ關スルモノトヲ分別スルトキ府縣制第七十一條ノ豫算ハ第一號書式ニ基キ第五號ノ式ノ如ク之レヲ調製シ其市部限リ郡部限リノ豫算ハ第一號書式ニ準シ第六號第七號ノ式ノ如ク之レヲ記載スヘシ

第八條 府縣ノ歳入歳出中會計ヲ異ニスルモノ、豫算モ總テ本令ノ式ニ準シテ之ヲ調製スヘシ

附則

第九條 年度央ニ於テ府縣制ヲ施行シタル府縣ニ在テ明治二十三年法律第八十五號第三條ニ依リ從前府縣會ノ議決尚其效ヲ存シタル各款ニ於テ從前ノ小科目ニシテ本令書式ノ項ト名稱ノ異ナルモノ又ハ消滅ニ歸シタルモノハ其細目ニ就キ金員ヲ區別シ各相當ノ項ニ編入整理スヘシ

第十條 第九條ニ依リ組替ヲ爲シタルモノハ府縣會ニ報告スヘシ

(第一號)

明治何年度某府縣歳入歳出豫算書

歳入

經常部

第一款 地租 割金

第一項 地租 割金

但本年地租豫算高金若干地租壹圓ニ付若干

第二款 管業 稅金

第一項 商業 稅金

第二項 工業 稅金

第三款 雜種 稅金

第一項 料理屋 稅金

第二項 待合茶屋 稅金

第三項 遊船宿 稅金

第四項 芝居茶屋 稅金

第五項 飲食店 稅金

第六項 湯屋 稅金

第七項 理髮人 稅金

第八項 傭人請宿 稅金

第九項 遊藝師匠 稅金

第十項 遊藝家 稅金

第十一項 相撲 稅金

第十二項 俳優 稅金

第十三項 雜間 稅金

第十四項 藝妓 稅金

第二類 第一章 府縣制 郡制

第十五項	市	場	稅	金
第十六項	演	劇	稅	金
第十七項	興	行	稅	金
第十八項	遊	覽	稅	金
第十九項	遊	藝	稅	金
第二十項	人	寄	稅	金
第二十一項	船	技	稅	金
第二十二項	車	席	稅	金
第二十三項	水	場	稅	金
第二十四項	乘	所	稅	金
第二十五項	屠		稅	金
第二十六項	漁		稅	金
第二十七項	採		稅	金
第二十八項	某		稅	金
第四款	戶	數	割	金
第一款	家	屋	稅	金
第五款	家	屋	稅	金
第一款	家	屋	稅	金

但何年何月調總戶數若干壹戶ニ付若干
(許可ヲ得タル縣ニ限ル)
但云々

第六款	財	產	收	入	金
第一款	不	動	產	收	入
第二款	動	產	收	入	金
第七款	國	庫	下	渡	金
第一款	警	察	費	下	渡
第二款	在	府	縣	獄	囚
第八款	雜	收	入	金	
第一款	請	願	巡	查	費
第二款	懲	罰	及	沒	收
第三款	使	用	料	金	
第四款	藥	價	及	入	院
第五款	診	察	及	手	術
第六款	授	業	料	金	
第七款	物	品	賣	拂	代
第八款	囚	徒	工	錢	收
第九款	慈	惠	用	(物	品
第十款	作	業	益	收	入
第十一款	賦	金	收	入	金
第十二款	某	收	入	金	

經常部合計金
第二類 第一章 府縣制 郡制

臨時部

第一款 繰越金

第二款 國庫補助金

第一款 某費補助金

第二款 某費補助金

第三款 寄附金

第一款 某費寄附金

第二款 某費寄附金

第四款 財產賣拂代金

第一款 不動產賣拂代金

第二款 動產賣拂代金

第五款 府縣債

第一款 府債

第二款 縣債

臨時部合計金

歲入總計金

歲出

經常部

第一款 警察費

第一款 俸給及諸給金

第二款 廳費

第三款 機密費

第二款 警察廳舍修繕費

第一款 修繕費

第三款 土木費

第一款 道路橋梁費

第二款 治水堤防費

第三款 港灣費

第四款 測量費

第四款 府縣會議諸費

第一款 府縣會議費

第二款 府縣參事會諸費

第五款 衛生及病院費

第一款 衛生諸費

第二款 某病院費

第三款 檢驗費

第六款 教育費

第一款 尋常師範學校費

第二款 某學校費

第三款 學事諸費

第二類 第一章 府縣制郡制

- 第七款 郡廳舍修繕費 金
- 第八款 郡吏員給料旅費及廳中諸費 金
- 第一項 俸給及諸給 金
- 第二項 廳費 金
- 第九款 救育費 金
- 第一項 救助費 金
- 第十款 難破船諸費 金
- 第一項 難破船費 金
- 第十一款 諸達書及揭示諸費 金
- 第一項 令達諸費 金
- 第十二款 勸業費 金
- 第一項 勸業會費 金
- 第二項 地方測候所費 金
- 第三項 勸業諸費 金
- 第十三款 府縣稅取扱費 金
- 第一項 徵收費 金
- 第二款 金庫諸費 金
- 第十四款 府縣廳舍修繕費 金
- 第一項 修繕費 金

- 第十五款 府縣監獄費 金
 - 第一項 俸給及諸給 金
 - 第二項 廳費 金
 - 第三項 在監人諸費 金
 - 第四項 工業諸費 金
 - 第十六款 府縣監獄修繕費 金
 - 第一項 修繕費 金
 - 第十七款 衆議院議員選舉費 金
 - 第一項 選舉費 金
 - 第十八款 府縣吏員費 金
 - 第一項 吏員費 金
 - 第二項 委員費 金
 - 第十九款 財產費 金
 - 第一項 維持費 金
 - 第二項 管理費 金
 - 第二十款 豫備費 金
 - 第一項 豫備費 金
- 經常部合計金
- 臨時部
- 第一款 土木費 金
 - 第二款 第一章 府縣制 郡制

- 第一項 道路橋梁費 金
- 第二款 郡市町村土木補助費 金
- 第一項 道路橋梁費補助 金
- 第二項 治水堤防費補助 金
- 第三款 郡市町村教育補助費 金
- 第一項 某學校費補助 金
- 第四款 某費本年度支出額 金
- 第一項 某費ノ内某費本年度支出額 金
- 第五款 府縣債費 金
- 第一項 元金償還 金
- 第二項 府縣債利子 金
- 第三項 雜費 金
- 臨時部合計金
- 歳出總計金

明治何年何月何日提出

某府縣知事 氏 名印

(第二號)

自明治何年度某府縣某費繼續年期及支出方法
至同何年度 某費中 某費

一金

内譯

明治何年度支出額 同 何年度支出額

右云々(議決ヲ要スヘキ事業ノ大要ヲ記載ス)
明治何年何月何日提出

某府縣知事 氏 名印

(第三號)

明治何年度某府縣夫役現品増課方法

一土木費中某費夫役 若干人

此見積金

内譯

若干人 某郡某町

此見積金

若干人 某郡某村

此見積金

一同現品 若干

此見積金

内譯

若干 某郡某村

此見積金

若干 某郡某村

第二類 第一章 府縣制 郡制

此見積金
明治何年何月何日提出

某府縣知事 氏 名 印

(第四號)

歳入
何々部
第一款 何
 (市收入) 金
 内 郡收入 金
 市郡收入 金
第何項 何
 (市收入) 金
 内 郡收入 金
 市郡收入 金
何々部合計金
 (市收入金)
内 郡收入金
市郡收入金
歳入總計金
 (市收入金)

内 郡收入金
市郡收入金
歳出
何々部
第何款 某
 (市)郡負擔 金
 市郡負擔 金

費 金 (府縣制第七十二條第三項ノ場合)
費 金
費 金

第何項 某
 (市)郡負擔 金
 市郡負擔 金
何々部合計金
 (市負擔金)
内 郡負擔金
市郡負擔金

歳出總計金
 (市負擔金)
内 郡負擔金
市郡負擔金
(第五號)

歳入
第二類 第一章 府縣制 郡制

(三)(水)(ハ)(ト)ノ符印ハ第六號第七號ノ式ト對照

何々部
 第一款 何々金
 内 市部收入 金(一)
 郡部收入 金(二)
 第一款 何々金
 内 市部收入 金(一)
 郡部收入 金(二)
 第何款 市郡分賦額 金
 内 市部收入 金(下)
 郡部收入 金(ホ)
 第一款 市郡分賦額 金
 何々部合計金
 内 市部收入金
 郡部收入金
 歳入總計金 (イ)
 内 市部收入金 (ロ)
 郡部收入金 (ハ)
 歳出
 何々部
 第一款 某費 金 (單ニ就テ市郡ノ負擔額ヲ分ツノ例)

内 市部負擔 金
 郡部負擔 金
 第一款 何々金
 第二款 何々金
 第何款 某費 金
 内 市部負擔 金
 郡部負擔 金
 第一款 某費 金 (項ニ就テ市郡ノ負擔額ヲ分ツノ例)
 内 市部負擔 金
 郡部負擔 金
 何々部合計金
 内 市部負擔金
 郡部負擔金
 歳出總計金 (イ)
 内 市部負擔金 (ロ)
 郡部負擔金 (ハ)
 (第六號)
 明治何年度某府市部歳入歳出豫算書
 歳入
 何々部
 第二款 第一章 府縣制 郡制

第一款	市郡連帶市部收入額	金(一)
第一項	市郡連帶市部收入額	金(一)
第二款	財産收入	金
第一項	不動産收入	金
第二項	動産收入	金
第何款	市豫算編入額	金
第一項	市豫算編入額	金
何々部合計金		
歳入總計金		
歳出		
何々部		
第一款	某	費金
第一項	何	々々金
第二項	何	々々金
第何款	市郡分賦市部負擔額	金(ト)
第一項	市郡分賦市部負擔額	金(ト)
何々部合計金		
歳出總計金		

(第七號)
 明治何年度某府郡部歳入歳出豫算書

(三)(ホ)ノ符印ハ第五號ノ式ト對照

歳入		
何々部		
第一款	何	々々金
第一項	何	々々金
第何款	市郡連帶郡部收入額	金(三)
第一項	市郡連帶郡部收入額	金(三)
何々部合計金		
歳入總計金		
歳出		
何々部		
第一款	某	費金
第一項	何	々々金
第二項	何	々々金
第二款	市郡分賦郡部負擔額	金(ホ)
第一項	市郡分賦郡部負擔額	金(ホ)
何々部合計金		
歳出總計金		

○府縣事務稟請ヲ要セス處分後報告條件 十九年三月十二日
 自今左ニ掲ル條件ハ稟請ヲ要セス處分シテ後報告スヘシ但報告期限ハ別ニ之ヲ定ム
 第二類 第一章 府縣制 郡制

一恤救規則心得第八條一家數人救助ノ事(二十四年七月內務省令第八號ヲ以テ項目ノ中十二項ヲ削除ス)

一國縣道道幅取擴ノ事

一社寺由緒アル地所建物處分ノ事

一社寺創立再興等建設延期ノ事

一阿片賣買特許藥舖鑑札下付ノ事

一阿片製造鑑札下付ノ事

一劇藝配伍ノ賣藝許否ノ事

一避病院開設ノ事

一檢疫委員設置ノ事

一社寺境内一時貸下ノ事

○國郡區境界ノ變更及町村字名ノ分合改稱等報告方二十四年八月二十二日 遞信省訓令第八號 北海道廳府縣 來九月一日ヨリ國郡區境界ノ變更及町村字名ノ分合改稱等有之時ハ管内ヘノ告示相添ヘ速ニ當省ヘ報告スヘシ

第三章 府縣會 區町村會

○府縣會議員定數規則二十四年六月九日 勅令第五十九號

朕府縣會議員定數規則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十九號

府縣會議員定數規則

第一條 府縣制第二條ニ依リ府縣會議員ノ數ヲ定ムルコト左ノ如シ

管内ノ人口七十萬迄ハ議員三十人ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬迄ハ五萬ヲ加フル毎

ニ一人ヲ増シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増ス

第二條 前條定ムル所ノ議員ハ人口ニ應シテ每郡市ニ割當選舉スルモノトス

第三條 人口増減ノ爲メ議員ノ定數又ハ郡市ノ割當ニ異動ヲ生スルトキハ其改選期ヲ待

テ之ヲ増減ス可シ

○府縣會議員定數規則ニ掲クル人口計算方二十四年六月十一日 內務省訓令第十號

本年六月勅令第五十九號ニ掲クル人口ハ毎年十二月末日ノ現任人口ヲ云フ但在管在艦ノ現役軍人ハ其管所又ハ定醫港所

在地ノ人口ニ算入セス其本籍地ノ人口ニ加フヘキ儀ト心得ラルヘシ

第三類

第一章 地所名稱 土地收用 地所賣買 森林原野 官有財產

管理法

○島嶼所屬名稱二十四年九月九日 勅令第九十號

朕島嶼所屬名稱ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第九十號

東京府管下小笠原島南南西沖北緯二十四度零分ヨリ同二十五度三十分東經百四十一度零分ヨリ同百四十一度三十分ノ間ニ散在スル三島嶼ヲ小笠原島ノ所屬トシ其中央ニ在ルモ

第二類 第三章 府縣會
第三類 第一章 地所名稱

ノヲ硫黃島ト稱シ其南ニ在ルモノヲ南硫黃島其北ニ在ルモノヲ北硫黃島ト稱ス

○土地分合筆取扱手續第一條第二條中改正島廳及收稅部出張所地租事務取扱手續第二條削

除二十四年七月二日大藏省訓令第五十七號府縣(沖繩縣ヲ除ク)

明治二十年四當省訓令第二十五號土地分合筆取扱手續第一條出願セノ三字ヲ届出ノ二字ニ改メ同第二條願書トアルヲ届

書ニ改メ明治二十二年三當省訓令第十五號地租事務取扱手續第二條ヲ削除ス

○外國公使館敷地トシテ官有地貸渡ハ隨意ノ約定ニ依ルヲ得二十四年七月

勅令第七十五號

朕外國公使館敷地ノ爲官有地ヲ貸渡ス場合ニ競争ヲ要セサル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ

シム

御名 御璽

勅令第七十五號

外國公使館敷地トシテ官有地ヲ貸渡ス場合ニ於テハ競争ニ附セス隨意ノ約定ニ依ルコト

ヲ得

○官有土地水面ニ關スル處分委任條件二十四年七月二十四日

第一條 官有土地水面ニ關スル處分ノ内務省訓令第十四號北海道廳府縣

一官有堤塘道路路木敷港灣河川溝渠溜池用惡水路等ノ新設修繕ニ際シ官有土地水面ヲ其敷地ニ充用スル事

二北海道ニ於テ警察署郡區役所戶長役場及官立學校病院等ノ敷地ニ官有土地ヲ充用スル事

三直接公用ニ供シタル官有土地水面ヲ相當ノ料金ヲ徴シ季節ヲ限リ一時ノ使用ヲ許シ竝從前既ニ許可シタルモノハ繼

續使用ヲ許ス事

四明治二十三年七勅令第三百三十五號官有地特別處分規則第二條ニ依リ官有土地水面ノ使用ヲ許ス事

五直接公用ニ供セサル五町歩以下ノ官有土地水面ヲ相當ノ料金ヲ徴シ貸付スル事

六府縣ニ於テ五町歩以下ノ官有土地ヲ明治二十三年十一勅令第二百七十六號官有地取扱規則第七條ニ依リ貸付スル事

七直接公用ニ供セサル官有土地水面市街ニ在テハ百五十坪以下村落ニ在テハ三段歩以下ノ箇所ヲ賣拂フ事

八府縣ニ於テ豫約代價ヲ以テ開墾既成ノ土地ヲ賣拂フ事

九明治二十三年七勅令第三百三十五號官有地特別處分規則第三條並同年十一勅令第二百七十五號官有財產管理規則第十

二條及第十三條ニ依リ一段歩以下ノ官有土地水面ヲ讓與スル事

十明治二十三年十當省訓令第三十六號ニ依リ直接公用ニ供シタル官有水面一町歩以下ヲ埋立ツル事並同上ノ訓令ニ依

リ埋立成功ノ後其土地ヲ處分スル事

十一官有土地水面ニ屬スル土石砂利粒水陸ノ生産物ヲ賣拂フ事

十二官有土地ニ屬スル枯損障害又ハ測量ニ支障アル竹木ヲ伐採シ及處分スル事竝盜伐誤伐ニ係ル竹木處分ノ事

十三天災事變ニ際シ公益ノ爲メ必要已ムコトヲ得サル場合ニ於テ官有土地ニ屬スル竹木ヲ伐採シ及處分スル事

十四各廳ノ所用ニ供スルモノヲ除ク外民有土地ノ寄付ヲ受納シ竝民有土地ノ上地ヲ許可スル事

十五前各項ノ處分其他官廳ノ處分又ハ形質ノ變更所用ノ廢改等ニ基キ官民有土地水面ノ種目ヲ變換スル事但皇宮地及

各廳ノ所用地ニ關スルトキハ此限ニアラス

第二條 前條ノ官有土地水面ニシテ當省直轄又ハ流域兩管轄以上ニ跨ル河川及國道港灣河口ニ關係アルモノハ先ツ土木

監督署ニ協議シテ本大臣ニ稟議スヘシ

官國幣社延喜式內國史現在神社境內ニ關係アルモノモ亦本大臣ニ稟議スヘシ

第三條 明治八年五當省達し第六十五號第一項及第二項並同年六當省達し第二十九號同十七年二當省達し第十號ハ

第三類 第一章 地所賣買

之ヲ廢止ス

○官有森林原野及產物特別處分規則中追加二十四年六月二十二日勅令第六十六號

朕官有森林原野及產物特別處分規則中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十六號

明治二十三年四月勅令第六十九號官有森林原野及產物特別處分規則中左ノ通追加ス

第四條 農商務大臣ハ社寺上地官林又ハ特別ノ緣故アル官有森林原野ニシテ存置ヲ要セ

スト認メタルモノハ其社寺又ハ其緣故アル者ニ限り隨意ノ契約ヲ以テ賣渡スコトヲ得

○森林經費科目表中更正二十四年八月三日農商務省訓令第三十一號大林區署

明治二十三年二月農商務省訓令第八號森林經費科目表中左ノ通り明治二十四年度ヨリ更正ス

經常部

林區署費ノ款造林及林產物處理費ノ項造林費ノ目中死傷手當ノ節ヲ削除ス

同項林產物處理費ノ目中死傷手當ノ節ヲ削除ス

同項末位へ人夫死傷手當ノ目ヲ設ケ

○林產物品會計規程中更正二十四年八月三日農商務省訓令第三十二號大林區署

明治二十二年九月當省達丙第四〇七號林產物品會計規程第二十七條ヲ左ノ通り更正ス

第二十七條 大林區署長ハ毎年度間ニ買入生産及ヒ其ノ他政府ノ所有ニ歸シタル物品ト消耗賣拂亡失毀損又ハ生産ノ爲

メニ消費シ其ノ他政府ノ離權シタル物品ノ數量價格ヲ記シタル報告書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ農商務大臣ニ

差出スヘシ

○林區署物品會計規程中更正二十四年八月三日農商務省訓令第三十三號大林區署

明治二十二年九月當省訓令第三十六號林區署物品會計規程第六十二條ヲ左ノ通り更正ス

第六十二條 大林區署長ハ毎年度間ニ買入生産及其ノ他政府ノ所有ニ歸シタル物品ト消耗賣拂亡失毀損又ハ生産ノ爲メ

ニ消費シ其ノ他政府ノ離權シタル物品ノ數量價格ヲ記シタル報告書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ農商務大臣ニ差

出スヘシ

○大林區署管内旅費規則甲號表改正二十四年八月十五日農商務省訓令第三十四號大林區署

明治二十三年農商務省訓令第十號大林區署管内旅費規則甲號表ヲ改正シ二十四年八月十六日ヨリ施行ス

甲號表

等	級	一 等		二 等		三 等	
		俸 任	官 金	判 任	官 金	雇 員	雇 員
	汽 車	五 錢	五 錢	參 錢	參 錢	貳 錢	貳 錢
	海 船	五 錢	五 錢	參 錢	參 錢	貳 錢	貳 錢
	馬 車	拾 貳 錢	拾 貳 錢	八 錢	八 錢	七 錢	七 錢
	日 當	壹 圓	壹 圓	五 拾 錢	五 拾 錢	四 拾 錢	四 拾 錢

○官有森林原野及產物特賣規程二十四年九月四日農商務省告示第八號

官有森林原野及產物特賣規程左ノ通り相定ム

官有森林原野及產物特賣規程

第一章 通則

第一條 森林原野及產物ノ特賣ハ總テ本規程ニヨリ施行スルモノトス

但原野ノ豫約賣渡ハ此限ニアラス

第三類 第一章 森林原野

第二條 左ノ諸項ノ一ニ屬ル、モノハ特賣ヲ受ケタルコトヲ得ス

一 森林原野及産物ニ關スル損害賠償若クハ違約金辨償ヲ終ヘサルモノ

二 賣渡スヘキ物件ニ對シ罪ヲ犯シタルモノ

第三條 特賣ヲ願フモノハ第一號乃至第四號書式ニヨリ願書ヲ差出スヘシ

但其願旨建築及土木用材ニ係ルモノハ之カ設計書地所ニ係ルモノハ實測圖及隣接地ノ略圖事業用材ニ係ルモノハ事業方法書ヲ添付スルヲ要ス

第四條 賣買當事者ハ第五號書式ニ準シ契約書ヲ作り雙方署名捺印ノ上各一通ヲ領收シ置クヘシ

賣渡代金五拾圓以上ナルトキハ賣買契約締結ノ際買受人ヨリ賣渡代金十分一二當ル内金ヲ契約保證金トシテ拂込ムヘシ

第五條 契約ノ金額五拾圓ニ滿タサルモノハ第六號書式ノ請書ヲ以テ契約書トナスコトヲ得

第六條 契約書其他契約ニ關スル書類ニ記載アル事項ノ一部分ニ變更ヲ要スルトキハ其部分ニ付箋シ雙方署名捺印スヘシ

第七條 特ニ使用ノ目的ヲ定メテ特賣ヲ受ケタル場合ニハ當該官廳ノ許可ヲ得スシテ其目的ヲ變更シ又ハ他ニ轉賣譲與スルコトヲ得ス

第二章 代價拂込 物件引渡

第八條 買受人約定期限内ニ買受代金ヲ完納シタルトキハ其買受物件ヲ管理スル官廳ニ出頭シテ拂込證ヲ示シ之カ引渡ヲ請求スヘシ賣渡物件ハ其代價ノ幾分ヲ拂込ムトモ之ニ對スル内渡ヲ爲サハルモノトス

第九條 賣渡物件所管ノ官廳前條第一項ノ請求ヲ受ケタルトキハ約定ノ期限内ニ之ヲ引渡スヘシ

第十條 買受人物件ノ引渡ヲ受ケタルトキハ第七號書式ノ領收書ヲ作り當該官廳ニ差出シ約定ノ期限内ニ其物件ヲ所在地ヨリ搬出スヘシ

條十一條 買受物件ノ搬出ヲ終リタルトキハ五日以内ニ其旨當該官廳ニ届出ツヘシ

第十二條 物件ノ所有權ハ引渡ヲ受ケタルニ隨ヒ買受人ニ移轉シ當該官廳ハ之カ保管ノ責ニ任セス

第三章 違約處分 損害賠償

第十三條 左ノ場合ニ於テハ締結ノ契約ヲ解除シ違約金トシテ當初拂込ノ契約保證金ヲ還付セス尚損害アルトキハ之ヲ賠償セシムヘシ

但賣渡代金五拾圓未滿ナルトキハ違約金ヲ徵セサルモノトス

一 買受人賣買契約締結後代金ヲ豫定ノ期限内ニ拂込マサルトキ

但天災其他不可抗ノ原因又ハ豫メ當該官廳ノ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

二 買受人約定ノ期限内ニ物件ノ引渡ヲ受ケサルトキ

三 買受人賣買契約締結後物件引渡シ以前ニ於テ本規程ニ違背スルカ又ハ契約ノ取消ヲ請求シタルトキ

第十四條 賣買契約締結後物件引渡シ以前ニ於テ當該官廳已ヲ得サル事故ニヨリ契約ヲ取消シタルトキハ第十三條ニ準シ其違約金ニ當ル金額ヲ交付シ尚損害アルトキハ之カ賠償ヲナスモノトス

第十五條 第七條ノ規程ニ違ヒ許可ヲ得スシテ轉賣譲與ヲ爲シ又ハ目的外ニ使用シタルモノハ當初賣渡代金ニ等シキ金額ヲ徵收シ尚損害アルトキハ之ヲ賠償セシムヘシ

第十六條 買受人物件ノ引渡ヲ受ケタル後豫期外ノ障礙ニ遭ヒ之ヲ約定期限内ニ搬出シ終ルコトヲ得サルトキハ其事由ヲ具シ最初定メタル期限ノ半數ヨリ長カラサル期限ヲ定メテ搬出日限ノ延期ヲ請求シ當該官廳ノ許可ヲ受クヘシ

此場合ニ於テ當該官廳ハ左ノ割合ヲ以テ其間ノ該物件置場ニ係ル借地料ヲ課シ之ヲ前納セシムヘシ

一 賣渡代價百圓以上ノモノハ 一日ニ付其千分ノ一

二 賣渡代價百圓未滿ノモノハ 一日ニ付金拾錢

但天災又ハ不可抗ノ原因ヨリシテ搬出延期ヲ要スル事由アルモノハ特ニ借地料ヲ免除シ又ハ期限ヲ伸長スルコトヲ

第三類 第一章 森林原野

得

第十七條 前條ニヨリ搬出延期ヲ許可シタル後天災又ハ不可抗ノ原因アルニアラスシテ尚再ヒ延期ヲ請求スルコトアルモ當該官廳ハ其求ニ應セサルヘシ

前項ノ場合ニ於テ搬出未済ノ物件ニ對スル所有權ハ當該官廳ニ復歸スルモノトス但既納ノ代金ハ還付セス

第十八條 第十六條ノ場合ニ於テ買受人搬出延期ノ請求ヲ爲サス恣ニ約定日限ヲ過キタルトキハ當該官廳ハ同條ノ割合ニ二倍スル借地料ヲ取立ツヘシ

第十九條 買受人又ハ其雇人若クハ代理人買受物件ヲ伐採蒐集若クハ製造運搬等ノ際ニ於テ當該官廳ニ損害ヲ與ヘタルトキハ當該官廳ハ之ニ對スル賠償金ヲ要求スヘシ

第四章 雜件

第二十條 賣買契約締結後物件引渡シ以前ニ於テ天災又ハ不可抗ノ原因ニヨリ目的ノ物件ヲ亡失毀損シタル爲メ契約ヲ解除シ之カ爲メ買受人ニ於テ損害ヲ生スルモ當該官廳ハ其責ニ任セス

前項ノ場合ニ於テ契約ノ解除ヲ要セス其毀損部分ノ更正ニ止メ尚繼續履行セントスルトキハ第六條ノ手續ニ準スヘシ

第二十一條 賣渡物件ハ當初買受人ニ於テ熟覽シタルモノニ付賣買契約締結後數量若クハ品質ニ多少ノ差違アリ又ハ内部瑕疵等ノ爲メ買受人ニ於テ損害ヲ生スルモ當該官廳ハ其責ニ任セス

第二十二條 立木竹生草等賣渡ノ場合ニ於テ其根株ハ賣渡外ノモノトス但特別ノ契約アルモノハ此限ニアラス

第二十三條 買受人代理人ヲ以テ諸般ノ事項ヲ履行セシムルトキハ買受人ハ其旨當該官廳ニ届出ツヘシ

第一號書式(用材出願ノ式)
立木拂下願
何國何郡何町大字何々字何官林ノ内凡段別何程

一何木何本

此尺ノ何程

代金何圓

一何木何本

此尺ノ何程

代金何圓

合木數何程

此尺ノ何程

代金何圓

同 上

壹尺ノ二付
金何程

右ハ何々(特賣ヲ受得ルノ事故)ノ爲メ入用ニ候處何々(特賣ヲ受ケサルヲ得サル事由)ニ付御拂下被成下度明治何年何月森林原野及產物特賣規程ヲ遵守此段奉願候也
明治何年何月何日

住所

族籍

氏

名

◎

當該官廳長官宛

第二號書式(薪炭材出願ノ書式)

立木拂下願

何國何郡何町大字何々字何々官林ノ内凡段別何程

一何木何本

第三類 第一章 森林原野

此棚敷何程
 代金何程
 同國同郡何町村大字何々字何々官林ノ内凡段別何程
 一何木何本
 此棚敷何程
 代金何程
 合木敷何程
 此棚敷何程
 代金何程

右ハ云々(第一號書式ニ同シ)
 第三號書式(副産物出願ノ式)
 何々拂下願
 何國何郡何町村大字何々字何々官林ノ内
 一何々何程
 代金何圓
 (年季出願ノモノハ左ノ通標記スヘシ)
 何國何郡何町村大字何々字何々官林ノ内
 一何々何程 但明治何年ヨリ同何年マテ何箇年季
 代金何圓
 此一箇年分何程
 壹(束貨等)ニ付
 金何程
 壹(束貨等)ニ付
 金何程

代金何圓

右云々(第一號書式ニ同シ)

第四號書式

森林(原野)拂下願
 何國何郡何町村大字何々字何々
 一何々(地目)段別何町何段何畝何歩
 何國ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ
 一何々(地目)段別何町歩ノ内
 段別何段何畝何歩
 合計段別何段何畝何歩
 (實測段別ハ註記スヘシ)
 右ハ云々(第一號書式ニ同シ)

第五號書式

賣買契約書

印紙
 此印紙ハ賣人へ領收シ置クモノ
 ノミ買人ヨリ貼付スルモノトス
 何國何郡大字何々字何々官林
 一何々(樹種等)何程
 此代金何程

今般前書ノ通リ賣買契約締結候ニ付テハ明治何年何月官有森林原野及産物特賣規程及左記ノ條項ヲ承諾シ雙方署名

捺印ノ上各一通ヲ領收シ置クモノ也
年月日

賣人 當該官廳長官 氏 名
特賣主任 官 氏 名
任所 氏 名
買人 氏 名

- 一代價拂込何年何月何日限
- 一物件引渡何年何月何日限
- 一物件搬出何年何月何日限
- 一物件引渡場所
- 一何々

「契約ヲ要スル條件ヲ列記ス

第六號書式

請書

印紙

何國何郡何村大字何々字何々官林

- 一何々(樹種等)何程
- 此代金何程

今般前書ノ通り御拂下相受ケ候ニ付テハ明治何年何月官有森林原野及産物特賣規程及左記ノ條項ヲ承諾シ請書差出シ候也

年月日

當該官廳長官 氏名殿
特賣主任

任所
買人 氏 名

- 一代價拂込何年何月何日限
- 一物件引渡何年何月何日限
- 一物件搬出何年何月何日限
- 一物件引渡場所
- 一何々

「契約ヲ要スル條件ヲ列記ス

第七號書式

證

- 一何々 何程
- 一何々 何程

右御引渡相成正ニ領收候也

年月日

任所
買人 氏 名

○官有森林原野ノ公賣ハ林産物公賣規程ニ準據 農商務省告示第七號

第三類 第一章 森林原野

當該官廳長官 氏名殿
引渡主任

官有森林原野ノ公賣ハ明治二十三年五月當省告示第四號林產物公賣規程ニ準シ施行ス

○官有林野ノ立木又ハ木材ノ検査及引渡用極印雛形並ニ使用方二十四年七月二十三日農商務省令第八號府縣大林區署

- 一 第一號雛形檢印ハ賣渡讓與ヲ爲スニ當リ豫メ其立木及木材ノ検査ヲ爲セシトキ又ハ之レカ伐跡検査ヲ爲セシトキ其證トシテ打印スヘシ
- 二 第二號雛形私印ハ賣渡讓與ヲ爲セシ證トシテ其立木及木材ニ打印スヘシ
- 三 第三號雛形山印ハ賣渡木ノ根株盜誤伐木材及其伐跡境界木其他區域ヲ定メ賣渡シタル林野中存置ヲ要スヘキ立木及其境界木等ニ打印スヘシ
- 四 以上三項ノ外地方ニヨリ特ニ使用ヲ要スル場合ニハ總テ山印ヲ適用スヘシ
- 五 檢印私印ハ黒肉ヲ用ヒ山印ハ黒朱肉適宜使用スルモ妨ケナシ
- 六 極印ヲ誤打セシトキハ朱肉ノ同印ニテ消印スヘシ
但朱肉ヲ用ヒタル山印ヲ消印スルトキハ黒肉ヲ用ユヘシ

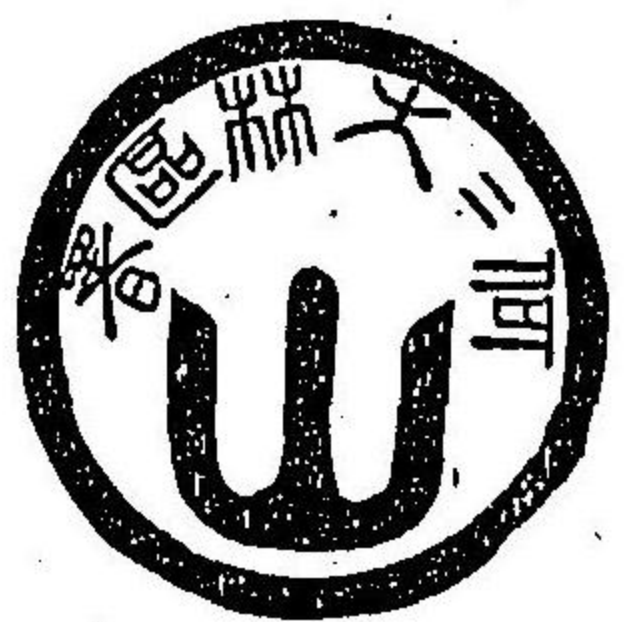
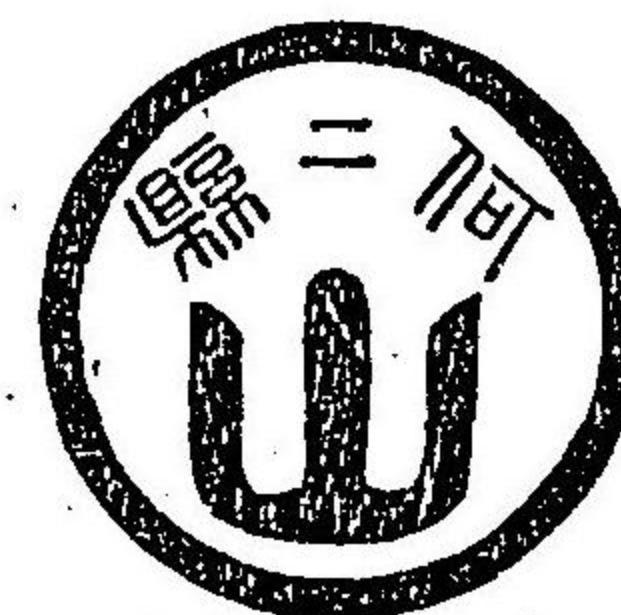
雛形 第一號



第二號



第三號



備考 徑一寸二分字體圖ノ如シ

○官有森林交換規程二十四年九月七日農商務省訓令第三十八號大林區署

官有森林交換規程左ノ通相定ム

官有森林交換規程

- 第一條 官有森林ヲ以テ民有森林原野若クハ田畑ト交換セントスルトキハ此規程ニ準據スヘシ
- 第二條 官有森林ヲ以テ民有森林原野若クハ田畑ト交換スルコトヲ得ルハ官有森林ノ經營上必要ノ土地ニシテ少クトモ評定價格相均シキモノニ限ル
- 第三條 交換ヲ爲サントスル官有森林アルトキハ申込ノ期日ヲ定メ揭示若クハ官報新聞紙及其他ノ方法ヲ以テ左ノ事項ヲ公告スヘシ
 - 一 但特別ノ緣故アル官有森林又ハ官ニ於テ特ニ必要ナル民有地ノ交換ハ公告ノ法ヲ用井ス
 - 二 交換ヲ爲サントスル官有森林ノ所在地及其字地番號
 - 三 交換ヲ爲サントスル官有森林ノ實測段別
 - 三 交換ヲ爲サントスル官有森林產物ノ種類及數量
 - 但樹木ノ數量ハ本數並ニ材積ヲ示スヘシ

第三類 第一章 森林原野

四 交換ニ應スヘキ民有地目ノ種類

第四條 前條ニ因リ交換ヲ申込マントスルモノアルトキハ左ノ事項ヲ具シ書面ヲ差出サシムヘシ

一 交換ノ爲メ提供スル民有森林原野若クハ田畑ノ所在地及其字地番號

二 交換ノ爲メ提供スル民有地目

三 交換ノ爲メ提供スル民有森林原野若クハ田畑ノ段別及其土地ノ價格

四 交換ノ爲メ提供スル民有森林原野產物ノ種類數量及價格

但田畑ニシテ產物ト共ニ交換セントスルトキハ本項ニ準スヘシ

五 交換ノ爲メ提供スル民有森林原野若クハ田畑ノ地形ヲ示セル繪圖面

但隣接地目及最近官有森林トノ位置及距離ヲ記載スヘシ

第五條 交換ノ書面ヲ差出シタルモノアルトキハ提供ノ民有森林原野若クハ田畑ヲ實査シ經營上最モ必要ナルモノヲ撰

ヒ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ指揮ヲ請クヘシ

一 交換ヲ爲サントスル官有森林及民有森林原野若クハ田畑ノ實測段別及地形並四隣ノ景況ヲ示セル明細繪圖及其土

地ノ評定價格

二 交換ヲ爲サントスル官有森林及民有森林原野田畑產物ノ種類數量並評定價格

三 交換ノ利害ニ關スル意見

第六條 民有森林原野若クハ田畑ヲ實測シ及產物ノ數量ヲ算定スルニハ出願人ヲ立會セシムヘシ

第七條 森林原野田畑及產物ノ評定價格ハ評價人ノ評價ニ依ルヘシ

第八條 提供ノ民有森林原野若クハ田畑ニシテ交換ヲ爲スニ適當ナルモノト認メタルトキハ直稅分署及登記所ニ照會シ

テ出願人ノ所有物ニ相違ナキヤ且其物ニハ他ノ權利ノ附著スルコトナキヤヲ確ムヘシ

○林務官林務官補營林主事營林主事補及森林監守制服並ニ帶劍ノ制

四年五月二日勅令第四十四號

朕林務官林務官補營林主事營林主事補又森林監守制服並ニ帶劍ノ制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十四號

林務官林務官補營林主事營林主事補及森林監守制服並ニ帶劍ノ制左ノ圖表ノ通定ム

但林務官林務官補營林主事ハ明治二十四年十二月三十一日迄ハ従前ノ著服ヲ用フルコ

トヲ得營林主事補森林監守ハ當分ノ内腕章ヲ附シタル衣ニ制帽ト劍ノミヲ用ヒ且其劍

ハ適宜之ヲ撰用スルコトヲ得

林務官以下制服圖例(之略)

○林務官林務官補營林主事營林主事補及森林監守服裝帶劍並禮式規程 二十四年七月十日 農商務省訓令第三十

號大林區署

林務官林務官補營林主事營林主事補及森林監守服裝帶劍並禮式規定左ノ通定ム

林務官林務官補營林主事營林主事補及森林監守服裝帶劍並禮式規定

第一章 服裝

第一條 林務官林務官補營林主事營林主事補及森林監守ノ制裝ハ明治二十四年五月勅令第四十四號ニ定ムル制服ヲ着用

シ及制劍ヲ佩帶スルヲ云フ

第二條 林務官以下禮裝ノトキハ一般ニ規定スル相當官ノ禮服ヲ着用スヘシ

第三類 第一章 森林原野

但通常禮服用ノ場合ニ於テハ制裝ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

第三條 林務官以下其職務ヲ行フトキハ制服ヲ着用スヘシ

第四條 制服ノ着用期限ハ左ノ如シ

- 一 冬服 自十月一日 至五月三十一日
- 一 夏服 自六月一日 至九月三十日

但此期限ニ據リ雄キトキハ別ニ着用期限ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 制服ヲ着用スルトキハ白色ノ立襟ヲ用ユヘシ

第六條 外套ハ室外ニ於テ着用スヘシ

第七條 日麗ハ炎暑ノ際適宜之ヲ用フヘシ

第八條 制服ヲ着用スルトキハ靴ヲ穿ツヘシ

但巡廻ノ際ハ脚絆草鞋ヲ用ユルコトヲ得

第九條 外套ヲ携帶スルニハ之ヲ捲收シテ其兩端ヲ結束シ左肩ヨリ斜ニ右腋ノ下ニ掛クヘシ

但濕潤シタルトキハ適宜携帶スルコトヲ得

第二章 帶劔

第十條 劔ハ上衣ノ上ニ佩帶スヘシ

第十一條 帶劔ハ森林犯罪者又ハ森林犯罪者ト認ムヘキ者ヲ逮捕スルニ際シ兇器ヲ持シテ抗拒シ他ニ防禦ノ術ナキトキノ外拔劔スルコトヲ得ス

第十二條 拔劔シタルトキハ兇行者ヲ傷ケタルト否トニ拘ラス速ニ其狀況ヲ具シテ所屬上官ニ届出ヘシ

第三章 禮式

第十三條 林務官以下制裝ノトキハ此章ノ規定ニ從ヒ禮式ヲ行フヘシ

第十四條 禮式ハ之ヲ分ツテ最敬禮及敬禮ノ二種トス最敬禮ハ皇族以上ニ對シテ之ヲ行ヒ敬禮ハ其他ノ人ニ對シテ之ヲ行フモノトス

第十五條 最敬禮ノ式ハ受禮者ニ面シテ直立シ姿容ヲ正シ兩足ヲ整著シ兩手ヲ垂下シ首ヲ受禮者ニ對向シテ其通過シテルノ間注視スルモノトス

第十六條 敬禮ノ式ハ受禮者ニ面シテ姿容ヲ正シ左手ヲ垂下シ右手ヲ舉ケ五指ヲ整閉シテ其第一關節ヲ帽ノ前底ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外面ニ向ケ肘ヲ肩ニ均クシテ受禮者ニ注視スルモノトス

第十七條 左ノ場合ニ於テハ下ニ示セル動作ニ依リ禮式ヲ行フコトヲ得

一 犯罪人ヲ護送シ又ハ物品ヲ携帶スルトキハ受禮者ニ注視シ空手ヲ垂下シ掌ヲ稍前面ニ向クヘシ

二 帽ヲ冠戴セサルトキハ受禮者ニ注視シ兩手ヲ垂下シ掌ヲ稍前面ニ向クヘシ

三 椅子ニ倚リタルトキハ起立シテ受禮者ニ對面シ兩手ヲ垂下シ掌ヲ稍前面ニ向クヘシ

第十八條 特別ノ注意ヲ要スル職務ニ從事スルトキハ敬禮ヲ行ハサルコトヲ得

○森林收入納入告知書ニ收入官吏ノ在勤廳名記入方廢止 農商務省訓令第二十七號 大林區署

明治二十三年八月當省訓令第四十一號ヲ廢止ス

○稟請ヲ要セス處分後報告條件中追加修正 農商務省訓令第二十四號 府縣沖繩縣ヲ除ク

二十四年三月本省訓令第十號中左ノ通り第三項第八項第十項及第十一項ニ但書ヲ追加シ第九項但書ヲ修正ス

第三項

但五箇年以上ノ年期賣渡ハ此限リニアラス

第八項

但五箇年以上ノ年期賣渡ハ此限リニアラス

第九項

第三類 第一章 森林原野

第三十七

但敷區域ニシテ五町歩ヲ超過スルトキ又ハ五箇年以上ノ年期貸渡ハ此限リニアラス
第十項
但五箇年以上ノ年期賣渡ハ此限リニアラス
第十一項

但其地上立竹木賣渡代金五拾圓以上ナルトキハ此限リニアラス

第四章 道路橋梁 鐵道 軌道

○人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電信取扱所配達人ヨ

リ賃錢請求不相成事 二十四年五月二日 內務省訓令第六號 北海道廳府縣

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電信配達人ヨリ賃錢請求不相成旨明治二十一年十二月第二七號ヲ以及訓令
置候處左ノ雛形ノ印鑑携帯ノ者モ同様賃錢請求不相成ニ付此旨更ニ免許人ヘ示達スヘシ

印鑑雛形

二寸五分

第 號

何 國

○ 何地電信取扱所配達人

何ノ 誰

曲尺二寸

○ 明治年月日

何何
何何
取電
扱所
信地
國

○鐵道廳ノ司掌ニ屬スル民事訴訟ニ付國ヲ代表スル權利委任 二十四年七月二十四日 內務省令第九號 鐵道廳

鐵道ニ關スル事件ニシテ鐵道廳ノ司掌ニ屬スルモノ、民事訴訟ニ付テハ本年勅令第三號第三條ニ依リ鐵道廳長官ニ國ヲ代表スルノ權利ヲ委任ス

第四類

第一章 行政警察 警察吏 警察費

○警察官及消防官服制中改正 二十四年八月二十七日 勅令第八十三號

朕警察官及消防官服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

勅令第八十三號

明治二十三年勅令第二百二十三號警察官及消防官服制中左ノ通改正ス

正帽ノ部縱橫章ノ欄但書ヲ但小線四條ト改ム

正衣ノ部袖章ノ欄但書ヲ但平織ニ小線ヲ附セス小線四條其間隙ハ各二分ト改ム

○巡查看守待遇 二十四年八月十一日 勅令第七十號

朕巡查看守待遇ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

勅令第七十號

巡查看守ハ判任官ヲ以テ待遇ス

○巡查俸給 二十四年八月十日 勅令第六十九號

第三類 第四章 道路橋梁 鐵道
第四類 第一章 警察吏

朕茲ニ巡查俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

勅令第六十九號

巡查俸給令

第一條 巡查ノ月俸ハ左ノ如シ

一級 十圓

二級 九圓

三級 八圓

第二條 巡查勤續滿九年以上ノ者ハ月俸十二圓滿十二年以上ノ者ハ月俸十五圓ヲ給スルコトヲ得

第三條 巡查教習所ニ於テ職務教習中ノ者ニ限り月俸六圓ヲ給ス但地方ノ便宜ニ依リ其半額迄ハ之ヲ減スルコトヲ得

第四條 本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

○警察禮式 二十四年八月十日 內務省訓令第十五號 廳府縣(鐵道廳ヲ除ク)

警察禮式左ノ通り相定ム

警察禮式

但明治十九年當省訓令第十九號ハ自今廢止ス

第一條 警察官吏ニシテ定制ノ服裝ヲ爲シタルトキハ本式ニ依リ禮式ヲ行フモノトス

第二條 本禮式中上官ト稱スルハ巡查ノ警部以上警部ノ警視警部長以上警視警部長ノ警視總監北海道長官府縣知事ニ於ケルヲ云フ但署員ノ其署長ニ於ケル亦同シ

第三條 禮式ハ定制ノ服裝ヲナセシ人ニ行フヲ正例トス然レトモ單獨ノ禮式ハ服裝ノ如何ニ拘ハラヌ上官タルコトヲ認知シタルトキハ成可ク之ヲ行フヘシ

大禮服又ハ制服ヲ著シ勳章ヲ佩用シタル者ニハ其官職ノ如何ヲ問ハス成可ク敬禮ヲ行フヘシ

第四條 職務執行ノ爲メ止ムヲ得サル場合ノ外上官ニ對シテハ必ス禮式ヲ行ヒ上官ハ之ニ答禮シ同班ハ互ニ禮式ヲ行フヘシ但答禮ハ時宜ニヨリ略スルモ妨ナシ

第五條 禮式ヲ別テ室内ノ最敬禮敬禮室外ノ最敬禮敬禮トス室内トハ居室事務室應接所等ニシテ廊下階段厨等ノ如キハ室外トス

第六條 室内ノ最敬禮ハ正面ノ方向ヲ取り直立シ兩足ヲ整ヘ右手ニ帽ノ前底ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ帽ノ内部ヲ右股ニ對セシメ左手ヲ以テ刀ノ柄ヲ握リ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ但シ佩刀セサルトキハ左手ヲ垂下スヘシ

第七條 室内ノ敬禮ハ敬スヘキ人ニ對シ正面ニ姿勢ヲ正シ其眼ニ注目シ右手ニ帽ノ前底ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ左手ヲ以テ刀ノ柄ヲ握ルヘシ但佩刀セサルトキハ左手ヲ垂下スヘシ

第八條 室外ノ最敬禮ハ正面ノ方向ヲ取り直立シ兩足ヲ整ヘ右手ヲ舉ケ諸指ヲ接シテ食指ト中指ヲ帽ノ前底ノ右側ニ當テ掌ヲ稍ト外面ニ向ケ肘ヲ肩ニ齊シクシ左手ヲ以テ刀ノ柄ヲ握リ體ノ上部ヲ小シク前ニ傾ケ敬スヘキ人ニ注目スヘシ但シ佩刀セサルトキハ左手ヲ垂下スヘシ

第九條 室外ノ敬禮ハ敬スヘキ人ニ對シ姿勢ヲ正シ右手ヲ舉ケ諸指ヲ接シテ食指ト中指ヲ帽ノ前底ノ右側ニ當テテ刀ノ柄ヲ握ルヘシ但シ佩刀セサルトキハ左手ヲ垂下スヘシ

第十條 天皇 三后 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃皇族ニ對シテハ最敬禮ヲ行フヘシ

外國ノ皇帝皇后及ヒ皇族ニ於ケルモ亦前項ニ同シ

第四類 第一章 警察吏

- 第十一條 内閣總理大臣各省大臣正式勅使及ヒ上官ニ對シテハ敬禮ヲ行フヘシ
各國公使タルコトヲ認知シタルトキハ亦前項ニ同シ
- 第十二條 儀式祭典等ノ爲メ其場所ニ整列セルトキハ 天皇 三后 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃皇族ニ對シ又ハ其儀式祭典ニ就キ禮式ヲ行フノ外總テ敬禮セサルモノトス
- 第十三條 整列シタルトキ又ハ隊伍ヲ爲シテ行進スルトキハ其指揮ヲ掌ル者ノミ相當ノ禮式ヲ行フヘシ
- 第十四條 警衛消防囚徒護送其他特別ノ注意ヲ要スル職務ニ從事中ハ禮式ヲ行フ限リニアラス
- 第十五條 物品ヲ携帶シ相當ノ禮ヲ行フ能ハサルトキハ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケ若シ一手ニ携帶スルトキハ右手ヲ帽ニ當ツヘシ但シ巡查步行中ナルトキハ停止シテ敬禮ノ意ヲ表スヘシ
- 第十六條 職務上人民ヨリ正當ニ禮ヲ受ケタルトキハ之ニ答禮スヘキモノトス
- 第十七條 敬禮ハ階級ノ異ナル人二人以上ニ對シテハ其最高級ノ人ニ對向シ行フモノトス
前項ノ場合ニ於テハ上官皆答禮ヲ行フヘシ
- 第十八條 官署室内ニ入ルトキハ帽ヲ脱スヘシ但下班ノ者ノ室内ニハ脱帽セサルモ妨ケナシ
- 第十九條 兩陛下ニ拜謁スルトキハ 御室ニ入り一タヒ最敬禮シ更ニ 玉座ヲ離ル、コト凡ソ五六歩ノ所ニ進ミニタヒ最敬禮ヲ行ヒ其儘二三歩退歩シ右回轉ヲナシ御室ノ出口ニ於テ三タヒ最敬禮シ然ル後退去ス可シ但特ニ式アルトキハ此限ニアラス
- 第二十條 皇太后 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃皇族並ニ外國皇帝皇后皇族ニ謁見スルトキ亦前項ニ同シ
- 第二十一條 上官ノ室内ニ入ラントスルトキハ其入口ニ直立シ來意ヲ告ケ指揮ヲ待ツヘシ上官入室ヲ許ストキハ其席ヲ離ル、コト凡ソ三四歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ行フノ後適宜ノトス其居室ヲ去ルトキ亦同シ
- 第二十二條 官記位記勳記辭令書ノ類ヲ受クルトキハ授與者ノ席ヲ離ル、コト凡ソ三四歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ行フノ後適宜ノトス其居室ヲ去ルトキ亦同シ

- ニ前進シ帽ヲ左脇ニ挟ミ右手ヲ以テ拜受シ左手ヲ副テ披見シ直ニ之ヲ收メ舊位ニ復シテ再ヒ敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ
- 第二十二條 室内ニ於テ上官ヨリ書類其他ノ物件ヲ受ケ或ハ之ヲ上官ニ呈スルトキハ前條ノ法ニ準シ右手ヲ以テ之ヲ受ケ或ハ之ヲ呈スヘシ若シ返簡又ハ領收等ヲ受ケヘキトキハ舊位ニ復シテ之ヲ待ツヘシ
上官ヨリ命令諭告等ヲ承ケ或ハ事ヲ上官ニ陳述スルトキ亦前項ニ同シ
- 第二十三條 上官居室ニ來ルトキハ一同椅子ヲ離レテ敬禮スヘシ而シテ其關係アル者ノ外ハ一日敬禮ノ後著席シテ各其事ニ服シ上官居室ヲ去ルトキ復テ敬禮ヲ行フヘシ
- 第二十四條 同班又ハ下班ノ者居室ニ來リ敬禮ヲ行フトキハ同班ナレハ椅子ヲ離レテ敬禮シ下班ナレハ其儘答禮スヘシ
- 第二十五條 室内ニ於テ公事ヲ談スルトキ下班ノ者ハ椅子ヲ離レテ立テ姿勢ヲ正スヘシ但上官許可スレハ著席スルモ妨ケナシ
- 第二十六條 上官ノ者下班ノ者ノ居室ニ入ルトキ著帽ノ儘ナレハ答禮ハ舉手注目シ脱帽ナレハ只之ニ注目シ答禮ノ意ヲ表スヘシ
- 第二十七條 宴會集會等總テ公會ニ於テ上官ト同席スルトキハ之ニ注意ヲ加ヘ先ニ椅子ニ倚ルコトナク先ニ食卓ニ就クコトナク先ニ食卓ヲ離ルコトナク先ニ喫烟スルコトナク禮トス但シ上官ノ許可アルトキハ此ノ限リニアラス
- 第二十八條 行幸 行啓ニ遇フトキハ前驅ノ稍、前ヨリ道路ノ一側ニ停止正面シ車駕五六歩前ニ近クトキ最敬禮ヲ行ヒ五六歩過キ去ル迄其姿勢ヲ保ツヘシ皇族及外國ノ皇帝皇后皇族ニ於ケル亦同シ
- 前項ノ場合ニ於テ馬上ニアルトキハ其儘馬ヲ駐メ正面シ道路狹隘ニシテ之ヲ爲シ得ヘカラサルトキハ轡ヲ縮メテ馬首ヲ擧ケ乗車ナルトキハ下車スヘシ
- 第二十九條 上官ニ行遇ヒ又ハ其傍ヲ通過スルトキハ頭ヲ少シク受禮者ノ方ニ向ケ姿勢ヲ正シ敬禮ス可シ但巡查ハ上官ヲ距ル三四歩前ニ停止シ本文ノ敬禮ヲ爲スヘシ
- 第三十條 駐立ノ際上官其傍ヲ通過スルトキハ上官ノ方ニ正面シ敬禮ヲ行フヘシ其駐立シアル上官ノ許ニ至ルトキハ上

第四類 第一章 警察吏

官ヲ離ル、コト三四歩ノ所ニ止リ敬禮ヲ行フヘキモノトス

第三十一條 乘馬ニテ馳歩若クハ速歩ヲ以テ行進中上官ニ遇フトキハ先ツ常歩ニ移シ敬禮ヲ行フヘシ若シ後方ヨリ來リテ先ニ行カントスルトキハ其旨ヲ陳ヘ然ル後馳歩若クハ速歩ニ復スヘシ但至急ノ公務ヲ帶ヒタルトキハ其由ヲ告ケ常歩ニ移サ、ルモ妨ケナシ

第三十二條 乘車ニテ上官ニ遇フトキハ乘車ノ儘姿勢ヲ正シ敬禮ヲ行フモ妨ケナシト雖モ後方ヨリ來リテ先ニ行カント欲スルトキハ其旨ヲ陳ヘ然ル後通過スヘシ

第三十三條 室外ニ於テ上官ヨリ書類其他物件ヲ受ケ或ハ之ヲ上官ニ呈セントスルトキハ第三十條後段ノ法ニ依リ敬禮ヲ行フノ後適宜ニ前進シ右手ヲ以テ之ヲ受ケ或ハ呈スヘシ若シ受クル所ノ物其場ニ於テ披見スルヲ要スレハ左手ヲ副テ披見スヘシ返簡又ハ領證ヲ受クヘキトキハ舊位ニ復シテ之ヲ待ツヘシ

上官ヨリ命令諭告等ヲ承ケ或ハ事ヲ上官ニ陳述セントスルトキ亦前項ニ同シ

第三十四條 警察官吏ノ葬式ニ行遇フトキハ其柩ニ對シ敬禮ヲ行フヘシ

第三十五條 上官ト同行スルトキハ其左側或ハ後方ニ就クヲ禮トスレトモ爲メニ上官ニ不便ヲ與ヘ若クハ危險ノ恐レアルトキハ宜キニ應シ右側ニ就クモ妨ケナシ但シ誘導者ハ左側若クハ後方ニ就クノ限リニアラス

第三十六條 狹隘ノ道路橋梁又ハ廊下階子段等ニ於テ上官ニ出會シタルトキハ立止リテ其通過ヲ待ツヘシ若シ既ニ進行中ナルトキハ便宜立戻リ上官ヲシテ己レノ通過ヲ待タシメサルヲ禮トス

第三十七條 警視廳消防官吏ハ本式ニ依リ各身分相當ノ禮式ヲ行フヘシ

○警察官吏禮式廢止 二十四年八月十日
内務省令第十四號

明治十九年當省令第十八號ハ自今廢止ス

○警察官吏其他内國旅費概則中改正 二十四年八月十五日
内務省令第十五號

明治十九年^六當省令第十一號警察官吏其他内國旅費概則中左ノ通改正シ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

第六條 削除

第七條第四項中「四等」ヲ三等「六等」ヲ四等ト改ム

甲號表		乙號表	
汽車賃 每一哩	汽船賃 每一海里	車馬賃 每一里	陸路雜費 每一里
金 三 錢	金 四 錢	金 七 錢	日 當 每一日
汽 車 賃 每一哩	汽 船 賃 每一海里	日 當 每一日	日 當 每一日
金 二 錢	金 三 錢	金 四 錢	金 三 十 錢

○巡查採用規則 二十四年九月三日
内務省訓令第二十一號

巡查採用規則左之通り相定ム

巡查採用規則

第一條 巡查ハ必試驗ノ上採用スヘキモノトス但巡查精勤證書ヲ有スル者ハ此限ニアラス

第二條 巡查志願者ハ品行方正年齢二十三年以上四十年未満ニシテ徵兵ニ相當セス且ツ左ノ諸項ニ抵觸セサル者タルヘシ

一 重罪ノ刑又ハ重禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ同上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シ單ニ監視ニ附セラレタル者及輕禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經過セサル者但舊法ニ依リ施體ノ刑ニ處セラレタルモノハ總テ本文ノ權衡ニ進ス

第四類 第一章 警察吏

二賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者

三巡査懲罰例又ハ官吏懲戒例ニ依リ免職セラレ若クハ故ナク巡査ヲ辭職シ二年ヲ經過セサル者

四身分不相應ノ負債アル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者

五酒癖アル者又ハ暴行ノ癖アル者

第三條 巡査體格ノ検査ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

一體質善良ナル者即チ左ニ記載スル等ノ缺所ナキ者

四肢完具セサル者但執筆把握ニ差支サル指ノ萎小彎屈強直等ノ類ハ此限リニアラス

胸腔機關及腹内臟器若クハ皮膚病較著ノ疾病アル者但較著ノ疾病ニアラサルモ全身諸機關ノ機能減衰ノ者亦同シ

服装又ハ運動ニ不便ナル者

發生物畸形等容貌醜惡ナル者

二身幹五尺一寸以上ニシテ胸圍大約身長ノ半ニ等シク呼吸縮長ノ差一寸以上ノ者

三兩眼共視力三分ノ二以上ニシテ辨色力完全ノ者

四聽力六尺ノ距離ニ於テ低語ヲ聽識シ得ル者

五言語應答明瞭ニシテ充分ノ發聲ニ堪ユル者

六精神完全ナル者即チ精神病及神經病(癡癲狂癡狀及舞踏病癲癩等ノ病)ナキ者

第四條 巡査技藝ノ試験ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

一刑法刑事訴訟法警察法規等ノ大要ニ通スル者

二本邦歴史及地理ノ大略ニ通スル者

三假名交リノ論文及普通往復文ヲ作り得ル者

四算術加減乗除ヲ爲シ得ル者

五普通ニ楷書又ハ行書ヲ書キ得ル者

第五條 巡査ノ試験ハ廳府縣巡査教習所ニ於テ警部二名以上立合ノ上巡査教習所長之ヲ施行スヘシ

第六條 試験ノ上巡査ニ採用スヘシト定リタル者ハ警視廳ニ於テハ巡査本部長、北海道廳及府縣ニ於テハ警部長親ク左ノ諸件ヲ宣告シ誓書ヲ徴シタル上採用ス可シ

一巡査タル者ハ官吏服務紀律ヲ恪守スヘキハ言ヲ俟タス常ニ上官ノ命令ヲ遵守シ勤務中ハ勿論勤務ニ服セサルトキト雖モ根ニ政治ノ是非得失ヲ論評スルカ如キコト決シテアルマシキ事

一巡査タル者ハ常ニ人民ノ保護者タルコトヲ記憶シ之ニ對シテ寧親切ヲ旨トシ而モ之ト相狎昵スルカ如キコトナク職務上ニ於テ負擔スル百般ノ責務ハ最モ嚴正忠實ニ之ヲ踐行スヘキ事

一巡査タル者ハ一端奉職ノ上ハ他念ナク職務ニ従事シ五箇年未滿ニシテ一身ノ故ヲ以テ辭職スルカ如キコト決シテアルマシキ事

一巡査タル者ハ自身ハ勿論家族ニ至ル迄専ラ品行ヲ正シクシ警察官タリ又其家族タル體面ヲ汚損スルカ如キ所業決シテアルマシキ事

誓文

某 儀

今般何(廳府縣)巡査志願仕候ニ付御採用ヲ被ルニ於テハ官吏服務紀律ヲ恪守仕ルヘキハ勿論人民ニ對シテハ丁寧親切ニ職務ヲ執行シ且ツ總テノ法律命令ヲ遵守シ職任上百般ノ責務ハ嚴正忠實ニ踐行仕ルヘク又奉職五箇年ニ滿タスシテ一身ノ故ヲ以テ自ラ職務御免相願候様ノ儀決シテ無之且自身ハ勿論家族ニ至ル迄品行方正ニ相係テ警察官吏タリ又其ノ家族タル體面ヲ汚損致シ候様ノ所業決シテ仕マシク依テ誓文如件

明治 年 月 日

第四類 第一章 警察吏

第八條 新ニ採用スル巡查ハ先ツ三級俸ヲ給スヘシ其陸軍現役滿期ノ下士及巡查精勤證書ヲ有スル者ニ係ルトキハ直ニ二級俸ヲ給スルコトヲ得但陸軍現役滿期ノ下士ニシテ士官適任證書ヲ有スル者ハ特ニ二級俸ヲ給スルコトヲ得

第二章 禁令規則 保安條例 集會政社 新聞 出版

○新聞紙雜誌、文書圖書ニシテ外交上ニ係ル件記載方二十四年五月十六日 勅令第四十六號

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ新聞紙雜誌又ハ文書圖書ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十六號

內務大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ新聞紙雜誌又ハ文書圖書ニ外交上ニ係ル事件ヲ記載スル者ヲシテ豫メ其草案ヲ提出セシメ之ヲ檢閲シテ其記載ヲ禁スルコトヲ得之ヲ犯ストキハ發行人編輯人又ハ發行者著作者ヲ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

內務大臣ノ檢閲ヲ經タル事項ヲ轉載スルハ前項ノ限ニアラス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第四章 傳染病 檢疫停船 獸類傳染病

○海外諸港ヨリ來ル船舶ニ對シ檢疫施行方二十四年六月二十二日 勅令第六十五號

朕海外諸港ヨリ來ル船舶ニ對シ檢疫ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

第一條 虎列刺病流行地方ニアラサルモ該病傳播ノ虞アリト認メ內務大臣ニ於テ特ニ指定シタル外國諸港ヨリ來ル船舶ニ對シテハ檢疫官ヲシテ該病患者又ハ該病死者ノ有無ヲ尋問セシム

第二條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ檢疫官其船舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシム可シ

該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他檢疫官ノ適當ト認ムル場所ニ送致ス可シ其死者ハ若シ緣故人ノ望アルトキハ其望ニ隨ヒ地方官所定ノ場所ニ火葬シ若クハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬ス可シ

前項ノ手續ヲ終リ檢疫官ハ其乗組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ積荷ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フ可シ

第五類

第四類 第四章 檢疫停船

第一章 衛生 醫藥

○地方衛生會規則 二十四年八月十七日 勅令第四百七十四號

朕地方衛生會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四百七十四號

地方衛生會規則

第一條 地方衛生會ハ府縣知事ノ監督ニ屬シ警視總監府縣知事ノ諮詢ニ應シテ其府縣内
公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ヲ審議ス

第二條 地方衛生會ハ府縣内公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ニ就テハ警視總監府縣知事
ニ建議スルコトヲ得

第三條 地方衛生會議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ府縣知事ノ認可ヲ請フヘシ

第四條 地方衛生會ニ職員ヲ設クルコト左ノ如シ
會長 府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ
委員

府縣書記官

警部長

但東京府ハ警視廳警務局長

府縣參事官

名譽職府縣參事會員

府縣廳所在地ノ郡長又ハ市長

醫師

獸醫

化學家

臨時委員

書記 府縣屬ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 會長ハ本會議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其議定セシモノヲ警視總監府縣知事ニ
具申ス

第六條 會長事故アルトキハ書記官之ヲ代理シ書記官事故アルトキハ開會當日出席委員
ノ互選ヲ以テ會長ヲ定メ其事務ヲ代理セシム

第七條 委員中府縣參事官醫師獸醫化學家臨時委員ハ府縣知事之ヲ命ス但獸醫及化學家
ハ其人ヲ得サルトキハ缺員ト爲スコトヲ得

第八條 名譽職府參事會員ハ改選毎ニ郡市部各二名ヲ互選シ府知事之ヲ命ス
官吏ノ資格ヲ以テ委員トナリタル者ノ旅費ハ其所屬廳ノ經費ヨリ支給シ市長ノ
旅費ハ市役所ノ經費ヨリ支給シ其他ノ委員ニ係ル手當並旅費ハ府縣稅ヨリ支給スルコ

第五類 第一章 衛生

トヲ得

第九條 書記ハ會長ノ指揮ヲ受ケ議事ヲ筆記シ及文書計算ニ從事ス

第十條 府縣制ヲ施行セサル地方ニ於テハ名譽職府縣參事會員ノ職務ハ府縣會常置委員

ヲ以テ之ニ充ツ此場合ニ於テハ常置委員改選毎ニ該員中ニ於テ互選シ府縣知事之ヲ命

○日本藥局法改正 二十四年五月二十日

明治十九年六月當省令第十號日本藥局方左ノ通改正シ明治二十五年一月一日ヨリ施行ス

但前日本藥局方所載ノ藥品ハ本方施行ノ後ト雖モ明治二十六年十二月三十一日マテハ本方ト共ニ仍ホ其効ヲ有ス其前

日本藥局方ニ據ルモノハ「前日本藥局方」ノ六字ヲ明記スヘシ

○藥品及物品ノ衛生試驗所初回検査ニ不服ノ者ハ再検査ヲ請フヲ得 二十四年七月二十四日

衛生試驗所ニ於テ検査シタル藥品其他ノ物品ニシテ初回ノ検査ニ對シ不服アル者ハ再検査ヲ請フコトヲ得再検査ノ手數

料ハ初回検査手數料ノ三倍ヲ前納スヘシ

○コツホ 結核病治療液ハ官立府縣立病院ニ限り使用ヲ得 內務省令第三號

コツホ結核病治療液「テュベル」ハ官立府縣立病院ニ限り之ヲ使用スルコトヲ得其他病院若クハ醫師ニシテ相當ノ準備アル

病室ヲ有スル者之ヲ使用セントスルトキハ豫メ地方長官ヲ經由シテ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ內務大臣ハ中央衛生會ノ

審議ヲ經テ之ヲ認可シ若クハ認可セサルコトアルヘシ

該液ハ外來患者ニ使用スルコトヲ得ス

該液ヲ使用シタル者ハ左ノ書式ニ依リ其使用終結ニ至リタル患者ノ治療表ヲ製シ毎月內務大臣ニ報告スヘシ

本令第一項第二項ニ違背シタル者ハ二十圓以内ノ罰金ニ處ス

既往症及 現在症	年月日調	醫師 任所 氏名印
及 注 入 日 月 日	結核病治療液治療表	職業 男 何 某 年 某 齡
反 應 症	第 號 患 者 病 名	
成 績		

既往ノ病歴注入前ノ現症及ヒ結核菌ノ有無ハ既往症及現在症ノ欄下ニ注入後ノ體温呼吸脈搏ノ狀況惡寒、戰慄頭痛惡心發疹倦怠等ノ諸症ハ反應諸症ノ欄下ニ體量ノ増減及ヒ全治輕快無効死亡ハ成績ノ欄下ニ記スヘシ

第六類

第二章 徵兵令 徵兵旅費

第五類 第一章 醫藥 徵兵旅費

體操	三	三	三
計	二九	三五	三六
			三六

○高等中學校醫學部附設藥學科ノ學科及其程度中改正追加
二十四年九月二十四日 文部省令第六號
 明治二十二年三月 文部省令第二號 高等中學校醫學部附設藥學科ノ學科及其程度中改正追加スルコト左ノ如シ
 第二條 植物學ノ下ニ鑛物學ノ三字ヲ加フ
 第五條 各學科授業ノ時數ヲ左ノ如ク改正ス

英 語	三		
動 物 學	一		
植 物 學	三		二
鑛 物 學	一		
物 理 學	五		
化 學	四		二
分 析 學	二		八
生 藥 學			六
製 藥 學			四
			一〇
第 一 年			
第 二 年			
第 三 年			

調劑學	四		五	
藥局方				六
體操	三		三	四
計	二六		三〇	三〇

第六條 動物學植物學ノ程度ノ次ニ左ノ如ク追加ス
 鑛物學
 大意

第三章 小學校教員 學校校長教員 俸給旅費 退隱扶助料
 教科圖書

○市町村立小學校校長及教員名稱及待遇
二十四年六月二十九日 勅令第七十三號
 朕市町村立小學校校長及教員名稱及待遇ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 御 名 御 璽

- 市町村立小學校校長及教員名稱及待遇
- 第一條 市町村立小學校校長及教員ノ名稱左ノ如シ
- 一 小學校長
- 二 高等訓導 高等小學校ノ本科正教員タル者及尋常小學校ノ本科正教員中高等小學校ノ本科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ノ名稱トス
- 第七類 第三章 學校校長教員

- 三 訓導 尋常小學校ノ本科正教員タル者ノ名稱トス
 - 四 准訓導 小學校ノ本科准教員タル者ノ名稱トス
 - 五 授業師 小學校ノ専科正教員タル者ノ名稱トス
 - 六 准授業師 小學校ノ専科准教員タル者ノ名稱トス
- 第二條 市町村立小學校長及教員ハ左ノ區別ニ從ヒ判任官ヲ以テ待遇ス
- 一 小學校長 教員ノ職ニ對スル待遇ニ從フ
 - 二 高等訓導 判任官五等以上
 - 三 訓導 判任官二等以下五等以上但特別ノ勤勞アル者ハ判任官一等ノ待遇ニ陞進スルコトヲ得

- 四 准訓導 判任官六等但從前文部省ノ認可ヲ經テ授與シタル修身科教授免許狀ヲ有スル者ハ判任官二等以下五等以上ノ待遇ニ陞進スルコトヲ得又高等小學校ノ本科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ高等訓導ノ待遇ニ從ヒ、尋常小學校ノ本科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ訓導ノ待遇ニ從ヒ、小學校ノ専科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ授業師ノ待遇ニ從フコトヲ得
- 五 授業師 判任官三等以下五等以上但高等小學校ノ授業師及尋常小學校ノ授業師中高等小學校ノ専科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者又ハ特別ノ勤勞アル者ハ判任官二等ノ待遇ニ陞進スルコトヲ得又高等小學校ノ本科正教員タルコトヲ得

- 六 准授業師 判任官六等但高等小學校ノ本科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ高等訓導ノ待遇ニ從ヒ、尋常小學校ノ本科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ訓導ノ待遇ニ從ヒ、小學校ノ専科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ授業師ノ待遇ニ從フコトヲ得

○小學校令ニ基キ正教員准教員ノ別ヲ定ム 二十四年五月八日 文部省令第三號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第九十五條ニ基キ正教員准教員ノ別ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 左ノ免許狀若クハ卒業證書ヲ有スル者ハ其有効期限間高等小學校正教科ノ本科正教員若クハ本科准教員タルコトヲ得但第二款ノ免許狀ヲ有スル者ハ女兒ノ教授ニ限ル

一 明治十九年六月文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ少クトモ修身讀書作文、習字、算術、地理及歴史ノ七科ヲ教授シ得ヘキモノ但同規則第十四條ノ規程ニ依リ授與シタルモノヲ除ク

二 明治二十二年十月文部省令第十一號ニ依リ授與シタル高等小學校ノ教員免許狀ニシテ少クトモ修身讀書作文、習字、算術、地理及歴史ノ七科ヲ教授シ得ヘキモノ

三 明治十九年六月文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年八月文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル高等科免許狀ニシテ少クトモ修身讀書作文、習字、算術、地理及歴史ノ七科ヲ教授シ得ヘキモノ

四 明治十九年十月文部省令第二十三號ニ依リ小學校教員免許狀ト同一ノ効ヲ有スルモノトシ若クハ明治二十年八月文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル中等若クハ高等師範學科卒業證書

五 明治二十二年十月文部省令第七號ニ依リ小學校教員免許狀ト同一ノ効ヲ有スルモノトシタル小學校師範學科卒業證書

第二條 左ノ免許狀ヲ有スル者ハ其有効期限間高等小學校正教科ノ本科准教員タルコトヲ得但第二款ノ免許狀ヲ有スル者ハ女兒ノ教授ニ限ル

一明治十九年^六月^六文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、

歴史、理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ但同規則第十四條ノ規程ニ依リ授與シタルモノヲ除ク

二明治二十年^十月^十文部省令第十一號ニ依リ授與シタル高等小學校ノ教員免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、

歴史、理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

三明治十九年^六月^六文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年^八月^八文部省令第六號ニ依リ有効年限

ヲ延期シタル高等科免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歷史、理科^{博物}ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

四明治二十年^八月^八文部省令第七號ニ依リ授與シタル高等小學校教員假免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歷史、

理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

第三條 左ノ免許狀ヲ有シ十箇年以上公立小學校教員ノ職ニ在ル者及第一款第四款若クハ第五款ニ掲クル卒業證書ヲ有

スル者ハ其有効期限間高等小學校正教科ノ專科正教員若クハ專科准教員タルコトヲ得但第二款ノ免許狀ヲ有スル者ハ

女兒ノ教授ニ限ル

一明治十九年^六月^六文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、

手工^{商業}ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ但同規則第十四條ノ規程ニ依リ授與シタルモノヲ除ク

二明治二十年^十月^十文部省令第十一號ニ依リ授與シタル高等小學校ノ教員免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語ノ一科

若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

三明治十九年^六月^六文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年^八月^八文部省令第六號ニ依リ有効年限

ヲ延期シタル高等科免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、工業、商業ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

第四條 左ノ免許狀ヲ有スル者ハ其有効期限間高等小學校正教科ノ專科准教員タルコトヲ得但第三款第二款ノ免許狀ヲ

有スル者ハ女兒ノ教授ニ限ル

一明治二十年^八月^八文部省令第七號ニ依リ授與シタル高等小學校教員假免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、手工、商業ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

二第三條ニ掲クル免許狀

第五條 左ノ免許狀若クハ卒業證書ヲ有スル者ハ其有効期限間尋常小學校ノ本科正教員若クハ本科准教員タルコトヲ得

一明治十九年^六月^六文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ少クトモ修身、讀書、作文、習字及

算術ノ五科ヲ教授シ得ヘキモノ但同規則第十四條ノ規程ニ依リ授與シタル授業生免許狀ヲ除ク

二明治二十年^十月^十文部省令第十一號ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ少クトモ修身、讀書、作文、習字及算術ノ五科ヲ教授

シ得ヘキモノ

三明治十九年^六月^六文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年^八月^八文部省令第六號ニ依リ有効年限

ヲ延期シタル免許狀ニシテ少クトモ修身、讀書、作文、習字及算術ノ五科ヲ教授シ得ヘキモノ

四明治十九年^{十二}月^{十二}文部省令第二十三號ニ依リ小學校教員免許狀ト同一ノ効ヲ有スルモノトシ若クハ明治二十年^八月^八文部

省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル初等、中等若クハ高等師範學校卒業證書

五第一條第五款ニ掲クル卒業證書

第六條 左ノ免許狀ヲ有スル者ハ其有効期限間尋常小學校ノ本科准教員タルコトヲ得

一明治十九年^六月^六文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、

歴史、理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

二明治二十年^十月^十文部省令第十一號ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歷史、理科ノ一科若

クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

三明治十九年^六月^六文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年^八月^八文部省令第六號ニ依リ有効年限

ヲ延期シタル免許狀ニシテ修身讀書作文習字算術地理歴史理科^{博物}物理^{博物}ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ
四明治二十年^八月^八 文部省令第七號ニ依リ授與シタル小學校教員假免許狀ニシテ修身讀書作文習字算術地理歴史理科
ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

第七條 左ノ免許狀ヲ有シ十箇年以上公立小學校教員ノ職ニ在ル者及第一條第五款若クハ第五條第四款ニ掲クル卒業證
書ヲ有スル者ハ其有効期限間尋常小學校ノ專科正教員若クハ專科准教員タルコトヲ得

一明治十九年^六月^六 文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ圖畫唱歌體操裁縫手工ノ一科
若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ但同規則第十四條ノ規程ニ依リ授與シタル授業生免許狀ヲ除ク

二明治二十年^十月^十 文部省令第十一號ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ圖畫唱歌體操裁縫ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得
ヘキモノ

三明治十九年^六月^六 文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年^八月^八 文部省令第六號ニ依リ有効年限
ヲ延期シタル免許狀ニシテ圖畫唱歌體操裁縫工業ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

第八條 左ノ免許狀ヲ有スル者ハ其有効期限間尋常小學校ノ專科准教員タルコトヲ得
一明治十九年^六月^六 文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ圖畫唱歌體操裁縫手工ノ一科
若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

二明治二十年^八月^八 文部省令第七號ニ依リ授與シタル小學校教員假免許狀ニシテ圖畫唱歌體操裁縫手工ノ一科若クハ數
科ヲ教授シ得ヘキモノ

三第七條第二款若クハ第三款ニ掲クル免許狀

第九條 府縣知事ハ本令ノ規程ニ依リ難キモノアル場合ニ於テハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケテ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

○小學校祝日大祭日儀式規程 二十四年六月十七日 文部省令第四號

明治二十三年^十月^十 勅令第二百十五號小學校令第十五條ニ基キ小學校ニ於ケル祝日大祭日ノ儀式ニ關スル規程ヲ設クルコト
左ノ如シ

小學校祝日大祭日儀式規程

第一條 紀元節天長節元始祭神嘗祭及新嘗祭ノ日ニ於テハ學校長教員及生徒一同式場ニ參集シテ左ノ儀式ヲ行フヘシ
一學校長教員及生徒

天皇陛下
皇后陛下ノ 御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行ヒ且
兩陛下ノ萬歳ヲ奉祝ス

但末タ 御影ヲ拜戴セサル學校ニ於テハ本交前段ノ式ヲ省ク
二學校長若クハ教員教育ニ關スル 勅語ヲ奉讀ス

三學校長若クハ教員恭シク教育ニ關スル 勅語ニ基キ 聖意ノ在ル所ヲ誦告シ又ハ
歷代天皇ノ 盛徳 鴻業ヲ敘シ若クハ祝日大祭日ノ由來ヲ敘スル等其祝日大祭日ニ相應スル演說ヲ爲シ忠君愛國ノ
志氣ヲ涵養センコトヲ務ム

四學校長教員及生徒其祝日大祭日ニ相應スル唱歌ヲ合唱ス

第二條 孝明天皇祭春季皇靈祭神武天皇祭及秋季皇靈祭ノ日ニ於テハ學校長教員及生徒一同式場ニ參集シテ第一條第
三款及第四款ノ儀式ヲ行フヘシ

第三條 一月一日ニ於テハ學校長教員及生徒一同式場ニ參集シテ第一條第一款及第四款ノ儀式ヲ行フヘシ

第四條 第一條ニ掲クル祝日大祭日ニ於テハ便宜ニ從ヒ學校長及教員生徒ヲ率井テ體操場ニ臨ミ若クハ野外ニ出テ遊
戯體操ヲ行フ等生徒ノ心情ヲシテ快活ナラシメンコトヲ務ムヘシ

第五條 市町村長其他學事ニ關係アル市町村吏員ハ成ルヘク祝日大祭日ノ儀式ニ列スヘシ

第六條 式場ノ都合ヲ計リ生徒ノ父母親戚及其他市町村住民ヲシテ祝日大祭日ノ儀式ヲ參觀スルコトヲ得セシムヘシ

第七類 第三章 小學校教員

第七條 祝日大祭日ニ於テ生徒ニ茶菓又ハ教育上ニ裨益アル繪畫等ヲ與フルハ妨ナシ
第八條 祝日大祭日ノ儀式ニ關スル次第等ハ府縣知事之ヲ規定スヘシ

○府縣立師範學校長特別任用令

二十四年八月十七日 勅令第七十三號

朕府縣立師範學校長特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十三號

府縣立師範學校長特別任用令

第一條 府縣立師範學校長ハ高等師範學校ノ卒業證書ヲ有スル者若クハ本令施行ノ際尋

常師範學校長ノ現職ニ在ル者又ハ五箇年以上教育ニ關スル公務ニ從事シ現ニ四拾圓以

上ノ月俸ヲ受クル判任官又ハ判任待遇ノ者ニ限り當分ノ内試験ヲ要セス文官高等試験

委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ任用シタル府縣立師範學校長ハ高等試験ヲ經ルニ非サレハ他ノ高等

官ニ轉任スルコトヲ得ス

附則

第三條 本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

○府縣立師範學校長任命及俸給令

二十四年八月十七日 勅令第七十二號

朕茲ニ府縣立師範學校長任命及俸給令ヲ裁可ス

御名 御璽

勅令第七十二號

府縣立師範學校長任命及俸給令

第一條 府縣立師範學校長ハ奏任トス

第二條 府縣立師範學校長ノ年俸ハ別表ニ依リ之ヲ支給ス

第三條 本令ニ規定スルモノ、外總テ本年勅令第八十二號高等官任命及俸給令ニ依ル

附則

第四條 本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

別表

一	級二	級三	級四	級五	級六	級六
千二百圓	千圓	圓九百	圓八百	圓七百	圓六百	圓六百

○學校職員及郡區書記戶長旅費額改正

二十四年八月十五日 內務省訓令第十八號

廳府縣 集治監 假置監 大阪衛生試驗所 橫濱衛生試驗所

明治二十年六月當省訓令第三十七號學校職員及郡區書記戶長旅費額左ノ通り改正シ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス
明治十九年勅令第六十五號同年閣令第三十五號ノ學校職員及郡區書記戶長等國庫費支辨ニ屬スル用務ヲ以テ旅行セシムルトキ學校職員ニシテ其奏任待遇ヲ受クルモノハ三等旅費判任待遇ヲ受クルモノ及ヒ郡區書記戶長ハ四等旅費ヲ內國旅費規則ニ依リ支給スヘシ

第八類

第一章 郵便 郵便貯金

第七類 第三章 俸給旅費
第八類 第一章 郵便

○三等郵便電信局長郵便局長等手當金年額改定 二十四年八月五日 遞信省令第十二號

三等郵便電信局長郵便局長手當金年額ヲ改定シ左表ニ依リ支給ス
其勤勞顯著ナル者ハ特ニ左表ノ範圍ニ拘ラス漸次年額四百圓迄ヲ給與スルコトアルヘシ
本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス
一級 九拾六圓 三級 七拾貳圓 五級 四拾八圓 七級 貳拾四圓 九級 拾貳圓
二級 八拾四圓 四級 六拾圓 六級 三拾六圓 八級 拾八圓 十級 九圓六拾錢
○郵便電信郵便爲替及郵便貯金事務ニ係ル民事訴訟ニ附キ國ヲ代表スル權利委任 二十四年六月二日 遞信省令第四號

明治二十四年一勅令第三號第三條ニ據リ郵便電信郵便爲替及郵便貯金事務ニ係ル民事訴訟ニシテ各一等郵便電信局及一等郵便局監督區内ニ於テ生シタル事件ニ就テハ當該局長ニ國ヲ代表スルノ權利ヲ委任ス

○在外國本邦郵便電信局長郵便局長以下局員月手當金給與額ヲ定ム 二十四年六月廿三日 勅令第六十七號

朕在外國本邦郵便電信局長郵便局長以下局員月手當金ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

勅令第六十七號
在外國本邦郵便電信局長郵便局長以下局員月手當金ハ別表定ムル所ニ依ル其給與細則ハ遞信大臣之ヲ定ム
本令ハ明治二十四年七月一日ヨリ施行ス
別表

國名	清國			朝鮮國		
	局長	書記	補記	局長	書記	補記
官名	局長	書記	補記	局長	書記	補記
手當額	金五拾圓	金三拾圓	金拾五圓	金貳拾五圓	金拾五圓	金拾圓

○在外國本邦郵便電信局長郵便局長以下局員月手當金給與細則 二十四年七月二日 遞信省令第七號

明治二十四年勅令第六十七號在外國本邦郵便電信局長郵便局長以下局員手當金給與細則左ノ通相定ム
在外國本邦郵便電信局長郵便局長以下月手當金給與細則
第一條 在外國本邦郵便電信局長及郵便局長以下局員ノ月手當金ハ任地著翌日ヨリ歸朝又ハ任地替等ノ爲メ其地出發前日マテ之ヲ支給ス
第二條 任地ニ於テ他廳へ轉任セシ者ノ月手當金ハ事務引繼濟ノ當日迄其退官又ハ非職トナリシ者ノ月手當金ハ辭令接受ノ當日迄之ヲ支給ス但其退官又ハ非職者ニシテ特ニ事務引繼ヲ命シタルトキハ他廳へ轉任ノ例ニ依ル
第三條 歸省其他私事旅行中ノ日數八月手當金ヲ支給セズ
第四條 轉官ノ爲メ月手當金ノ増減ハ總テ辭令接受ノ翌日ヨリ計算ス
第五條 在勤中死亡セシ者ノ其月分ノ手當金ハ全額ヲ支給ス
第六條 第一條乃至第四條ノ場合ニシテ一箇月未滿トナル月ノ手當金ハ總テ其月ノ日割ヲ以テ計算ス
第八類 第一章 郵便

第七條 月手當金ハ毎月末日支給スルモノトス但休暇日ニ當ル時ハ繰上ケトス

○第四種郵便物トシテ差出スヘキ營業品見本及雛形ハ其帶紙包紙等へ該種目及業名附記ノ件 二十四年九月二十八日
逓信省令第十四號

第四種郵便物トシテ差出スヘキ營業品見本及雛形ハ其帶紙包紙等ノ表面ニ營業品見本若クハ營業品雛形ト記載シ且ツ差出人受取人雙方氏名ノ上又ハ傍ニ業名ヲ附記スヘシ若シ差出人又ハ受取人ノ一方營業者ナルトキハ其一方ノ業名ヲ附記スヘシ此記載ナクシテ差出ストキハ前記ノ郵便物ニアラサルモノト見做シ取扱ヲ爲スヘシ

第二章 電信 電話

○電信取扱規則第五十六條中追加 二十四年七月十日
逓信省令第八號

明治十八年^五 大政官布達第七號電信取扱規則第五十六條ニ左ノ但書ヲ追加シ本年八月一日ヨリ施行ス
但鐵道所屬電信取扱所ニ於テ追徵スルトキハ追徵證書ニ郵便切手ヲ貼付セス

○電信取扱規則第一百一條乃至第一百六條改正 二十四年七月十一日
逓信省令第九號

明治十八年^五 大政官布達第七號電信取扱規則第一百一條乃至第一百六條左ノ通改正シ本年八月一日ヨリ施行ス
但本令施行期日後ニ到著シタル電報ト雖モ其期日前ニ發シタルモノニ付テハ從前ノ規則ヲ適用ス

第一百一條 郵便ニテ返信料前納電報ノ送達ヲ要スルトキハ尚書留郵便ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ
第一百十二條 返信料前納電報ヲ配送スルトキハ返信料前納アルコトヲ證明スル爲メ著信局ニ於テ返信用紙ニ左ノ事項ヲ記入シ返信料前納證書トシテ電報ト共ニ之ヲ受信人ニ交付スヘシ

- 一 返信料前納ノ金額及之ニ對スル字數（歐文ハ）
- 一 受信人名
- 一 發信局名、發信年月日及發信番號

一本書發行ノ年月日

第十三條 返信料前納電報ノ返信ハ何レノ郵便電信局電信局ヨリ發送スルヲ問ハス返信料前納ヲ證明シタル返信用紙ニ記載シテ差出スヘシ

其返信電報ノ料金ニシテ證書記載ノ金額ニ超過スルトキハ其超過額ニ相當スル郵便切手ヲ貼付スヘシ

第十四條 返信料前納證書使用ノ期限ハ發行ノ日ヨリ六十日以内トス此期限ヲ過クルトキハ使用ノ效ヲ失フ

第十五條 返信電報ノ料金前納額ニ滿タサルトキハ前納シタル日ヨリ百二十日以内ニ返信料前納電報ノ發信人ヨリ返信電報ヲ添ヘ其殘額ノ還付ヲ逓信省ニ請求スルコトヲ得

返信料前納證書不用ニ屬スルトキハ證書發行ノ日ヨリ百二十日以内ニ返信料前納電報ノ發信人ヨリ其證書ヲ添ヘ返信料ノ還付ヲ逓信省ニ請求スルコトヲ得

第十六條 受信人返信料前納證書ヲ受領スルコトヲ拒ムトキハ其事由ヲ發信人ニ報知スル爲メ著信局ヨリ電報ヲ以テ其旨發信局ニ報知シ此報知電報ハ返信ノ代ト見做スヘシ但和文一音信分歐文五語分ヲ超過シテ返信料前納シタルモノハ發信人ヨリ其超過額ノ還付ヲ逓信省ニ請求スルコトヲ得其請求期限ハ第一百五條ニ同シ

居所不明其他ノ事故ニ依リ返信料前納證書ヲ受信人ニ交付スルコト能ハサルトキハ七日間著信局前ニ其旨ヲ揭示シ此期限内ニ尚交付スルコト能ハサルトキハ前項ノ例ニ依テ處分スヘシ

○本邦ト露西亞國西伯利亞間發著電報料ノ件 二十四年六月二十四日
逓信省令第五號

長崎烏拉日阿斯德間海底電信線ヲ經由シテ本邦ト露西亞國西伯利亞間ニ發著スル電報ハ一語ニ付料金八拾六錢四厘ヲ徵收ス但錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ壹錢ニ切上クルモノトス

明治十八年五月第九號布達第六項電報料金表第三行中「及浦潮斯德」ノ五字ヲ刪除ス
本令ハ明治二十四年七月一日ヨリ施行ス

○逓信省ヨリ鐵道所轄ノ官廳又ハ其所有者ニ交付スヘキ電信電話手數

第八類 第二章 電信 電話

料金額割合改正 閣令第三號

閣令第二號

明治二十一年勅令第七十八號鐵道所屬電信電話線公衆ノ通信取扱規則第三條ニ依リ同年閣令第二十號ヲ以テ定メタル遞信省ヨリ鐵道所轄ノ官廳又ハ其所有者ニ交付スヘキ手數料金額ノ割合左ノ通改正ス

一 鐵道所屬ノ電信電話線ノミヲ用テ傳送シタルモノハ其電報料ノ全額又遞信省ノ電信電話線ヲ混用シテ傳送シタルモノハ其電報料ノ三分一ニ相當スル手數料ヲ交付スヘシ

但鐵道所轄ノ官廳又ハ其所有者二名以上ノ電信電話線ヲ混用シタルトキハ鐵道電信取扱所ノ發信ニ係ルモノハ發信取扱所ヲ所轄スル官廳又ハ其所有者ニ郵便電信局又ハ電信局ノ發信ニ係ルモノハ著信取扱所ヲ所轄スル官廳又ハ其所有者ニ之ヲ交付スルモノトス

二 鐵道電信取扱所ニ於テ別使配達又ハ解船配達ヲ爲シ若ハ電報受取證又ハ電報正寫ヲ交付シタルトキハ其配達料又ハ手數料ノ全額ニ相當スル手數料ヲ交付スヘシ

○電信線電話線ノ柱木敷地手當金ノ交付ヲ望マサルモノニ係ル件 遞信省訓令第六號北海道

電信線電話線ノ柱木敷地手當金ノ交付ヲ望マサルモノアルトキハ其應限リ之ヲ交付セス其都度人名及柱木ノ員數ヲ本大臣ニ報告スヘシ

臣ニ報告スヘシ但客年法律第五十八號實施ノ日ヨリ本年九月三十日迄ニ係ルモノハ本年十月三十一日ヲ限リ取纏メ之ヲ報告スヘシ

○電氣事業取締方法及許可ノ件 遞信省訓令第七號警視廳北海道廳府縣

自今其管下ニ於テ電氣事業ヲ管メントスルモノアルトキハ取締方法ヲ設ケ本大臣ノ認可ヲ得テ後之ヲ許可スヘシ現ニ其事業ヲ營ムモノニ在リテハ現在實行スル取締方法ヲ詳具シ本年十月一日迄ニ之ヲ本大臣ニ報告スヘシ

○電話交換規則第十二條改正 遞信省令第六號

電話交換規則第十二條左ノ通改正ス

加入者納期ニ至リ使用料電話料又ハ電話ニ由リ發送シタル電報料ヲ納付セサルトキハ其電話通信ヲ停止シ若クハ加入ヲ除クコトアルヘシ但加入ヲ除キタルトキハ其既納ノ料金を還付セス

○電信局所開始スルトキ若クハ既設電信局所電報配達町程表ノ改正ヲ要スルトキハ調表送付

方 遞信省訓令第十號北海道廳府縣

新ニ電信局所ヲ開始スルトキ若クハ既設電信局所電報配達町程表ノ改正ヲ要スルトキハ電報配達町程調査ノ爲メ町村名及里程ノ取調方ヲ監督一等郵便電信局又ハ當該電信局所ヨリ照會スヘキニ依リ其應ハ左ノ書式並備考ニ照準調表ヲ製シ照會ヲシタル局所ニ之ヲ送付スヘシ

電報配達町程調表

何府縣 又ハ廳
何國

何々郵便電信局又ハ電信局又ハ電信取扱所

何市何區	何町同上	何町何郡何村大字	何里同上
何町	以內何々町	以內何々	以內何々字何々
何郡何町大字	何里何町同郡何村大字	何里何町何國何郡	海何里
何	以內何々	以內何島	陸何里何町
何郡	何里何郡何村大字	以內何々	
何村	以內何々字何々	以內何々	
何國何郡	何里何郡何村大字	何里同上	
何村	以內何	何々字何々	以內
以下此例ニ準ス			

備考

- 一地名イロハ分ハ大字名(大字名ナキト)ノ頭字音ニ依ルヘシ
- 一郡市區名又ハ本町村名ハ大字名ノ肩書トシ(大字名ナキトキハ郡市區)且字名アルモノハ之ヲ大字名ノ下ニ記スヘシ
- 但甲國ニアル局所ノ町程表ニ乙國ノ町村名ヲ記スルトキハ郡名ノ上ニ猶其國名ヲ冠スヘシ
- 一郡市區町村大字又ハ字名ニシテ其讀方ニ様アルカ又ハ普通ノ讀方ニ據ラサルカ若クハ方言アルモノノ類ハ凡テ傍訓ヲ附スルモノトス

- 一里程ハ其局ヨリ起算シ町村ノ中央迄ヲ以テ定メ九町ヲ單位トシテ計算スヘシ例ハ滿九町迄ヲ九町以內トシ之ニ超ユルトキハ滿十八町迄ヲ十八町以內ト記載シ二十七町ヲ超ヘテ三十六町迄ハ一里トシ其以上ハ何里何町ト記スヘシ
- 但島嶼アルトキハ海何里何町ト記スヘシ
- 一本表ニハ郡區町村大字等ノ位置ヲ示シタル略圖ヲ添付スルモノトス

第九類

第一章 年曆 神社神官 祭典

官國幣社神職奉務規則

二十四年八月十四日 內務省訓令第十七號 北海道廳府縣

官國幣社神職奉務規則左ノ通相定ム

官國幣社神職奉務規則

- 第一條 官國幣社神職ハ國家ノ宗祀ニ從事シ國家ノ禮典ヲ代表スル職務タルヲ以テ平素國體ヲ辨シ國典ヲ修メ躬行ヲ正クシテ以テ本務ヲ盡スヘシ
- 第二條 官國幣社祭典ハ國家彝倫ノ標準タルヲ以テ齋肅恭敬首トシテ報本反始ノ誠意ヲ表スヘシ
- 第三條 祈年新嘗例祭等總テ官祭ノ典則ハ非常ノ事故ニアラサレハ成規ノ時間ヲ猥リニ伸縮スヘカラス
- 第四條 祭祀典則ハ舊來ノ儀式ヲ遵守シ其社ノ禮祭民俗因襲ノ神賑等適宜行フコトヲ得
- 但臨時祭ヲ行ハントスルトキハ地方廳及所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
- 第五條 人民ノ請求ニ應ジ神符神像等ヲ授クルハ妨ナシト雖トモ苟モ貪汚ノ所爲アルヘカラス
- 第六條 社殿及其境內ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セス悠久ノ保存ヲ要ス
- 第七條 神社所藏ノ寶物什器古文書類等常ニ散失ナキ樣監視シ神社所有ノ財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ
- 第八條 神社ノ財産中人民ノ寄附ニ係リ永遠ノ目的ヲ以テ備ヘタル土地金穀ヲ變更セントスル場合ハ官國幣社ト雖トモ
- 第九類 第一章 神社神官

氏子又ハ講社アルトキハ其總代協議ノ上地方廳ノ許可ヲ得ヘシ

第九條 神社ニ委託山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカ如キコトナカラシムルヲ要ス

○府縣鄉村社神官奉務規則改正 二十四年七月六日 內務省訓令第十二號 北海道廳府縣

府縣鄉村社神官奉務規則左ノ通改正ス

府縣鄉村社神官奉務規則

第一條 神官ハ神明ニ對シ尊崇悃誠ヲ主トシ典例ニ從ヒ各其本務ヲ盡スヘシ

第二條 神官ハ祭祀ノ典則舊來ノ儀式ヲ遵守シ決テ紛亂スヘカラス其社ノ例祭民俗因襲ノ神賑等ハ適宜行フコトヲ得 但臨時祭ヲ行ハントスルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第三條 神官ハ人民ノ請求ニ應シ祠符神像等ヲ授クルハ妨ケナシト雖トモ苟モ貪汚ノ所爲アルヘカラス

第四條 神官ハ社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セス汚穢破損ニ至ラシムヘカラス

第五條 神官ハ神社所藏ノ寶物什器及古文書類ヲ監護シテ散逸セシムヘカラス如何ナル場合ト雖トモ賣却讓與又ハ質入 書入スヘカラス

第六條 神官ハ神社所有ノ財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ

第七條 神官ハ其管理ニ係ル不動産積立金穀ヲ監リニ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス若シ不得止必要アルトキハ氏子 又ハ信徒ノ協議ヲ經テ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 神社ニ委託山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカ如キコトナカラシムルヲ要ス

第二章 寺院僧侶 社寺財產

○御料地ノ内社寺ノ上地ニ係ル該社寺ニシテ委託出願方 二十四年五月七日 宮內省告示第九號

御料地ノ内社寺ノ上地ニ係ルモノハ該社寺ノ出願ニ依リ本年四月農商務省令第五號社寺上地官林委託規則ヲ適用シ之ヲ 委託スルコトアルヘキニ付委託ヲ請ケントスル社寺ハ左ノ區別ニ從ヒ出願スヘシ

一 御料局支廳又ハ事務所ノ所管ニ屬スル御料地ニ對シテハ該支廳長又ハ事務所長

一 地方廳ニ委託シタル御料地ニ對シテハ該地方長官

一 以上列記外ノ御料地ニ對シテハ總テ御料局長

○社寺總代人ヲ置キ社寺ノ願届等ニ連署セシメ且收入財產等取調方中改正増補 月二十四年五

內務省訓令第八號 北海道廳府縣

明治十四年當省令第三十三號達中共有ノ二字ヲ社寺有ト改メ末條ニ左ノ一項ヲ増補ス

總代人ハ滿三年毎ニ改撰市町村役場若ハ戶長役場ヘ届出シムヘシ尤モ期限中ト雖トモ犯罪其他不良ノ所爲アルトキハ 臨時改撰セシムヘシ

但臨時改撰ノ外ハ前總代人再三當撰スルモ妨ケナシ

○佛道各宗派管長ニ訓諭 二十四年九月三日 內務省訓令第二十二號 佛道各宗派管長

佛道各宗ハ慈悲忍辱ヲ旨トシ衆生濟度ヲ目的ト爲シ宗祖先德ノ芳躅ヲ追躋シ其本分ヲ恪守シ布教傳道ニ從事スヘキハ現 二其宗制ニ掲ケ本大臣ニ於テ是ヲ認可セシ處ナリ然ルニ近來各宗ノ内往々黨ヲ樹テ社ヲ結ヒ互ニ名利ヲ爭ヒ健訟ノ風ヲ 醸成スル弊有之僧侶ニシテ有間敷所業ニ付各管長ニ於テ自ラ率先シ德義ノ上進ヲ冀圖シ風紀ノ頹廢ヲ匡正シ殊ニ宗務所 ノ如キハ管長ノ指示ヲ受ケ宗内諸般ノ事務ヲ掌理スル場所ナルニ依リ公平無私ニシテ宗内德望アル者ヲ登庸スル等總テ 宗規ノ戒飾方ニ一層注意スヘシ是レ特ニ管長ノ注意ヲ要スルノミナラス宗内各自ノ戒飾茲ニ出スシテ仍ホ其弊ヲ矯正ス ルコト能ハサルトキハ本大臣監督上臨機ノ處分ヲ爲スハ格別トシ其宗ノ自カラ衰亡ニ歸スルハ必然ニ可有之假令其宗 名ヲ存スルモ既ニ其實ヲ失ヒ宗祖先德ニ對シ實ニ面目ナキ次第ニ可立至就テハ自今猛省警悟シテ一宗ノ安寧ヲ保持スヘ シ

第十類

第九類 第二章 社寺財產

第二章 公債貸附

○政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受クル場合ニ於ケル會計上ノ規程四年十

六月八日
勅令第五十五號

朕政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受クル場合ニ於ケル會計上ノ規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十五號

第一條 第三債務者トシテ政府ノ仕拂フヘキ金額ニ對スル差押命令ハ仕拂命令官ニ宛テ

第二條 仕拂命令官ハ一廉ノ負債金額ニ對シ差押命令ヲ受タル場合ニハ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ差押債權者ノ氏名ヲ加記シ國庫ヲシテ差押債權者ニ對シ仕拂ヲ爲サシムル手續ヲナスヘシ

第三條 仕拂命令官ハ負債額ノ一部分ニ對シ差押命令ヲ受タル場合ニハ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ分割シ差押ヲ受タル金額ノ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ差押債權者ノ氏名ヲ加記シ國庫ヲシテ差押債權者ニ對シ仕拂ヲ爲サシムル手續ヲナスヘシ

第四條 繼續收入ノ差押命令ヲ受ル前仕拂命令官ニ於テ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ發シタルトキハ其命令ハ次期以後ノ仕拂ニ對シテ其効ヲ失ハス

第五條 仕拂命令官既ニ通常仕拂命令又ハ仕拂請求書及集合仕拂命令又ハ集合仕拂請求書ヲ發シタル場合ニ於テハ會計主務官ニ向テ差押命令ヲ發スヘシ

第六條 會計主務官ハ差押命令ヲ受ルトキハ差押金額ヲ差押債權者ニ仕拂フヘキ旨ヲ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ記入シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ但債權ニ付配當要求ノ送達ヲ受タルトキハ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ金庫ニ送付スヘシ

第七條 會計主務官仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ記名者ニ交付シ又ハ金庫ニ送付シタル後差押命令ヲ受タルトキ未タ金庫ニ於テ仕拂了セサル場合ニ於テハ金庫ノ仕拂ヲ停止シ其仕拂命令又ハ仕拂請求書ノ提出ヲ待テ更ニ前條ノ手續ヲナスヘシ

第八條 差押債權者差押命令送達ノ通知ヲ受ルトキ緊急ノ場合ニ於テハ仕拂ヲ執行スヘキ金庫ニ向ヒ假リニ仕拂ノ停止ヲ求ムルコトヲ得

第九條 繼續收入ノ債權差押ノ場合ニ於テ關係官廳ヲ變更スルトキハ甲仕拂命令官ノ受
タル差押命令ハ乙仕拂命令官ニ於テ之ヲ繼續スルモノトス

第十條 債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受タル場合ニハ會計主務官ノ指定ニ依リ金庫ニ於
テ債務額ヲ供託スヘシ但現金前渡ヲナシタル金錢ノ債權ニ關スルトキハ現金前渡ヲ受
タル官吏又ハ銀行ニ於テ債務額ヲ供託スヘシ

第十一條 民事訴訟法第六百七條ノ命令ニ依リ債務額ノ供託ヲ要スルトキハ前條ノ手續
ニ準據スヘシ

第十二條 假差押命令ノ場合ニ於テハ本規則ヲ準用ス
○政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受ケタルトキ仕拂手續 二十四年六月十六日
大藏省令第十六號
政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受タルトキ仕拂手續左ノ通り定ム

第一條 明治二十四年勅令第五十五號第二條及第三條ニ依リ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ差押債權者ノ氏名ヲ加記スルハ
朱書ヲ以テ仕拂命令又ハ仕拂請求書式中何之誰渡トアル傍ニ於テスヘシ

第二條 明治二十四年勅令第五十五號第三條ニ依リ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ分割スルトキ其官吏遺族扶助法納金ノ差
引ヲ要スルモノハ政府ノ債權者ニ交付スル仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ於テスヘシ

第三條 仕拂命令官ニ於テ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ發シタル後差押命令ヲ受タルトキハ其發行濟ノ旨ヲ當該執行裁判
所ニ通知スヘシ

第四條 明治二十四年勅令第五十五號第五條二項ニ依リ現金前渡ヲ受タル官吏又ハ記名公債元利ノ仕拂ヲ取扱フ銀行ニ
於テ差押命令ヲ受タルトキハ差押債權者ヨリ適宜ノ領收證書(公債元利ノ場合ニ於テハ公債證書又ハ利札トモ)ヲ徵シ
其差押金額ヲ仕拂フヘシ但債權ニ付配當要求ノ送達ヲ受タルトキハ其差押金額ヲ供託シ其旨ヲ當該執行裁判所ニ通知
スヘシ

前項ノ場合ニ於テ民事訴訟法第六百二條ノ通知ヲ受タルトキハ差押債權者ノ要求額ヲ差押債權者ニ仕拂ヒ又ハ供託シ
其超過額ハ政府ノ債權者ヨリ民事訴訟法第六百二條ノ通知書ヲ示シ請求シタルトキ適宜ノ領收證書ヲ徵シ之ヲ仕拂フ
ヘシ

第五條 明治二十四年勅令第五十五號第六條ニ依リ差押金額ヲ差押債權者ニ仕拂フヘキ旨ヲ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ
記入セントスルトキハ其裏面ニ表面ノ金額(又ハ内何程)差押債權者何之誰ニ仕拂フヘシト記入スヘシ但集合仕拂命
令又ハ集合仕拂請求書ニ係ルトキハ右ノ外債主ノ金額氏名表中當該債主氏名ノ上ニ其旨ヲ記入スヘシ

第六條 明治二十四年勅令第五十五號第六條ニ依リ差押債權者ニ交付スヘキ證據ハ書式第一號ニ依ルヘシ

第七條 前條ノ證據ヲ持參シ仕拂ヲ請求スルモノアルトキハ金庫ハ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ對照シ差押債權者ヲシテ
該證據ニ書式第一號ノ如ク領收ノ旨ヲ記入セシメタル上之ヲ引換ニ仕拂ヲナスヘシ

第八條 明治二十四年勅令第五十五號第六條一項及二項但書ノ場合ニ於テ會計主務官ハ書式第二號ノ供託通知書ヲ金庫
ニ送付スヘシ

第九條 金庫ニ於テ前條ノ通知書ヲ受タルトキハ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ對照シ其金額ヲ排出シ供託ノ手續ヲナシ其
旨ヲ會計主務官ニ通知スヘシ

第十條 會計主務官ハ前項ノ通知ニ依リ其旨ヲ當該執行裁判所ニ通知スヘシ
第十條 明治二十四年勅令第五十五號第七條ニ依リ會計主務官ニ於テ金庫ノ仕拂ヲ停止セントスルトキハ書式第三號ノ
仕拂停止通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ

金庫ニ於テ前項ノ通知書ヲ受タルトキ其既ニ仕拂済ナルトキハ通知書ヲ返付シ又仕拂未済ナルトキハ書式第四號ノ承
諾書ヲ會計主務官ニ送付スヘシ

金庫ハ本條ニ依リ仕拂停止ノ承諾書ヲ會計主務官ニ送付シタルトキハ會計主務官ヨリ仕拂停止解除ノ通知ヲ受ルニア
ラサレハ仕拂ヲナスヘカラス

第十一條 明治二十四年勅令第五十五號第八條ニ依リ差押債權者ニ於テ仕拂ノ停止ヲ金庫ニ請求セントスルトキハ差押
命令送達通知書ヲ添ヘ書式第五號ノ仕拂停止請求書ヲ金庫ニ差出スヘシ

金庫ニ於テ前項ノ請求書ヲ受タルトキ其既ニ仕拂済ナルトキハ請求書ヲ返付シ又仕拂未済ナルトキハ書式第六號ノ承
諾書ヲ差押債權者ニ交付スヘシ但差押命令送達通知書ハ同時ニ之ヲ返付スルモノトス

金庫ハ本條ニ依リ仕拂停止ノ承諾書ヲ差押債權者ニ交付シタルトキハ會計主務官又ハ差押債權者ヨリ仕拂停止解除ノ
通知ヲ受ルニアラサレハ仕拂ヲナスヘカラス

第十二條 明治二十四年勅令第五十五號第七條ノ場合ニ於テ政府ノ債權者ハ速ニ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ會計主務官
ニ提出シ該勅令第六條ノ手續ヲ受クヘシ

第十三條 明治二十四年勅令第五十五號第九條ノ場合ニ於テハ甲仕拂命令官ヨリ即時ニ其旨ヲ乙仕拂命令官ニ通知シ差
押命令ノ引繼ヲナスヘシ

(第一號書式)

證標

差押債權者

何府(縣)何地

何 之 誰

會計主務官

官 氏 名 圖

年 月 日

右者某年度何處所管仕拂命令(仕拂請求書)第 號何之誰渡内金何程ノ仕拂ヲ受クヘキ差押債權者タルコトヲ明治二十
四年勅令第五十五號第六條二項ニ依リ證明ス

何地金庫宛

前記證標ノ金額何程正ニ領收候也

年 月 日

何地金庫宛

差押債權者

何 之 誰 圖

備考「前記證標云々」以下ハ差押債權者ニ於テ記入シ印紙ヲ貼用スルモノトス
(第二號書式)

供託通知書

某年度何處所管仕拂命令(仕拂請求書)第何號何之誰渡(又ハ渡ノ内)

「某年度何處所管集合仕拂命令(集合仕拂請求書)第何號ノ内何之誰渡(又ハ渡ノ内)」
一金何程

右ノ金額明治二十四年勅令第五十五號第十條ニ依リ供託可有之候也

年 月 日

何地金庫宛

會計主務官

官 氏 名 圖

備考「ハ集合仕拂命令又ハ集合仕拂請求書ノ場合ヲ示ス
(第三號書式)

仕拂停止通知書

仕拂命令(仕拂請求書)番號
仕拂命令官々氏名
何府(縣)何地何之誰渡

一金何程

右ハ差押命令ヲ受ケタルニ付仕拂停止相成度明治二十四年勅令第五十五號第七條ニ依リ此段通知候也

第十類 第二章 公債貸附

會計主務官
官 氏 名 宛

年月日
何地金庫宛

(第四號書式)
承諾書

仕拂命令(仕拂請求書)番號
仕拂命令官々氏名
何府(縣)何地何之誰宛
一金何程

右明治二十四年勅令第五十五號第七條ニ依リ仕拂停止方御通知ノ趣承諾候也

(第五號書式)
仕拂停止請求書

仕拂命令(仕拂請求書)番號
仕拂命令官々氏名
會計主務官々氏名
何府(縣)何地何之誰宛
一金何程

右ハ別紙ノ通り裁判所ヨリ差押命令送達ノ通知ヲ領シ候ニ付仕拂停止相成度明治二十四年勅令第五十五號第八條ニ依リ此段請求候也

年月日
何之誰債權者
何府(縣)何地
何之誰 宛

(第六號書式)
承諾書

仕拂命令(仕拂請求書)番號
仕拂命令官々氏名
會計主務官々氏名
何府(縣)何地何之誰宛
一金何程

右明治二十四年勅令第五十五號第八條ニ依リ仕拂停止方請求ノ趣承諾候也

年月日
何之誰債權者
何地 金 庫 宛

○政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受ケタルトキ案内仕拂命令同請求書取扱方及供託受領證取扱方手續

本年大藏省令第十六號ニ依リ差押命令ヲ受ケタルトキ案内仕拂命令又ハ案内仕拂請求書取扱方及供託受領證取扱方手續左ノ通心得ヘシ

一 會計主務官ニ於テ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ金庫ニ送付シ又ハ政府ノ債權者若クハ差押債權者ニ交付スル以前ニアツテ本年大藏省令第十六號第五條ニ依リ差押金額ヲ差押債權者ニ仕拂フヘキ旨ヲ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ記入スル場合ニハ案内仕拂命令又ハ案内仕拂請求書ニモ同様記入ヲナスヘシ

一 金庫ニ於テ本年勅令第五十五號第七條ニ依リ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ會計主務官ヘ提出スル場合ニハ案内仕拂命令又ハ案内仕拂請求書ヲ添付スヘシ

會計主務官ニ於テ前項金庫ヨリ仕拂命令又ハ仕拂請求書ノ提出ヲ受ケ本年大藏省令第十六號第五條ニ依リ差押金額ヲ差押債權者ニ仕拂フヘキ旨ヲ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ記入スル場合ニハ案内仕拂命令又ハ案内仕拂請求書ニモ同様記入ヲナスヘシ

一會計主務官ニ於テ本年大藏省令第十六號第十二條ニ依リ政府ノ債權者ヨリ仕拂命令又ハ仕拂請求書ノ提出ヲ受ケ同省令第五條ニ依リ差押金額ヲ差押債權者ヘ仕拂フヘキ旨ヲ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ記入シタル場合ニハ左ノ書式ノ通知書ヲ製シ金庫ニ送付スヘシ

一金庫ニ於テ本年大藏省令第十六號第九條ニ依リ供託ヲナシタル旨ヲ會計主務官ニ通知スル場合ニハ其供託受領證ヲ添付シ之ニ對スル受取證書ヲ徴シ置クヘシ

會計主務官ニ於テ前項金庫ヨリ供託受領證ヲ受ケタル場合ニハ當該執行裁判所ニ通知スルト同時ニ其供託受領證ヲ送付シ之ニ對スル受取證書ヲ徴シ置クヘシ

記

(仕拂命令番號)	(仕拂命令發行年月日)
(所管廳名)	(仕拂命令官官氏名)
(仕拂命令金額)	(債主氏名)
右仕拂命令(又ハ仕拂請求書)ヘ左記ノ通記入濟ニ付明治二十四年大藏省訓令第六十一號ニ依リ及御通知候也	
(仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ記入シタル文言ヲ茲ニ記スヘシ)	
何年何月何日	會計主務官官氏名 印
何金庫宛	

○諸貸付金取扱順序第二條中改正 二十四年五月四日 大藏省訓令第四十四號北海道廳府縣
 明治二十三年七月大藏省訓令第十五號第二條中本年當省訓令第四十七號及第四十九號ノ十七字ヲ明治二十二年十一月當省訓令第六十六號及二十四年三月同第十六號ノ三十字ニ改ム

第十一類

第一章 租稅總則 租稅徵收 租稅怠納并犯則 地方稅 府縣

稅徵收 備荒儲蓄

○直稅分署間稅分署位置中改定追加 二十四年六月四日 大藏省令第十四號

明治二十三年十一月 當省令第二十九號直稅分署間稅分署位置中岐阜縣多治見ヲ土岐津ニ廣島縣竹原ヲ西條ニ福岡縣柳河ヲ下瀬高二改メ管轄區域中鹿兒島縣川邊郡ノ下「硫黃島、黑島、竹島、口之島、臥蛇島、平島、中之島、惡石島、諏訪之瀨島、寶島」ノ三十一字及大島郡ノ下「川邊郡ノ内、硫黃島、黑島、竹島、口之島、臥蛇島、平島、中之島、惡石島、諏訪之瀨島、寶島」ノ三十三字ヲ追加ス

○每年度國稅賦課計算書調製方第二項改正 二十四年六月八日 大藏省訓令第五十二號府縣(沖繩縣ヲ除ク)

明治二十三年當省訓令第二十九號中第二項及ヒ但書左ノ通更正ス
 一前年度所屬ノ租稅ニシテ四月一日以降異動發見ニ係ル分ハ發見年度ニ於テ調理シ追加計算書 表面へ元年 度ヲ記載ス 度ヲ記載ス
 年度ノ賦課計算書ト共ニ送付スヘシ

但賦課計算書記載方ノ誤謬ニ係ルモノハ會計年度經過後七箇月以内更正ヲ請フヘシ

○租稅徵收取扱收入官吏提出ノ計算書下檢査委任方 二十四年五月八日 大藏省訓令第四十五號北海道廳府縣
 租稅ノ徵收ヲ取扱フ收入官吏ヨリ提出スル會計規則第九十五條第九十七條第九十九條ノ計算書下檢査ハ自今北海道廳長 官府縣知事ニ委任ス

○內國稅徵收費所屬物品會計規程第十八條削除 二十四年七月二十三日 大藏省訓令第六十二號
 明治二十二年九月當省訓令第六十號內國稅徵收費所屬物品會計規程第十八條ヲ削除ス

○二十四年度内國稅徵收費配賦並取扱順序中削除改正 二十四年八月廿八日 大藏省訓令第七十一號

明治二十四年度内國稅徵收費配賦並取扱順序中第一條第三類費退官賜金ノ下「滿期非職者ニ給スル分ニ限ル」十三字及第二條第三項ノ但書ヲ削除シ第五條中「ヲ請フ」ノ三字ヲ「スル」ノ二字ニ改メ第四條ヲ左ノ通更正ス

○二十四年度歲出中中央備荒儲蓄金補助ノ支出ハ毎月仕拂内譯ノ證明ヲ要セス 二十四年七月三日 大藏省訓令第五十九號

明治二十四年度當省所管歲出中中央備荒儲蓄金補助ノ支出ハ毎月仕拂内譯ノ證明ヲ要セス

第二章 地租 所得稅 水產稅 酒、醬、醬油稅 菓子、煙草、

賣藥稅 船、車、牛馬賣買稅

○變換地取扱方更正 二十四年八月一日 大藏省訓令第六十五號 府縣(沖繩縣ヲ除ク)

明治二十三年十一月十一日 當省訓令第四百三十三號變換地取扱方左ノ通更正ス
一 地目若クハ地類ヲ變換シタル者届出ツルモノアル時ハ其變換セシ地目ヲ土地臺帳地目ノ傍ニ朱記シ置クヘシ
一 登記ヲ受タル土地ニ係ル場合ト雖モ地目若クハ地類變換ハ其變換地整理完了ノ後登記法第四十一條ニ據リ地目ノ變更ノ段別ノ増減等併セ通知スヘシ

○北海道水產稅則施行細則中削除改正 二十四年八月一日 大藏省訓令第二十號

明治二十年四月 當省令第六號北海道水產稅則施行細則第三條中「稅則第十六條ニ該當スルモノ、外」ノ十五字ヲ削リ「毎年四月九月ノ兩度ニ其前月マテノ總高ヲ」トアルヲ「前半年分ヲ其年八月ニ後半年分ヲ翌年二月ニ」ト改ム

○北海道水產稅品產出高及其價額報告方 二十四年八月一日 大藏省訓令第六十四號 北海道廳

明治二十年五月 當省令第二九六五號ヲ以テ北海道水產稅品產出高及其價額報告方相達置候處自今其年一月ヨリ六月マテノ分ヲ九月ニ七月ヨリ十二月マテノ分ヲ翌年三月ニ從前ノ様式ニ據リ主稅局ヘ報告スヘシ

第四章 稅關輸出入 領事館

○日本帝國領事規則中改正 二十四年六月十六日 勅令第六十四號

朕日本帝國領事規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽
勅令第六十四號

日本帝國領事規則中領事手数料及出張入費表目十項十一項左ノ通改正ス

十 船舶賣却及抵當ノ公認

登簿噸數十五噸以下 百五十石以下 五拾錢

同 十五噸以上百噸以下 百五十石以上 壹圓

同 百噸以上 千石以上 四圓

十一 國旗掲揚ノ認可書

手数料ノ割合十項ニ同シ

○公使館領事館費用條例第六條中追加 二十四年六月二日 勅令第五十號

朕公使館領事館費用條例中追加ノ件ヲ裁可ス

第十一類 第二章 地租 水產稅 第四章 領事館 八十七

御名 御璽

勅令第五十號

明治二十四年勅令第三十三號公使館領事館費用條例第六條中「但」ノ下ニ「外交官及領事官ニシテ」ノ十字ヲ加フ

○公使館領事館費用條例中追加二十四年八月十日勅令第六十八號

朕茲ニ公使館領事館費用條例中追加ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

勅令第六十八號

明治二十四年^三勅令第三十三號公使館領事館費用條例第二號表中「桑港、ホノル、」ノ欄内「墨西哥」ノ一箇所ヲ追加ス

第二號

領事官及領事館書記生在勤俸	官任所		紐倫敦		里昂		桑港、ホノル		ヴァンクーヴァー	
	總領事	代理	總領事	代理	總領事	代理	總領事	代理	總領事	代理
總領事代理	二千五百圓	二千四百圓	二千九百圓	二千七百圓	二千七百圓	二千六百圓	二千七百圓	二千三百圓	二千三百圓	二千二百圓
領事	二千三百圓	二千二百圓	二千二百圓	二千一百圓	二千一百圓	二千一百圓	二千一百圓	二千一百圓	二千一百圓	二千圓

領事代理	總領事代理		領事代理		副領事		書記生	
	總領事	代理	總領事	代理	總領事	代理	總領事	代理
總領事代理	二千七百圓	二千六百圓	二千五百圓	二千四百圓	二千四百圓	二千三百圓	二千三百圓	二千三百圓
領事	二千七百圓	二千六百圓	二千五百圓	二千四百圓	二千四百圓	二千三百圓	二千三百圓	二千三百圓

○公使館領事館費用條例細則二十四年四月二十九日

明治二十四年勅令第三十三號公使館領事館費用條例細則左ノ通定メ該條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

公使館領事館費用條例細則

- 第一條 費用條例第十四條ノ代理者加給及ヒ領事代理俸ハ事務引繼ヲ了リタル翌日ヨリ之ヲ給シ本任官歸任若クハ新任本官到著ノ日ニ到リテ止ム
- 第二條 補助員及傭員ノ月俸ハ毎月末之ヲ給ス但端日數ニ係ルモノハ日割計算ス
- 第三條 東京任所間往返ノ途次自己ノ都合ニ因リ滞在若クハ迂路ヲ同行シタルトキハ其日子ニ對スル日當及實費船車料ヲ給セス但船待セシ者又ハ病ニ罹リ醫師ノ診斷書ヲ添證明シタル者ハ此限ニ在ラス
- 第四條 公使館領事館ノ經費ハ左ノ如ク區分ス
 - 實費精算ヲ要スル費目
 - 修繕費 家屋牆壁溝渠旗竿等ノ修繕
 - 費並對客問事務所敷物費
 - 裁判及囚徒費
 - 朝鮮國居留地取締費

第十一類 第四章 領事館

地所家屋借料

廳費

備品費ノ内

器具

國旗竝網

官印

公務所椅子竝机

書棚鐵函

窓飾戸帳 對客間食堂ニ限ル

椅子

食堂用テーブル

食堂用戸棚

圖書費ノ内

書籍地圖類

通信運搬費ノ内

電信料

運搬費 保險料及公館移轉ノ節什器運搬ノ費用

見本品購入代

雜費

諸謝金 公館ヨリ訴訟若クハ要求ヲ爲サヘルヘカ
ラサル場合ニ於テ代言人ニ依頼等ノ支拂

爲換料

火災保險料

道路疏水等ノ手當 上水賦金其他ノ諸稅等

在外國難民貸與金

受繼電信料

墓地管理費

精算ヲ間ハサル渡切費目

廳費

備品費ノ内

點火器

圖書費ノ内

新聞雜誌類 内外各種ノ新聞雜誌
アルマナツクノ類

製本費

筆紙墨文具

用紙封筒ノ類

諸帳簿 會計諸帳簿

消耗品

薪炭油 朝鮮國護衛所及警察署ニ限ル

通信運搬費ノ内

郵便稅 郵便發送ノ爲メニ要スル諸費共

第十一類 第四章 領事館

傭人被服費 公使館ニ限ル
雜費

諸手數料

廣告料

印紙料

器具器械其他借料

雜給

雇人料 僕長玄關番公務所小使但公使館ニ限ル

宴會費 領事館ハ天長節ニ限ル

第五條 前條科目外ノ費用ハ公使領事若クハ其代理者ノ負擔トス

第六條 渡切費用ハ各科目定額ヲ十二分シ其一分ヲ以テ一箇月分トシ毎月末之ヲ各館長官ニ交付シ當該長官ノ領收證書ヲ以テ支拂ヲ證明スヘシ

○外交官領事官貿易事務官公使館書記生及領事館書記生賜暇歸朝規則

則 二十四年七月四日
勅令第七十四號

朕外交官領事官貿易事務官公使館書記生及領事館書記生賜暇歸朝規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

外交官領事官貿易事務官公使館書記生及領事館書記生賜暇歸朝規則

第一條 外交官領事官貿易事務官公使館書記生及領事館書記生引續歐米諸國ニ滿四年以

上又ハ東洋及南洋諸國ニ滿三年以上在勤シタルトキハ外務大臣ハ公務ニ差支ナキ場合ニ限リ本人ノ願ニ依リ賜暇歸朝ヲ許可スルコトヲ得
第二條 歐米諸國ト東洋及南洋諸國ノ間ニ轉勤シタル場合ニ於テハ前條ノ在勤年期ハ新任國在勤ノ例ニ依ル但轉勤ノ後滿二年以上在勤スルヲ要ス
第三條 賜暇歸朝ノ者ハ往復日數ヲ除キ滿六箇月以内ニ出發歸任スヘシ但相當ノ理由アリテ期限内ニ出發シ難キ者ハ外務大臣ニ於テ豫メ日ヲ限り特ニ出發延期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十二類

第一章 港津 航路標識 海上衝突豫防 船燈信號

○特別輸出港規則細則中改正

二十四年九月十一日
大藏省令第二十三號

明治二十二年大藏省令第十號特別輸出港規則施行細則第一條左ノ通改正シ本年十月一日ヨリ施行ス
第一條 特別輸出港規則第二條ニ據リ大藏大臣ニ差出スヘキ外國船雇入願書ハ左ノ書式ニ據ルヘシ
(願書式)

外國船雇入願

一 國名

何國

一 船種

蒸汽又ハ帆走

一 船名

何號

一 登簿噸數

何噸

第十二類

第一章

港津

航路標識

- 一 船長姓名 何ノ誰
 - 一 仕出港 特別輸出港ノ名ヲ記スヘシ
 - 一 外國仕向港 何國何港
 - 一 碇泊港 現ニ本船ノ碇泊シアル港ノ名ヲ記スヘシ
 - 一 輸出品 特別輸出品ノ名ヲ記スヘシ
 - 一 雇入期限 何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ
- 右特別輸出港規則第二條ニ據リ雇入度候ニ付免狀御下付被下度此段相願候也
但本船雇入御許可ノ上ハ特別輸出港ニ於テ船舶ニ對スル御規則ハ堅ク遵守可爲致候也
何年何月何日

府市町何番地
何縣何郡何村
何會社長(若シ會社ナ
ルトキハ)

雇主 氏名印
(雇主二人以上共同シテ出願スルトキハ各署
名捺印スヘシ又代人ナルトキハ雇主及代人
ノ任所氏名ヲ詳記シ代人ノ捺印スヘシ)

(特別輸出港ニ入港ノ期日切迫シ本船碇泊港ノ税關及特
別輸出港税關出張所へ電報ヲ請ハントスル者ハ其碇泊
港ノ出港日及特別輸出港ノ入港日ヲ追記出願スヘシ)

大藏大臣爵氏名殿

○航路標識管理所 二十四年八月三日
遞信省告示第百七十三號
航路標識管理所ハ武藏國橫濱市ニ之ヲ置キ本月十六日ヨリ開始ス

第十三類

第一章 戶籍諸則

○戶籍登記書式中改正追加 二十四年六月廿六日
內務省訓令第十一號 北海道廳府縣
明治十九年十月內務省訓令第二十號戶籍登記書式中登記目錄書式第十四管內送入籍ノ部第五項名ノ上「婦」ヲ「養女」ト改メ
專項中廢家ノ上ノ下ニ「夫妻共」ノ三字ヲ挿入ス又同第七項中平民氏名ノ下「養孫」ヲ「養子携帶」ト改ム

第二章 種族 氏名年齡

○有位者改姓名貫屬換轉居及死亡ノトキ爵位局へ届出方 二十四年六月二十
五日
宮内省達シ第一號
有位者一般(華族ヲ除ク)
自今改姓名貫屬換及轉居ハ其都度本人ヨリ死亡ハ相續人又ハ親屬ヨリ直ニ當省爵位局へ届出ツヘシ

○有位者改名貫屬換及死亡ノトキ届出方廢止 二十四年六月二十五日
宮内省達シ第二號 北海道廳府縣
明治二十年六月宮内省達第三號ヲ廢ス

○有位者族籍現任地等爵位局へ届出書式 二十四年六月二十五日
宮内省達シ第三號
有位者(華族ヲ除ク)ハ左ノ書式ニ依リ來ル七月二十四日マテニ當省爵位局へ届出ツヘシ

書式

北海道廳府縣士族又ハ平民
北海道廳府縣國郡市町村番地現在

氏
生年月日 名

右御届仕候也

年月日

爵位局御中

位勲氏名印

第十五類

第一章 勸業 諸業組合

○農作物保護ノタメ有益ナル鳥類獵獲禁止方

二十四年六月九日 農商務省訓令第二十六號 警視廳

北海道廳府縣 (沖繩縣ヲ除ク)

近年銃獵者ノ數ヲ増シ加フルニ剝製鳥類輸出ノ途開ケシヨリ鳥類濫獲ノ弊ヲ生シ農作物保護ノ爲有益ナル鳥類ノ殄滅ヲ致スノ虞アルニ依リ土地ノ實況ニ隨ヒ獵獲禁止ノ必要アルモノハ其名稱及性質効用等ヲ詳記シ本大臣へ經伺ノ上其獵獲ヲ禁止スヘシ

第二章 漁獵 鳥獸獵

○農作物保護ノタメ有益ナル鳥類獵獲禁止方(十五類第一) 章ニ掲ク

○北海道廳ニ於テ殖産獎勵ニ要スル種畜貸渡ハ隨意契約ニ依ルヲ得

二十四年七月廿七日 勅令第百六十三號

朕北海道廳ニ於テ種畜ヲ貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

北海道廳ニ於テ殖産獎勵ニ要スル種畜ヲ貸渡ストキハ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

第三章 度量衡

○度量衡器ノ制限、製作、修覆及販賣ノ免許、檢定ニ關スル規則 二十四年八月十九日 勅令第百七十七號

朕度量衡器ノ制限、其ノ製作、修覆及販賣ノ免許並其ノ檢定ニ關スル規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

第一條 度量衡器ノ種類、形狀及物質ヲ定ムルコト左ノ如シ

度量衡器		形狀	物質	種類
直形	直尺	七尺以下	金屬、象牙、骨、竹木	三メートル以下
		一尺	金屬、象牙、骨、竹木	三尺
直角形	曲尺	長枝二尺以下	金屬、象牙、骨、竹木	五メートル以下
		疊尺	金屬、象牙、骨、竹木	五メートル以下
細帶狀	卷尺	三尺	金屬、象牙、骨、竹木	二メートル
		十二尺	金屬、象牙、骨、竹木	三メートル
細帶狀	卷尺	十八尺	金屬、象牙、骨、竹木	五メートル
		三十尺	金屬、象牙、骨、竹木	十メートル

第十五類 第一章 勸業 第二章 鳥獸獵 第三章 度量衡 九十七

秤物	秤物	板状			線状		
		一毛	二毛	五毛	一分	二分	五分
金	天秤	「一ミリグラム」	「二ミリグラム」	「五ミリグラム」	「一センチグラム」	「二センチグラム」	「五センチグラム」
金	壺秤	「一センチグラム」	「二センチグラム」	「五センチグラム」	「一デシグラム」	「二デシグラム」	「五デシグラム」
金	桿秤	「一センチグラム」	「二センチグラム」	「五センチグラム」	「一デシグラム」	「二デシグラム」	「五デシグラム」

第二條 營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ明治三十二年ニ之ヲ檢定シ爾後五年目毎ニ之ヲ檢定ス

第三條 度量衡器ノ公差ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ分銅ハ内減ヲ許サス

全長	度量衡器ノ公差		全長	公差
	金	製		
一尺	未滿	〇、五〇	五「センチメートル」未満	「一ミリメートル」
一尺	以上	〇、七五	五「センチメートル」以上	「二ミリメートル」

二尺	五尺	十尺	三十尺	量器容量及寸法ノ公差	
				一尺	二尺
未滿	未滿	未滿	未滿	一、五〇	三、〇
以上	以上	以上	以上	三、〇	五、〇
未滿	未滿	未滿	未滿	五、〇	十、〇
以上	以上	以上	以上	十、〇	二十、〇

量器	各種ノ木製、鐵製ノモノ及二升又ハ五「リットル」以上ノ金屬製ノモノノ容量	
	一升以下	全量ノ百五十分ノ一
一	二升以上	一厘
二	二「リットル」以下	二厘
三	五「リットル」以上	五「リットル」

各種斗概ノ徑及長サ	量器	
	鐵製ヲ除キ他ノ金屬製	水重ノ公差
一	一「センチリットル」	〇、一
二	二「センチリットル」	〇、二

五	勺	〇・一〇	五「センチリットル」	〇・三
一	合	〇・二〇	一「デシリットル」	〇・五
二	合	一・〇〇	二「デシリットル」	一・〇
二	合	一・〇〇	五「デシリットル」	四・〇
五	合	一・五〇	一「リットル」	四・〇
一	升	二・〇〇	二「リットル」	五・〇
五	勺	〇・三	一「デシリットル」	一「グラム」
一	合	〇・五	二「デシリットル」	二
二	合	一・〇	五「デシリットル」	五
二	合	一・二	一「リットル」	七
五	合	一・五	二「リットル」	一一
一	升	三・〇		
量器(玻璃製)ノモノ水重ノ公差				
分銅五分		〇・〇〇五	分銅一「グラム」以上	一「グラム」
分銅一匁以上		〇・〇一〇	分銅五「グラム」マテ	〇・〇一〇
衡器ノ公差				
分銅十匁又ハ十「グラム」以上		全重ノ千分ノ一		
分銅五分又ハ二「グラム」未滿		全重ノ百分ノ一		
目盛		一度目ノ二分ノ一ニ相當スル重サ		

度器ノ各目盛ノ公差ハ前項定限ノ二分ノ一トス
 第四條 檢定スヘキ度器ノ目盛及分銅ノ最小定限ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ量器ハ其ノ全量ノ外他ノ目盛ヲ檢定セス

- 度器ノ目盛
- 五厘 (一尺以下ノ度器)
- 一分 (十尺未滿ノ度器)
- 一寸 (十尺以上ノ度器)
- 鯨尺一分 (各種鯨尺度器)
- 一「ミリメートル」 (一「メートル」以下ノ度器)
- 五「ミリメートル」 (五「メートル」未滿ノ度器)
- 五「センチメートル」 (五「メートル」以上ノ度器)

分銅
 一厘
 一「センチグラム」
 第十五類 第三章 度量衡

第五條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許年限ハ十五箇年トス
 第六條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ヲ願出ル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ詳記シタル營業ノ設計書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ差出スヘシ
 製作、修覆ヲ願出ル者

- 一 製作場、修覆場ノ位置及構造
 - 二 製作、修覆セントスル度量衡器ノ種類、形狀及物質
 - 三 資本金
 - 四 製作、修覆ニ使用スヘキ技師、職工ノ員數及其ノ職業別並ニ諸器械ノ種類
- 販賣ヲ願出ル者及製作者ニシテ販賣ヲ兼ヌル者

- 一 販賣所ノ位置及構造
 - 二 販賣セントスル度量衡器ノ種類、形狀及物質
 - 三 資本金
 - 四 販賣セントスル度量衡器ノ製作者、修覆者又ハ輸入者ノ住所、姓名及營業所
- 農商務大臣前項營業ノ設計ヲ不適當ト認ムルトキハ其ノ願書ヲ却下スヘシ
- 第七條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受タル者其ノ營業ノ設計ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第八條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受クル者ハ左ノ免許料ヲ納ムヘシ
 度量衡器又ハ衡器ノ製作 金拾五圓

度量衡器又ハ衡器ノ修覆 金拾貳圓
 度量衡器又ハ衡器ノ販賣 金五圓

第九條 度量衡器ノ檢定ヲ受クルモノハ左ノ檢定料ヲ納ムヘシ
 二段以上目盛シタル度量器ハ一段毎ニ其ノ檢定料ヲ納ムヘシ

檢定料	
度量器	
竹	一尺以下(一分目) 〇.五
木	一尺以下(五厘目) 一.〇
	三尺以下(一分以上ノ目) 一.〇
	七尺以下 四.〇
骨	半メートル以下 二.五
象	一メートル以下 四.〇
	二メートル以下 五.〇
牙	一尺 〇.五
	二尺 一.〇
	三尺 一.〇

- 木材、象牙、骨製桿秤 金二百圓
- 天秤、分銅、臺秤及金屬製桿秤 金三百圓
- 度器販賣 金百圓
- 量器販賣 金百圓
- 衡器販賣 金百圓

○度量衡法施行規則 二十四年八月十九日
農商務省令第十一號 北海道廳府縣
度量衡法施行規則左ノ通定ム
度量衡法施行規則

第一章 檢定

第一條 度量衡檢定所ハ常置、特設ノ二トシ常置檢定所ニ於テハ製作、修繕若ハ營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ヲ檢定シ
特設檢定所ニ於テハ營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ヲ檢定ス
常置檢定所ハ地方廳所在地ニ一箇所ヲ置キ特設檢定所ハ定期檢定ヲ施行スルトキ地方長官便宜其ノ場所ヲ指定スヘシ
前項特設檢定所ノ場所及檢定ノ期日ハ其ノ檢定ヲ施行スル期日ヨリ少クモ一箇月以前ニ之ヲ告示スヘシ
第二條 度量衡器ノ檢定ヲ受ケントスルトキハ製作、修繕若ハ輸入シタル者ハ左ノ甲號書式ニ營業ノ目的ニ使用スル者
ハ乙號書式ニ依リタル檢定請求書ニ明治二十四年勅令第七十七號第九條ニ定ムル檢定料相當ノ登記印紙ヲ貼用シ之
ヲ器物ニ添ヘ度量衡檢定所ニ差出スヘシ
(甲號書式用紙 美濃)

度量衡器檢定請求書

此處ニ登記印紙ヲ貼用スヘシ

(度器)

形狀	物	質	種類		製作又ハ輸入番號	箇	數
			全	目			
直	形	竹	直尺何尺又ハ何メートル	何分又ハ何ミリメートル	何又ハ至何號	何	箇

(但シ種類ノ欄中目盛ノ記入ヲ要スルハ三尺以下ノ度器ニ限ル)

(量器)

形狀	物	質	種類	製作又ハ輸入番號	箇	數
方	形	樽	何升又ハ何リットル	何又ハ至何號	何	箇

(斗概)

種類	製作又ハ輸入番號	箇	數	
				大
何	何	何	何	

- 第十一條 鐵葉ヲ以テ五合及「リットル」以上ノ量器ヲ製作スルトキハ之ヲ二重ニスヘシ
- 第十二條 鐵銅若ハ眞鍮ヲ以テ製作シタル量器ハ其ノ内面ニ錫又ハ白銅ヲ鍍著スヘシ
- 第十三條 木製ノ量器ハ鐵板ヲ以テ口縁ヲ被フヘシ
 - 一升及「リットル」以上ノ木製ノ方形量器ニハ其ノ側及底ノ四隅ノ外面ニ鐵帶ヲ曲ケテ附加スヘシ其ノ圓形量器ニハ一箇又ハ交叉シタル二箇ノ鐵帶ヲ曲ケ其ノ側及底ノ外面ニ沿フテ附加スヘシ
- 酒酢醬油(食鹽等)如キ鐵ヲ腐蝕スヘキ物料ヲ量ルニ用井ル量器ニハ其ノ鐵ニ錫又ハ白銅ヲ鍍著シ若ハ腐蝕セサル他ノ堅牢ナル物質ヲ以テ前二項ノ鐵ニ代フヘシ
- 鐵板又ハ鐵帶ヲ量器ニ附著スルニ螺旋釘ヲ以テシタルトキハ其ノ捻戻シヲナシ得サル大ケ釘頭ヲ削去スヘシ
- 斗概ハ鐵葉ヲ以テ其ノ側面ヲ包ムヘシ但シ本條第三項ノ量器ニ附屬スル斗概ハ此ノ限ニアラス
- 第十四條 量器ニハ注口、趾及把ヲ附スルコトヲ得
 - 注口ヲ附スルトキハ其ノ容量ノ割合ニ應シ量器ノ深サヲ減スヘシ
 - 注口ノ口面ハ量器ノ上面ト其ノ高サヲ同一ニスヘシ但シ玻璃製ノモノハ此ノ限ニアラス
- 第十五條 圓形量器ノ口徑ハ其ノ深サヲ同一ニスヘシ但シ金屬製一升及「リットル」以下ノモノハ其ノ深サノ二分ノ一トスヘシ
- 第十六條 衡器ノ重點及支點ニハ鋼鐵若ハ堅石ヲ用井緒紐ニハ金屬草又ハ強靱ナル絹絲、麻絲等ヲ用井ルヘシ
- 第十七條 錘及增錘ノ物質ハ分銅ノ物質ト同一ノモノニ限ル但シ其ノ重量五十匁又ハ二百「グラム」以上ノモノニアラスレハ鐵ヲ以テ製作スルコトヲ得ス
- 第十八條 分銅、錘及增錘ノ重サヲ齊整スル爲メ鉛ヲ用井ルトキハ分銅及增錘ハ上面ノ一部、錘ハ側面又ハ底面ノ一部ヲ穿テ此ニ鉛ヲ填充シ金屬片ヲ以テ之ヲ塞クヘシ但シ分銅ノ把手ヲ螺旋ニナシテ其ノ穿孔ヲ塞グトキハ釘ヲ以テ之ニ緊著スヘシ
- 前項ノ穿孔ヲ塞グニハ鐵及螺旋釘ヲ用井ルコトヲ得ス
- 第十九條 鐵製ノ分銅、錘及增錘ノ鉛ヲ填充セサルモノハ分銅及增錘ハ上面ノ一部、錘ハ側面ノ一部ニ眞鍮片ヲ挿入シ檢

印ヲ附スルノ便ニ供スヘシ

- 第二十條 分銅、錘及增錘ニ填充スル鉛ノ量ハ其ノ全量ノ二十分ノ一ニ超ユルコトヲ得ス
 - 第二十一條 天秤、臺秤、桿秤ハ其ノ最大重ヲ掛ケタル量ヲ秤量トシ左ノ定限以下ノ量ヲ感スルコトヲ要ス
 - 天秤 秤量ノ千分ノ一
 - 臺秤 秤量ノ二千分ノ一
 - 桿秤 秤量ノ二百分ノ一
 - 第二十二條 臺秤ハ秤量十匁若ハ三十「キログラム」以上ノモノニ限ル
 - 第二十三條 臺秤ノ目盛ハ秤量ノ二千分ノ一以内、桿秤ノ目盛ハ秤量ノ二百分ノ一以内トス但シ其ノ感量ヨリ小ニスルコトヲ得ス
 - 第二十四條 二段以上目盛シタル桿秤ノ感量ハ每段ニ就キ之ヲ定ムヘシ
 - 第二十五條 桿秤ノ取緒ハ一緒若ハ二緒トス其ノ二緒ノモノハ之ヲ表裏ニ附著スヘシ
 - 第二十六條 分銅ハ其ノ重量增錘ハ其ノ掛量ヲ其ノ上面ニ表記スヘシ但シ線狀ノ分銅ハ此ノ限ニアラス
 - 第二十七條 錘、增錘、皿等ニシテ其ノ附屬スル秤桿ト分離シ得ルモノヲハ其ノ秤桿ト同一ノ符號ヲ表記スヘシ
 - 第二十八條 天秤ハ其ノ秤量及感量ヲ支柱、臺又ハ其ノ他ノ部ニ表記スヘシ
 - 第二十九條 臺秤ハ其ノ臺ノ縁ニ桿秤ハ其ノ桿ノ目盛ノ各段ニ量ヲ表記スヘシ
 - 第三十條 度量衡器ニハ製作者若ハ輸入シテ販賣スル者ノ記號及製作若ハ輸入ノ年號、番號ヲ併列シテ表記スヘシ
- 修撰シタル度量衡ニシテ前項ノ記號年號又ハ番號ヲ識別シ難キモノニハ修撰者ノ記號及修撰ノ年號、番號ヲ表記スヘシ
- 表記ノ方法ハ左ノ例ニ依ルヘシ
- 明治二十六年製(輸入若ハ修撰)ノ第千八十號ハ

「記號」 一〇八〇又ハ一〇八〇
 「記號」 一〇八〇又ハ一〇八〇
 「記號」 一〇八〇又ハ一〇八〇

第三十一條 數箇ノ分銅ヲ一組トナストキハ箱ニ納メ各箇ニ同一ノ記號年號及番號ヲ附スヘシ之ヲ各箇ニ附シ雖キトキハ箱ニ表記スルコトヲ得

第三十二條 度量衡器ノ目盛ハ度及衡ノ名稱ノ一倍二倍五倍若ハ此ノ倍數ノ十倍百倍タルヘシ但シ斤ノ目盛ハ其ノ二分ノ一四分ノ一又ハ一倍二倍五倍タルヘシ

第三章 免許

第三十三條 度量衡器ノ製作修理若ハ販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ其ノ願書ニ明治二十四年勅令第七十七號第六條ノ設計書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ輸入販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ其ノ旨ヲ願書ニ記スヘシ

第三十四條 農商務大臣ハ免許ヲ與ヘントスルトキハ其ノ通知書ニ免許料納入用紙ヲ添ヘ出願者ニ送付スヘシ

出願者ハ前項ノ免許料納入用紙ニ明治二十四年勅令第七十七號第八條ノ免許料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ其ノ通知書ノ日附ヨリ三十日以内ニ農商務省ニ納ムヘシ

第三十五條 免許料ノ納入ヲナシタルトキハ免許狀ヲ下付スヘシ

免許狀ヲ受領シタルトキハ免許狀ノ日附ヨリ三十日以内ニ明治二十四年勅令第七十七號第十一條ノ身元保證金ヲ納ムヘシ

免許ヲ取消サレ若ハ營業ヲ廢止シタルトキハ免許狀ヲ返納スヘシ又之ヲ紛失シタルトキハ更ニ其ノ下付ヲ請フヘシ

第三十六條 第三十四條ノ免許料及第三十五條ノ身元保證金ヲ規定ノ期限内ニ差出サルトキハ其ノ出願又ハ免許ヲ無効トス

第三十七條 身元保證金ハ通貨若ハ公債證書ヲ國立銀行ニ預ケ入レ其ノ預リ證券ヲ地方廳ニ納メ置クヘシ但シ公債證書ハ時價ニ依リ其ノ二割ヲ増シテ納ムヘシ

地方長官前項ノ預リ證券ヲ受取タルトキハ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第三十八條 身元保證金ノ金額ニ減少ヲ生シタルトキハ地方長官其ノ旨ヲ納入者ニ通知シ完納セシムヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ完納セサルトキハ地方長官ハ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申シ處分ヲ請フヘシ

第三十九條 度量衡器ノ製作修理若ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ届出ヘシ

第四十條 度量衡器ノ製作若ハ修理ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ原器ヲ備フヘシ但シ其ノ賣渡ヲ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ請求スルコトヲ得

製作ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ原器ヲ製作スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ地方長官ノ檢定ヲ受クヘシ

製作若ハ修理ニ用井ル原器ハ毎年一回以上地方長官ノ檢定ヲ受クヘシ

第四十一條 度量衡器ノ製作修理若ハ輸入販賣ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ表記ニ用井ル記號ヲ定メ豫メ地方長官ニ届出ヘシ

第四十二條 從來度量衡製作若ハ賣捌ノ免許ヲ受ケタル者其ノ營業ヲ繼續セントスルトキハ明治二十五年九月三十日マテニ明治二十四年勅令第七十七號第六條ニ定ムル設計書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ届出テ繼續免許狀ヲ受クヘシ

繼續營業者ハ第三十七條ノ手續ニ依リ繼續免許狀下付ノ日ヨリ三十日以内ニ身元保證金ヲ納ムヘシ

前二項ノ期限内ニ届出及身元保證金ノ納入ヲナササル者ハ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得ス

罰則

第四十三條 前條届出ノ設計不適當ナルトキハ農商務大臣ハ期限ヲ定メテ其ノ變更ヲ命スヘシ

第四十四條 第八條ニ違背シタル者ハ拾圓以上五拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 第三十五條第三項第三十九條若ハ第四十一條ニ違背シタル者ハ貳圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第四十條ニ違背シタル者ハ五圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五類 第三章 度量衡

計	種	別	合 箇		不 合 箇	
			格	數	格	數
計						
檢定料計						
衡器						
分銅	質	「キログラム」				
天秤	質	「キログラム」				
蜜秤	質	「キログラム」				
木桿秤	質	「キログラム」				
金鎚秤	質	「キログラム」				
製						

右度量衡器檢定ノ成績報告候也

年 月 日

農商務大臣宛

北海道廳長官
府縣知事

附録第一號

檢定用具

- 一 第一直尺
 - 長サ三尺ト四厘トシ其ノ三尺ハ一分目一端ノ一尺ハ五厘目ヲ附シ又其ノ端ノ度目ノ内外四厘ニハ五毛目ヲ附ス
- 一 第二直尺
 - 長サ二「メートル」ト一「ミリメートル」トシ其ノ二「メートル」ハ二「ミリメートル」目ヲ附シ一端ノ度目ノ内外一「ミリメートル」ニハ十分ノ二「ミリメートル」目ヲ附ス
- 一 鯨尺
 - 長サ鯨尺二尺ト六厘トシ其ノ二尺ハ鯨尺一分目ヲ附シ一端ノ度目ノ内外鯨尺六厘ニハ鯨尺二厘目ヲ附ス
- 一 第一卷尺
 - 長サ十八尺ト一分五厘トシ其ノ十八尺ハ一寸目ヲ附シ一端ノ度目ノ内外一分五厘ニハ五厘目ヲ附ス
- 一 第二卷尺
 - 長サ五「メートル」ト八「ミリメートル」トシ其ノ五「メートル」ハ五「センチメートル」目ヲ附シ一端ノ内外八「ミリメートル」ニハ二「ミリメートル」目ヲ附ス
- 一 第一量器
 - 自一斗至一勺
- 一 第二量器
 - 自二十「リットル」至二「センチリットル」

第十五類 第三章 度量衡

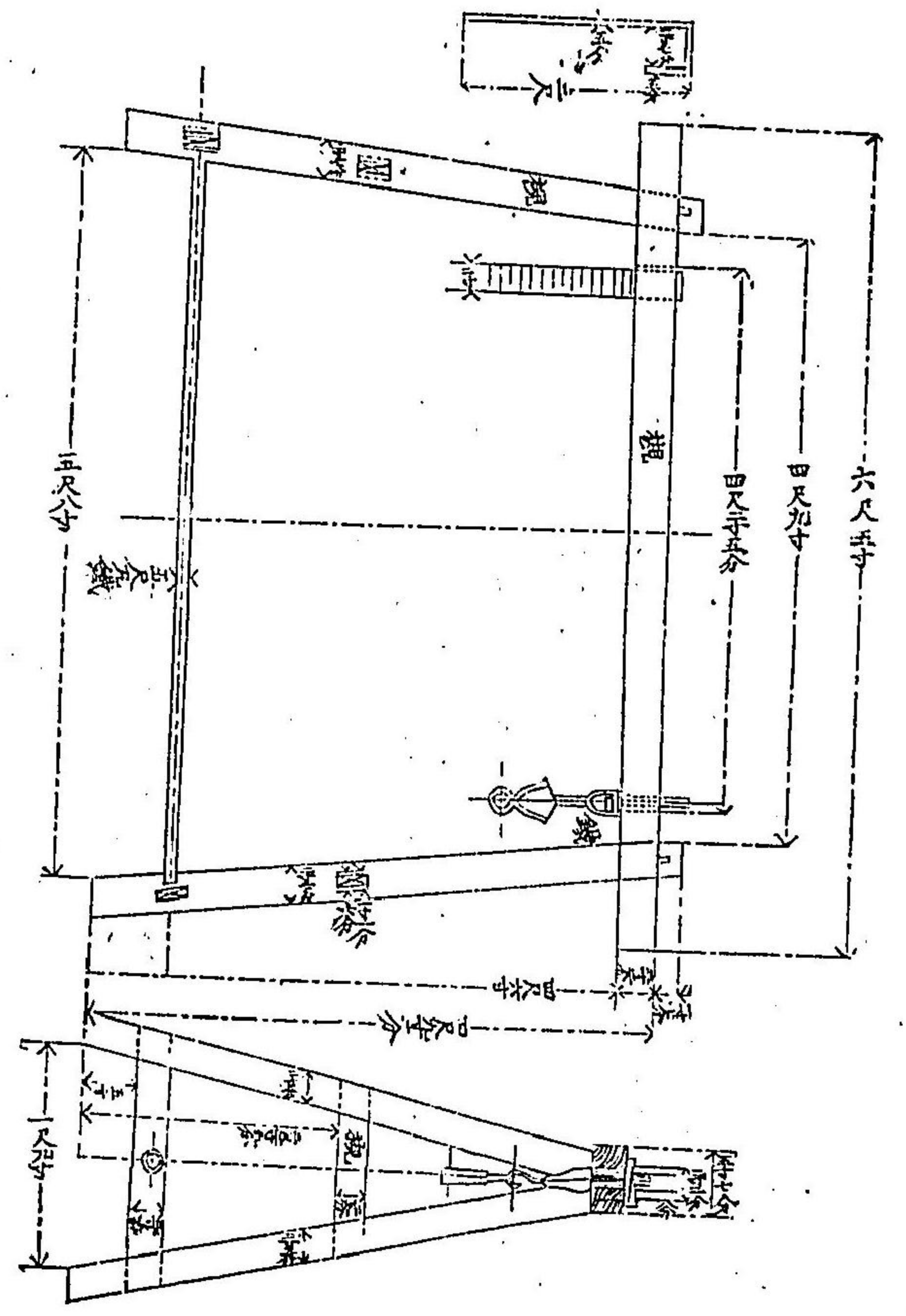
- 一 第一分銅
- 一 自五質至一毛
- 一 第二分銅
- 一 自五「キログラム」至二「ミリグラム」
- 一 大形天秤
- 一 秤量十質感量五分
- 一 中形天秤
- 一 秤量一質感量一厘
- 一 小形天秤
- 一 秤量五十質感量一毛ノ十分ノ一又ハ二「ミリグラム」ノ十分ノ一
- 一 度量檢定器
- 一 量器檢定器
- 一 重サ檢定補助具
- 一 顯微鏡
- 一 水準器
- 一 證印
- 一 證書
- 一 消印
- 一 年號印

一 廳府縣印

附録第二號

檢定補助用具

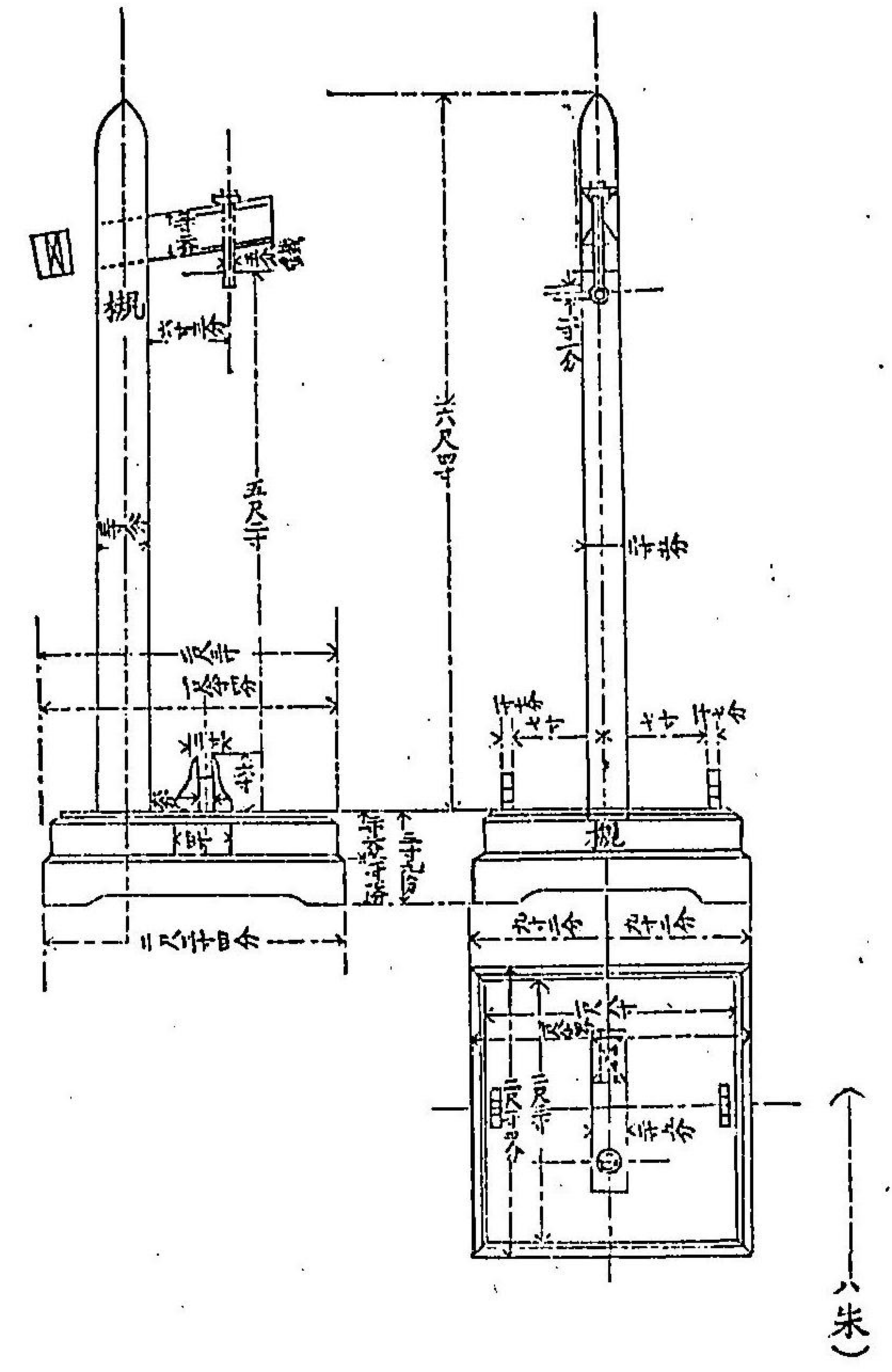
- 一 秤架 支柱ナキ天秤及桿秤ヲ懸クルニ用井ルモノ
- 一 第一秤架 第一圖ノ如シ
- 一 第二秤架 第二圖ノ如シ
- 一 第三秤架 第四圖ノ如シ
- 一 取緒鉄ミ 桿秤ノ取緒ヲ鉄ミテ之ヲ鈎ルニ用井ルモノ
- 一 第二秤架ニ附屬スルモノ 第三圖ノ如シ
- 一 第三秤架ニ附屬スルモノ 第五圖ノ如シ
- 一 秤量小形ノ天秤及支柱アル桿秤(書狀掛ケノ類)ヲ載スルニ用井ルモノ 第六圖ノ如シ
- 一 鉛丸 量器ヲ檢定シ又ハ水重ヲ以テ鉛板前同様ノ場合ニ於テ適宜削リ取リ小片トナシテ用井ルモノ
- 一 精粟 量器ノ容量ヲ檢定スルニ用井ルモノ
- 一 粟注 粟ヲ量器ニ容ルニ用井ルモノ 第七圖ノ如シ
- 一 水注 水重ヲ以テ量器ヲ檢定スルトキ水ヲ量器ニ注スルニ用井ルモノ
- 一 吸水管 前同様ノ場合ニ於テ少量ノ水ヲ注クニ用井ルモノ 第八圖ノ如シ
- 一 机 度量檢定器及天秤其ノ他檢定スル所ノ器物ヲ載スルニ用井ルモノ 第九圖ノ如シ
- 一 第十五類 第三章 度量衡

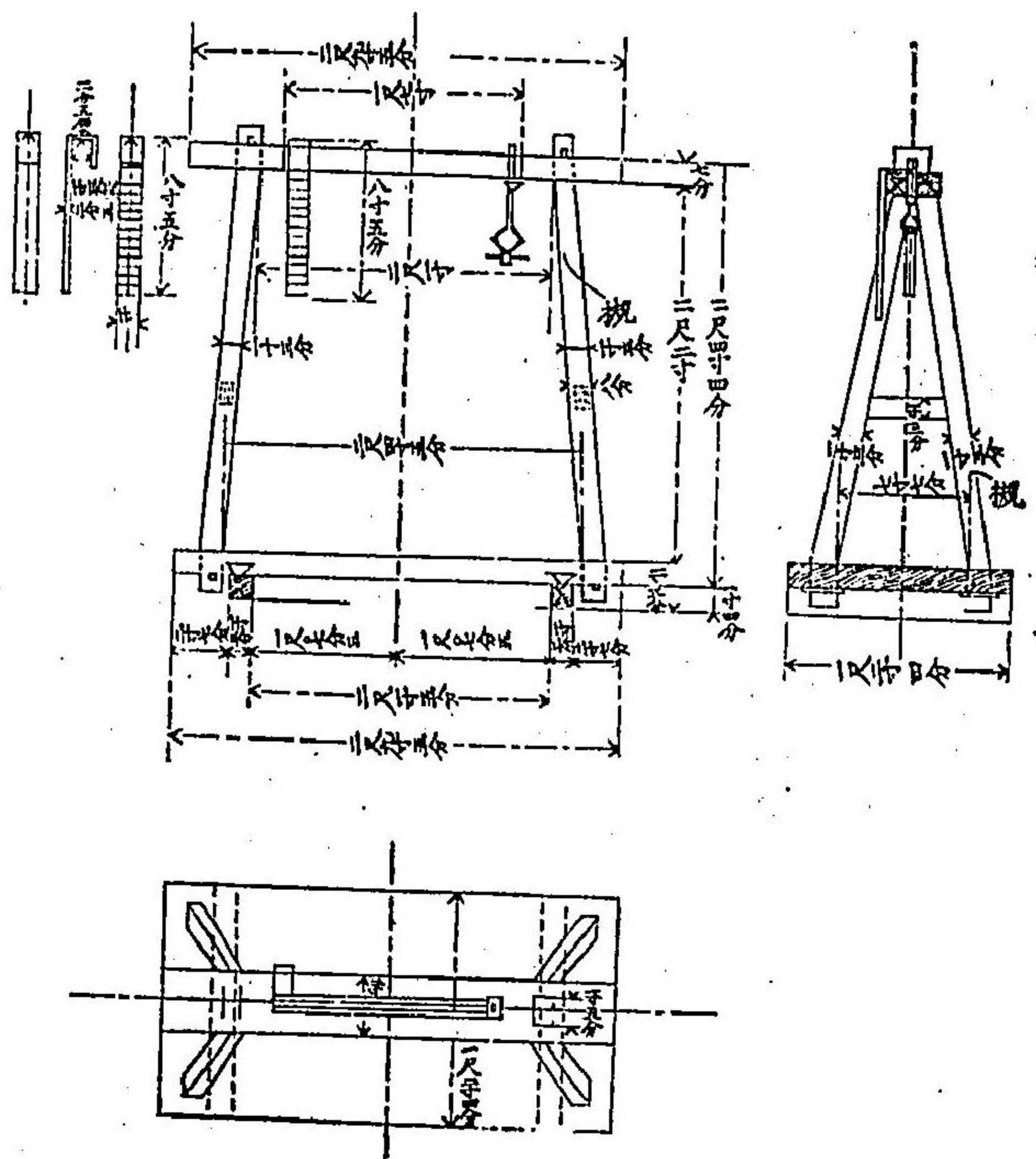


第十一圖

- 一 打印盤 檢定ノ印ヲ附ス 第十圖ノ如シ
- 一 縦前同 第十一圖ノ如シ
- 一 烙印ノ柄 第十二圖ノ如シ
- 一 右ノ外檢定ノ執行ニ要スル物品

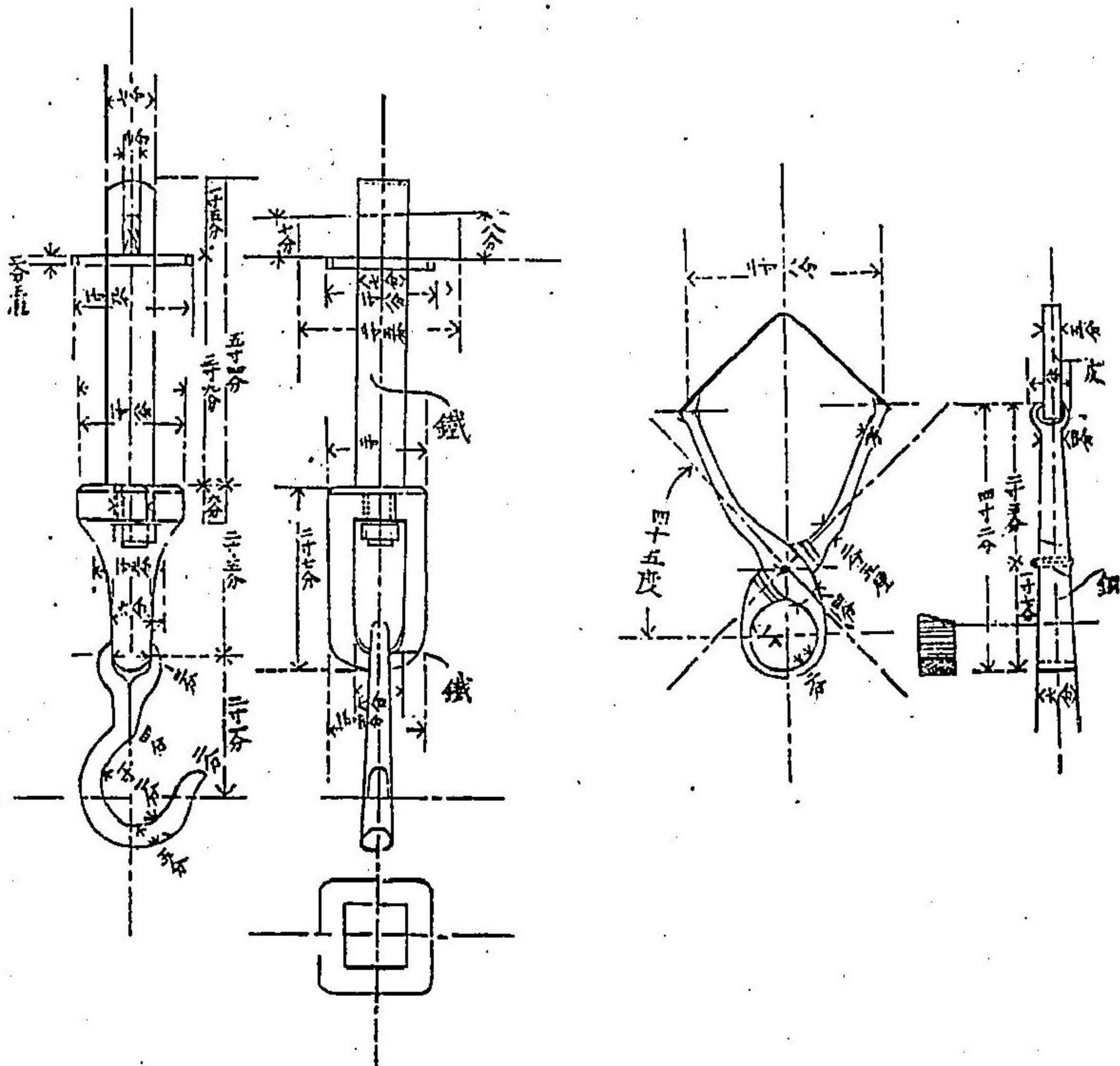
第一圖

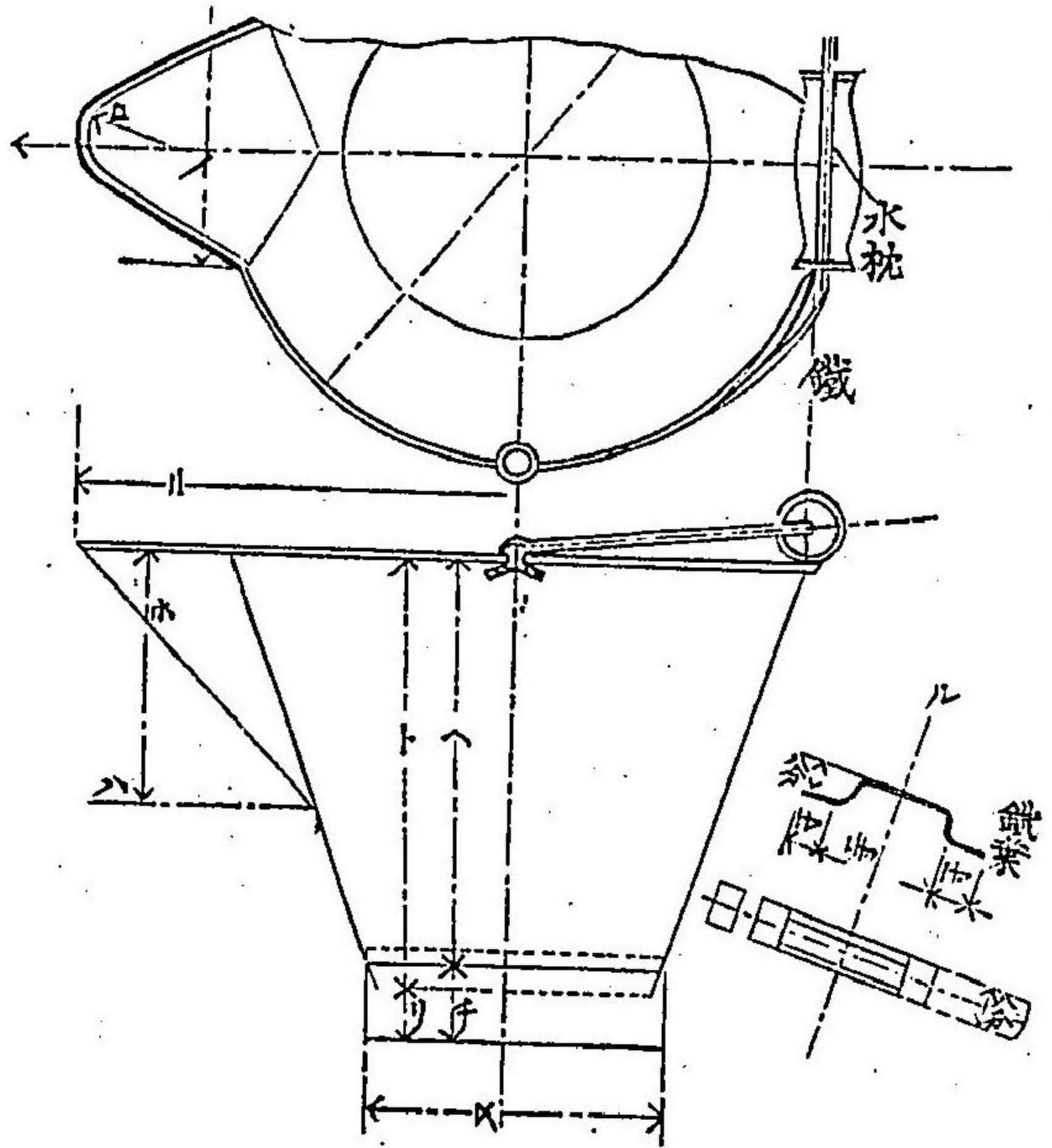




第四圖

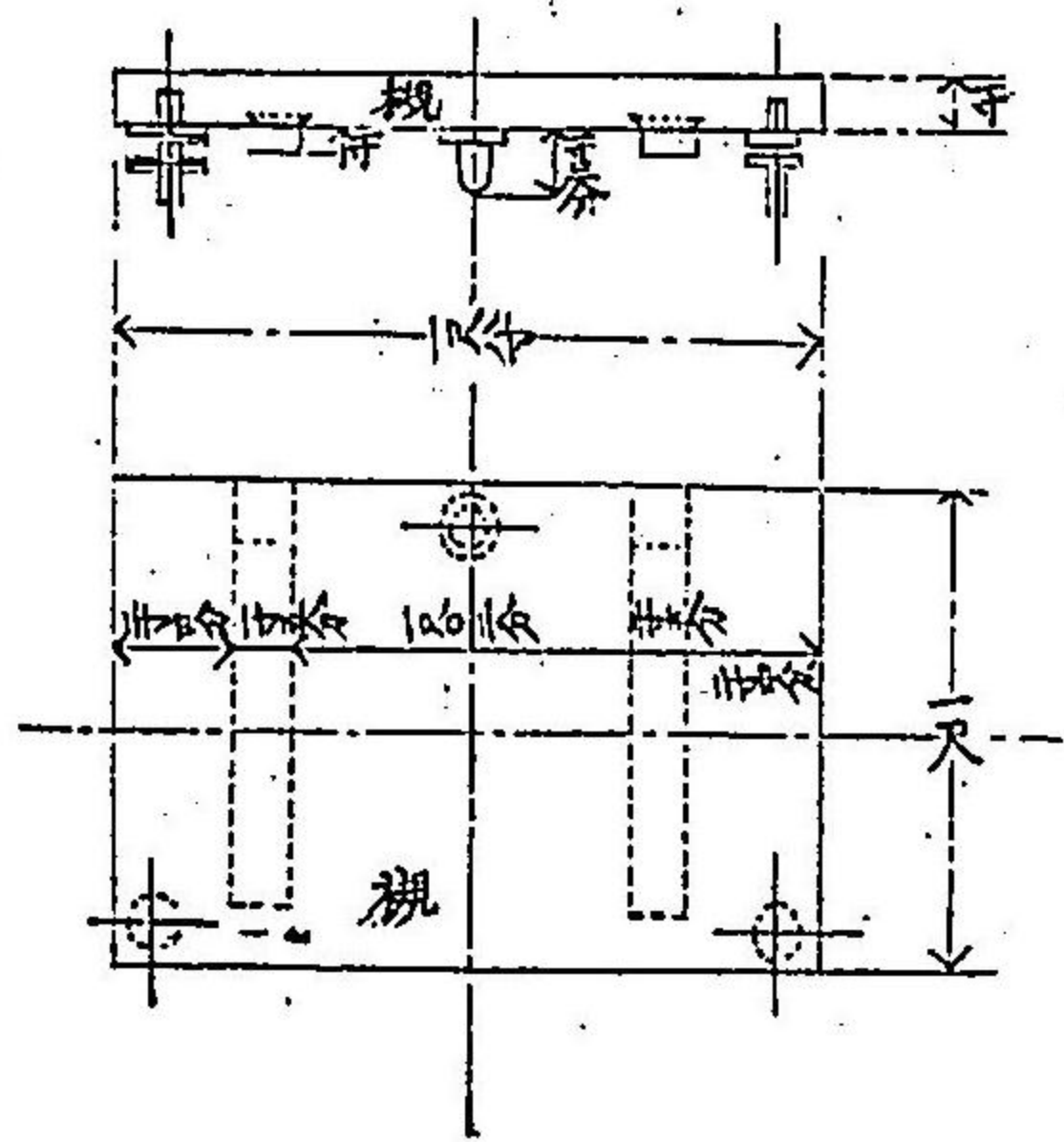
第二圖



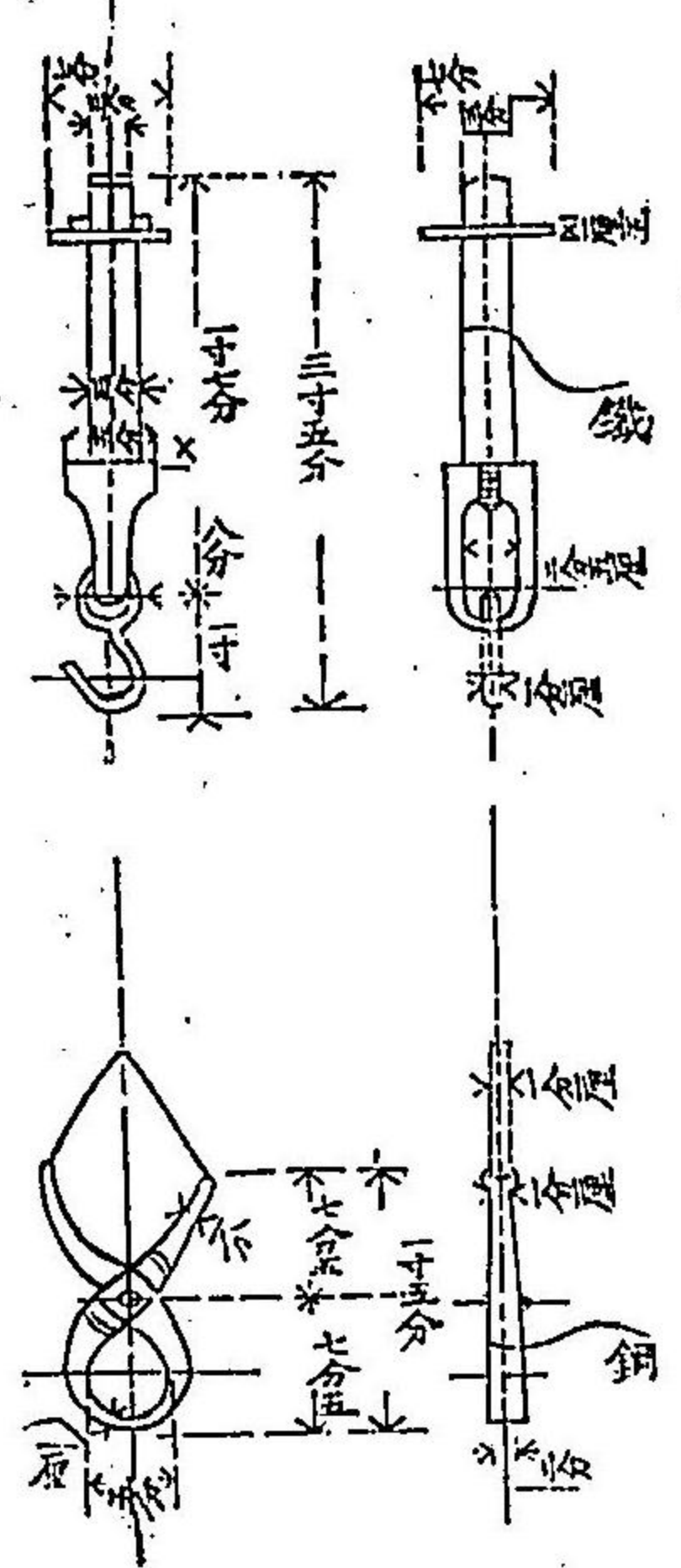


第七圖

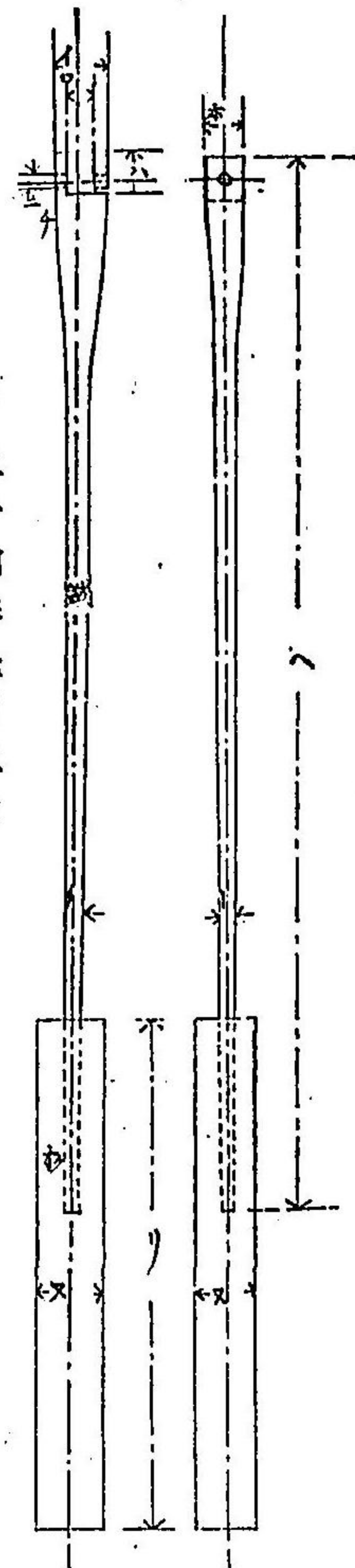
	大	中	小
イ	七寸三分	六寸一分	五寸一分
ロ	三寸三分	三寸一分	二寸一分
ハ	三寸八分	五分四分	五分四分
ニ	九寸三分	三寸八分	五寸七分
ホ	三寸五分	三寸五分	七寸四分
ヘ	二寸八分	五寸七分	八寸六分
ト	九寸三分	三寸八分	六寸七分
チ	七寸七分	五寸一分	三寸三分
リ	九分	七分	五分
ヌ	八分	三分	八分
ル	把甲		



第六圖



第五圖



○度量衡検査規則中附則追加 二十四年七月二日 農商務省令第七號 北海道廳府縣
明治八年 大政官第三百三十五號 達度量衡検査規則中左ノ附則ヲ追加ス

附則

權衡ノ各取リ緒ニ就テノ盛出シニ鍾ヲ懸ケテ桿ノ水平ヲ得タルトキ其取リ緒ニ就テノ一度目ニ相當スル分銅ヲ皿又ハ鈎ニ加フルトキ感動ヲ起スモノヲ合格トシ感動セサルモノハ之ヲ不合格トスヘシ

○度量衡種類表ニ掲載ナキ權衡ノ製作ヲ許サ、ル件 二十四年七月二日 農商務省訓令第二十九號 北海道廳府縣
明治十九年十二月十七日 日本省第十九號訓令自今之ヲ廢止ス

○度量衡器ノ製作、修履原器拂下代徴收方 二十四年九月十二日 農商務省訓令第四十號 北海道廳府縣
本年當省令第十一號度量衡法施行規則第四十條ニ據ル度量衡器ノ製作、修履原器拂下代ノ徴收方ハ其廳ニ委任候條二十三年當省訓令第六號及第二十九號ニ據リ取扱フ可シ

第四章 鑛業

○鑛業者初年鑛區稅納方 二十四年八月五日 大藏省令第二十一號

鑛業條例附則第八十九條ニ據リ鑛業ヲ爲ス者ノ初年ノ鑛區稅ハ同條例第七十五條第二項ニ準シ月割ヲ以テ條例施行後六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

○鑛山借區證券引揚處分ヲ受ケタル者試掘借區ヲ許可セサル件中削除 二十四年六月廿五日 農商務省令第六號
明治十九年 本省令第四號中「及ヒ試掘期限經過」ノ八字ヲ削除ス

○借區繼年期願ハ滿期後三十日迄ニ差出スヘシ此期限ヲ經過スルモノハ受理セス 二十四年七月三十一日 農商務省令第九號
借區繼年期願ハ滿期後三十日迄ニ差出スヘシ此期限ヲ經過スルモノハ受理セス

○鑛山借區稅月割納付方 二十四年八月十一日 農商務省令第十號
日本抗法第三十一款ニ據リ納ムヘキ來ル明治二十五年分鑛山借區稅ハ同年一月ヨリ五月迄ノ分ヲ同年一月ニ於テ月割納付スヘシ

第十七類

第一章 裁判 訴訟 訴訟費用

○地方裁判所管内支部廢止 二十四年八月二十七日 司法省令第八號
秋田地方裁判所管内能代支部ヲ廢ス

○地方裁判所支部及管轄表中削除 二十四年七月二日 司法省令第七號
明治二十三年 司法省令第三號 地方裁判所支部及其管轄表中七號ノ部宮古ノ一欄ヲ削除ス

○地方裁判所支部ノ事務ヲ取扱フヘキ判事檢事及區裁判所監督判事補職等ニ關スル件 二十四年八月二十二日 司法省訓令第五號 裁判所檢事局

地方裁判所支部ノ事務ヲ取扱フヘキ判事檢事及區裁判所監督判事補職等ノ件ニ付左ノ通り相定ム

第十五類 第四章 鑛業
第十七類 第一章 裁判

一 地方裁判所ノ支部ヲ置ク區裁判所ノ判事又ハ檢事ヲ地方裁判所判事又ハ檢事ニ兼補シタル處自今地方裁判所判事又ハ檢事ニ兼補スルヲ止メ區裁判所ノ判事又ハ檢事ハ當然地方裁判所支部ノ事務ヲ取扱フヘキモノトス

二 區裁判所監督判事モ亦補職スルヲ止メ自今特ニ之ヲ命スルモノトス

但シ現在ノ監督判事ハ別ニ辭令書ヲ用ヒス其區裁判所判事ニ補シ其廳ノ監督ヲ命シタルモノトス

○區裁判所出張所管轄區域表中改正 二十四年五月十四日 司法省令第二號

明治二十三年 司法省令第四號區裁判所出張所管轄區域表中左ノ通改正ス

一 東京地方裁判所管内下谷區裁判所日暮里出張所ヲ削除シ其管轄町村ヲ同區裁判所千住出張所ノ管轄トス

一 金澤地方裁判所管内輪島區裁判所門前出張所ヲ櫛比出張所兼職出張所ヲ町野出張所ト改ム

○區裁判所出張所裁判開廷場所管轄區域及期日改定 二十四年七月一日 司法省告示第七十九號

區裁判所出張所裁判開廷場所管轄區域及期日左表ノ通改定ス

地方	區裁判所	開廷場所	管轄區域	開廷期日
橫濱	小田原	會屋	相模國大任郡ノ内 小中村、岡崎村、金田村、伊勢原村、比々多村、土澤村、金目村、大根村、大山町、東秦野村、秦野町、西秦野村、南秦野村、北秦野村、相模國足柄上郡ノ内 中村、上秦野村、上中村、山田村、井口村、寄村	自一月 自七月 至六月 至十二月 各七日間
			厚木	相模國大任郡ノ内 相模國大任郡ノ内 平塚村、須馬村、神田村、相川村、豐田村、城島村、大野村、大田村、成瀬村、高部屋村
竹袋	竹袋出張所管内一圓	竹袋出張所管内一圓		三月 六月 十一月 各十二日間

千	葉	宮都字	浦	和	前	大田
佐倉	一宮本郷	眞岡	川越	熊谷	前橋	桐生
成田	茂原	茂木	所澤	本庄	澁川	伊勢崎
下總國下埴生郡一圓 下總國印旛郡ノ内 公津村、富里村、酒々井町	茂原出張所管内一圓	茂木出張所管内一圓	所澤出張所管内一圓	本庄 兒玉三出張所管内一圓 深谷	澁川出張所管内一圓	伊勢崎出張所管内一圓
二月 五月 十月 各七日間	二月 五月 十月 各十五日間	八月 十一月 各十日間	九月 十二月 各十五日間	七月 九月 十一月 各十五日間	自三月 自九月 至五月 至十一月 各二十一日間	自三月 自九月 至五月 至十一月 各二十一日間
大多喜	東金	荒野	東金	東金	東金	東金
勝浦兩出張所管内一圓	東金兩出張所管内一圓	下總國海上郡ノ内 本銚子町、高神村、銚子町、豐浦村、伊豆原村、海上村、船木村、椎柴村、豐岡村、飯岡町、瀧郷村、鶴巻村、三川村	東金兩出張所管内一圓	東金兩出張所管内一圓	東金兩出張所管内一圓	東金兩出張所管内一圓
三月 六月 十一月 各十五日間	三月 六月 十一月 各三十日間	二月 五月 十月 各二十日間	三月 六月 十一月 各三十日間	三月 六月 十一月 各三十日間	三月 六月 十一月 各三十日間	三月 六月 十一月 各三十日間
北條	木更津	北條	北條	北條	北條	北條
前原	市場	前原	前原	前原	前原	前原
前原出張所管内一圓	市場出張所管内一圓	前原出張所管内一圓	前原出張所管内一圓	前原出張所管内一圓	前原出張所管内一圓	前原出張所管内一圓
二月 五月 十一月 各二十日間	二月 五月 十一月 各十五日間	二月 五月 十一月 各二十日間	二月 五月 十一月 各十五日間	二月 五月 十一月 各十五日間	二月 五月 十一月 各十五日間	二月 五月 十一月 各十五日間

高松	島德		山				富		澤金		山岡		
	富岡	脇町	杉木新		高岡	魚津	富山		輪島		津山	岡山	
瀧宮 長尾西	奥河内 瀧宮出張所管内一圓	池田 奥河内出張所管内一圓	城端 井波三出張所管内一圓	今石動 今石動兩出張所管内一圓	氷見 氷見出張所管内一圓	入膳 泊兩出張所管内一圓	滑川 滑川兩出張所管内一圓	八尾 長澤兩出張所管内一圓	飯田 飯田出張所管内一圓	宇出津 宇出津出張所管内一圓	大原 大原出張所管内一圓	味野 味野出張所管内一圓 甲浦村大明村 除夕外一圓	小木 小木出張所管内一圓
二月 六月 十一月 各十五日間	四月 十月 各十日間	三月 六月 九月 十二月 各一箇月間	六月 七月 各十日間	六月 九月 各十日間	六月 七月 各十日間	六月 七月 各十日間	六月 七月 各十日間	六月 七月 各十日間	四月 十月 各十日間	四月 十月 各十日間	二月 五月 十月 各十日間	三月 六月 九月 十二月 各十五日間	四月 七月 十二月 各十日間

相模	湯		新			野長		橋							
	六日町	十日町	長岡	新發田	三條	新湊	岩村田	上田	松本	高崎					
湊	十日町 下舟渡兩出張所管内一圓	小出町 小出町出張所管内一圓	與板 與板出張所管内一圓	椽尾 椽尾出張所管内一圓	津川 津川出張所管内一圓	水原 水原出張所管内一圓	卷 卷出張所管内一圓	新津 新津出張所管内一圓	村松 村松出張所管内一圓	白田 白田出張所管内一圓	屋代 屋代出張所管内一圓	豐科 豐科出張所管内一圓	神川 神川出張所管内一圓	藤岡 吉井兩出張所管内一圓	館林 館林出張所管内一圓
三月 六月 十一月 各十日間	四月 七月 十二月 各十日間	四月 七月 十二月 各十日間	二月 六月 十一月 各十日間	三月 六月 十一月 各十日間	四月 七月 十二月 各十日間	三月 六月 十一月 各十日間	三月 七月 十二月 各十日間	三月 七月 十二月 各十日間	三月 六月 十二月 各十日間	三月 五月 十月 十二月 各十五日間	三月 五月 十月 十二月 各十五日間	三月 五月 十月 十二月 各十五日間	自三月 自五月 自九月 自十一月 各十四日間	自三月 自五月 自九月 自十一月 各二十八日間	自三月 自五月 自九月 自十一月 各三十一日間

福			仙			分									
白河		福島	古川	大河原	仙臺	豆田	中津								
石川	棚倉	須賀川	二本松	川俣	桑折	築館	中新田	角田	白石	吉岡	森	龍王	四日市	大島	鶴川
石川出張所管内一圓	棚倉出張所管内一圓	賀須川出張所管内一圓	二本松小濱兩出張所管内一圓	川俣出張所管内一圓	桑折出張所管内一圓	築館出張所管内一圓	中新田出張所管内一圓	角田出張所管内一圓	白石出張所管内一圓	吉岡出張所管内一圓	森出張所管内一圓	龍王出張所管内一圓	四日市出張所管内一圓	大島出張所管内一圓	鶴川出張所管内一圓
三月中	四月中	二月中	四月中	三月中	二月中	五月中	六月中	五月中	六月中	六月中	二月中	五月中	三月中	三月中	二月中
六月中	七月中	五月中	七月中	六月中	五月中	十一月中	十二月中	十一月中	十二月中	十二月中	五月中	十一月中	六月中	十月中	九月中
十一月中	十二月中	各二十日間	十一月中	十月中	各十五日間	各十五日間	各十五日間	各十五日間	各十五日間	各十五日間	各二十日間	各十日間	各十日間	各十日間	各十日間

大			山口		阜岐		名古屋		総		
杵築	竹田	佐伯	大分	萩	山口	高山	大垣	岐阜	一宮	九	
日市場	長湯	小野市	中戸次	生雲中	三田尻	船津	揖斐	田原	田原	稻置	琴平
日市場出張所管内一圓	長湯出張所管内一圓	小野市出張所管内一圓	中戸次出張所管内一圓	生雲中出張所管内一圓	三田尻出張所管内一圓	船津出張所管内一圓	揖斐出張所管内一圓	田原出張所管内一圓	田原出張所管内一圓	稻置出張所管内一圓	琴平出張所管内一圓
九月中	四月中	三月中	四月中	二月中	二月中	九月中	九月中	三月中	四月中	四月中	二月中
五月中	十一月中	十月中	十月中	九月中	五月中	九月	九月	十月	十月	十月	六月中
十二月	各十日間	各十日間	各十日間	各二十日間	各二十日間	各二十日間	各二十日間	各十五日間	各十日間	各十日間	各十五日間

青		田		秋		岡		盛		形山		島			平	
弘前	鱒ヶ澤	大曲	大館	本庄	宮古	盤井	山形	東根	尾花澤	左澤	川口	野澤	喜多方	富岡	鮫川	
黒石	木造	角館	水無	矢島	金石	水上	寒河江	東根	尾花澤	左澤	川口	野澤	喜多方	富岡	鮫川	
黒石出張所管内一圓	木造車力兩出張所管内一圓	角館出張所管内一圓	水無出張所管内一圓	矢島出張所管内一圓	金石出張所管内一圓	水上出張所管内一圓	寒河江兩出張所管内一圓	東根兩出張所管内一圓	尾花澤兩出張所管内一圓	左澤兩出張所管内一圓	川口出張所管内一圓	野澤出張所管内一圓	喜多方山都三出張所管内一圓	富岡浪江兩出張所管内一圓	鮫川出張所管内一圓	
八月	七月	九月	九月	九月	九月	九月	五月	五月	五月	五月	五月	三月	三月	三月	三月	
中	中	四月	四月	四月	六月	六月	十月	十月	十月	十月	九月	十一月	十一月	十月	十月	
		六月	六月	六月			各二十一日間	各二十一日間	各二十一日間	各二十一日間	各七日間	各七日間	各二十日間	各十日間	各十日間	
十五日間	十五日間	各七日間	各七日間	各七日間	各十日間	各十二日間	各二十一日間	各二十一日間	各二十一日間	各二十一日間	各七日間	各七日間	各二十日間	各十日間	各十日間	

森		野邊地	
八戸	三本木	田名部	大川
五戸	三本木	大川	大川
三戸	三本木	大川	大川
三戸出張所管内一圓	三本木出張所管内一圓	大川出張所管内一圓	大川出張所管内一圓
十一月	十一月	九月	九月
中	中	中	中
		十五日間	十五日間
十五日間	十五日間	十五日間	十五日間

○區裁判所出張所開廢並管轄區域表中改正 田法省令第十號 二十四年九月十九日

長野地方裁判所管内上田區裁判所管轄飯城村ニ和歌山地方裁判所管内和歌山區裁判所管轄紀伊村ニ名古屋地方裁判所管内新城區裁判所管轄富岡村ニ各出張所ヲ置キ新潟地方裁判所管内相川區裁判所外海符出張所ヲ廢シ區裁判所出張所管轄區域表中左ノ通改正ス

區裁判所		區裁判所出張所	
屋代	信濃	國	管轄
屋代町	信濃	國	管轄
更級郡内	更級郡内	更級郡内	更級郡内
八幡村	八幡村	八幡村	八幡村
桑原村	桑原村	桑原村	桑原村
稻荷山町	稻荷山町	稻荷山町	稻荷山町
植科郡内	植科郡内	植科郡内	植科郡内
五加村	五加村	五加村	五加村
植生村	植生村	植生村	植生村
杭瀬下村	杭瀬下村	杭瀬下村	杭瀬下村
更級郡内	更級郡内	更級郡内	更級郡内
南條村	南條村	南條村	南條村
中之條村	中之條村	中之條村	中之條村
戸倉村	戸倉村	戸倉村	戸倉村
阪城	信濃	更級郡内	更級郡内
信濃	信濃	更級郡内	更級郡内
更級郡内	更級郡内	更級郡内	更級郡内
上山田村	上山田村	上山田村	上山田村
村上村	村上村	村上村	村上村

相川		新城		和歌山	
湊	佐渡	富岡	三河	紀伊	紀伊
長羽新湊加茂郡内 畝吉穂村	吾大岩 湯野首 代村村	加茂郡内 外海符村	八名郡内 富岡村	南設樂郡内 紀伊村	和歌山市 名草郡内 中ノ島村 鳴神村 楠見村 海部郡内 湊木ノ本村
加茂歌代村 梅津村	岩首水 野津村	高千村	日吉村 長部村 加茂村 金澤村 西郷村	川永村 山口村 直川村 有功村	四箇郷村 西和佐村 西山東村 野崎村 宮前村 東山東村 和佐村 三田村 宮岡村
内海符村	吉井村 富岡村				雜賀村 和歌村 雜ヶ崎村 加太村 西脇野村
正明寺村 河崎村	明治村 長江村 夷内浦町				

○裁判官檢察官會同巡視規程廢止ノ件 二十四年九月二十四日
明治二十年一月第四號訓令裁判官檢察官會同巡視規程ヲ廢ス
司法省訓令第十號裁判所檢事局

○行政訴答書書式 二十四年七月十四日
行政裁判所告示第一號

行政訴答書書式左ノ通相定ム

何々訴狀

住所身分職業若クハ何府何郡何町何職

原告 氏

年 齡
住所ノ地行政裁判
所ヨリ八里以上二
在ルトキハ其里程

〔訴訟代理人アルトキハ此處へ其住所身分職業ヲ肩書ニシ氏名ヲ
記シ頭ニ訴訟代理人ト記スヘシ辯護人アルトキモ亦之ニ準ス〕

被告 官 氏 名

〔被告官廳ニアラサルトキハ何府何郡何町何職氏名若クハ住所身分職業氏名〕

一定ノ申立

事實

理由

第十七類 第一章 訴訟

何、
何、
立證

行政廳ヨリ處分書若クハ裁決書ヲ交付シタル年月日

何、
年月日

原告

氏 名印
〔訴訟代理人ナルトキハ代理人署名捺印スヘシ〕

行政裁判所長官宛

〔訴狀ハ正副兩通ヲ出スヘシ若シ被告數名ニシテ其任居各八里以上ヲ離隔スルトキハ其數ニ應シテ差出スヘシ〕

何々答書

被告

何 官 氏 名

〔被告官廳ニアラサルトキハ何府何市何町何職氏名若クハ任身分職業氏名ヲ記シ又訴訟代理人又ハ辯護人アルトキハ訴狀署名ノ例ニ倣フ〕

任身分職業若クハ何府何市何町

原告

氏 名

〔訴訟代理人又ハ辯護人アルトキハ訴狀署名ノ例ニ倣フ〕

一定ノ申立

何、
事實

事實

何、
理由

何、
立證

何、
年月日

何、
年月日

被告

氏 名印

〔訴訟代理人ナルトキハ代理人署名捺印スヘシ〕

行政裁判所長官宛

〔答書ハ正副兩通ヲ出スヘシ〕

證據物寫

何、
右相違無之候也

何、
年月日

原告(被告)

氏 名印

〔訴訟代理人ナルトキハ代理人署名捺印スヘシ〕

行政裁判所長官宛

〔證據物寫ハ正副兩通ヲ出スヘシ若シ被告數名ニシテ其任居各八里以上ヲ離隔スルトキハ其數ニ應シテ差出スヘシ〕

○郵便電信、郵便爲替及郵便貯金事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

ル權利委任 二十四年六月二日(郵便部) 逓信省令第四號(ニ掲ク)

第十七類 第一章 訴訟

○鐵道廳ノ司掌ニ屬スル民事訴訟ニ付國ヲ代表スル權利委任 月二十四年七月二十四日
内務省令(鐵道部) 第九號(二掲ク)

○司法官廳ヨリ起スヘキ民事訴訟ニ付國ヲ代表スル權利委任 月二十四年九月十九日
司法省令第十一號

明治二十四年勅令第三號第三條ニ據リ司法官廳ヨリ起スヘキ民事ノ訴訟ニ於テハ其訴訟ヲ受クヘキ裁判所ノ檢事局ニ國ヲ代表スル權利ヲ委任ス

○訴訟書類郵便送達手数料納付方 月二十四年六月六日
勅令第五十四號
朕訴訟書類郵便送達手数料ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

民事訴訟法第百二十六條ニ依リ郵便ヲ以テ訴訟書類ノ送達ヲ爲ストキハ郵便稅書留手数料ノ外送達手数料トシテ一通ニ付五錢ヲ納ムヘシ但其手数料ハ郵便切手ヲ以テ前納スルモノトス

第十八類

第一章 刑事 罰例

○刑死者ノ墓標寫眞等ニ係ル取締方 月二十四年七月廿七日
内務省令第十一號

第一條 刑死者ノ墓標ニハ氏名法號族籍年齡生死ノ年月日ヲ記入スルニ止メ他ノ事項ヲ記スルコトヲ得ス
其墓標ハ遺骸埋葬地又ハ祖先塋域ノ外之ヲ建設スルコトヲ得ス

異様ノ墓標ヲ建設シ及文字ニ彩色ヲ施スコトヲ得ス

第二條 所轄警察署ノ許可ヲ得スシテ刑死者ノ爲メ公然祭祀ヲ行フコトヲ得ス但親族ノ香花ヲ供スルノ類ハ此限ニ在ラズ

第三條 刑死者ノ寫眞其他肖像ヲ公然陳列シ又ハ販賣スルコトヲ得ス
其他總テ刑死者ヲ賞揚哀悼スルコトヲ得ス

第四條 前各項ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ十一日以上二十五日以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五條 犯罪ニ關シ現ニ捜査起訴勾留服刑中ノ者若クハ捜査起訴勾留服刑中ニ死去シタル者及刑ヲ免レント欲シテ自殺シ或ハ犯罪現行ノ際殺害セラレタル者ニ付地方長官(東京府ハ警視總監)ハ安寧秩序ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ特ニ命令ヲ下シ第一條第二條第三條ニ掲クル所爲ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違背シタル者ハ第四條ニ據リ處分ス

○司法省主管收入金ニシテ道廳府縣取扱ニ係ル懲罰及沒收金ヲ大藏省主管トシ並ニ其收納取扱方 月二十四年七月二十四日
大藏省訓令第六十三號

司法省主管ノ收入金ニシテ其應取扱ニ係ル懲罰及沒收金ハ本年九月ヨリ當省主管トシ明治二十二年當省訓令第六十六號諸收入收納取扱順序ニ依リ收納方取扱フヘシ

○司法省主管懲罰及沒收金ニ係ル件 月二十四年八月十一日
大藏省訓令第六十六號北海道廳府縣收入官吏
司法省主管懲罰及沒收金ノ儀本年當省訓令第六十三號ヲ以テ當省主管ニ變換候ニ付テハ八月三十一日迄ニ調定濟ノモノニシテ同日迄ニ收入濟トナラサル(本年當省訓令第二十八號ニ依リ整理スルモノヲ除ク)調定濟額ハ司法省主管ヨリ當省主管ニ引續クヘシ但八月三十一日以前收入官吏ニ於テ現金ヲ領收シ未タ金庫ニ拂込ヲ了セサル分ハ尚ホ司法省主管トシテ整理スヘシ

第十九類

第一章 監獄 看守 監獄備人

第十八類 第一章 罰例 看守 監獄備人

○監獄醫及教誨師判任待遇者旅費金額 二十四年八月十四日 內務省訓令第十六號 警視廳北海道廳府縣

集治監 假留監

監獄醫及教誨師ニシテ判任待遇ヲ受クル者ノ旅費ハ左表ノ金額ヲ明治十九年六月閣令第十四號內國旅費規則ニ依リ支給ス
ヘシ但地方ノ情況ニヨリ認可ヲ經テ定額ノ旅費ヲ節減スルコトヲ得

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

旅		費		額	
汽車貨	每哩	汽船貨	每海里	車馬貨	每里
金 三 錢	二	金 四 錢	二	金 八 錢	二
				日 當	每二
				金 六 十 錢	

○看守長及看守禮式 二十四年八月十七日 內務省訓令第十九號 廳府縣(鐵道廳ヲ除ク)集治監假留監
看守長及看守禮式ハ本年常省訓令第十五號警察禮式ニ據ラシムヘシ

本日規則全書追錄終

○規則全書下卷正誤

目録七六	丁數	行數	誤	正	丁數	行數	誤	正
四十五號	四	九	十五號	十號	八六〇	一六	錫、マテハ、現月	錫、マテニ、限月
九、グレイン	九	二	壹板	壹枚	八七九	七	割付消却高ト	割付消却高トヲ
三三	三	一	一五	明記名	八八〇	一	銀行件	銀行券
三八	一	一	無記者	無記名	九四四	七	銀行件	銀行券
五七	一	一	無記者	無記名	九五六	一〇	銀行件	銀行券
五〇七	一	一	無記者	無記名	一〇五五	九	法學	法學
六九八	一	一	無記者	無記名	一〇六七	六	所有主ニ	所有主ヲ
七二五	一	一	無記者	無記名	一一三八	一	給例助	給例
八四二下段七	一	一	無記者	無記名				

追錄正誤

丁數	行數	誤	正	丁數	行數	誤	正
二五	一	條、十一條	第十一條	一一六	八	受ケン、ト、コト	受ケンコト
三五	二	又、小シク	及、少シク	一一二	一三	モノヲハ	モノハ
四一	一	小シク	少シク	同	一五	各段ニ量	各段ニ秤量
七四	九	一〇、ニ	一〇、ニ	同	一七	度量衡	度量衡器
八八	一〇	一〇、ニ	一〇、ニ	同	二二	一〇、八〇	一〇、八〇

明治二十四年五月十五日印刷并出版
明治廿四年十月三十日增補再版印刷并出版



發行所

發行兼印刷者

兵庫縣土族

長尾景弼

東京市芝區西久保
葺手町壹番地寄留

東京銀座四丁目 博聞本社

大坂備後町四丁目 博聞分社

千葉縣千葉町 博聞分社

福岡縣博多中島町 博聞分社

佐賀縣佐賀新馬場 博聞社代理店

兵庫縣龍野町 博聞社代理店

博聞社發行書目摘要

(但シ詳細ノ書目ハ御申込次第進呈ス)

長尾景彌編纂

●日規則全書

自明治元年一月至同廿四年四月

全二冊

正價金壹圓四十錢

重量五百五十匁

●五十部以上二割引●郵税ハ三十八錢運便ハ實錢先拂トス●製本ハ假表紙トス惣クローヌ製ハ貳拾錢増
本書ハ官民一般ニ關スル現行ノ法令ヲ類輯シ而シテ其改廢追加及ヒ消滅ニ係ル者ハ悉ク之ヲ訂正シ又沿革要領ヲ掲ケテ其沿革ヲ明ニシ勉テ完備ヲ期ス但憲法民法商法民事訴訟法刑法刑事訴訟法及ヒ附隨ノ法令ハ當社出版ノ日六法全書ニ載リテ之ヲ畧ス蓋シ該書ノ行ル、既ニ久シ或ハ之ト重複シテ不用ニ屬センコト慮ルニ因ルナリ且又○官制職制俸給及ヒ官吏ニ關スル諸則○陸海軍部内ニ關スル諸則○會計出納ニ關スル諸則ハ一部分ニ屬シ一般ニ於テ或ハ必要ナキ向モアラン由テ本編ノ附録トナシ追テ各冊ヲ單行シ特ニ需用アル諸君ノ求ニ應セント欲ス

長尾景彌編纂

●日六法全書

二十四年四月増訂

全二冊

正價金七十五錢

重量三百匁

●五十部以上一時ニ御注文ノ向エハ一割引●郵税ハ上下共金十錢但運便ハ運賃先拂●製本ハ紙表紙トス●合本惣クローヌ上等製ハ金十錢増●郵券代用ハ一割増●官衙ノ名義ニテ御注文ノ外ハ惣テ前金申交ヘシ
本書ハ憲法民法商法民事訴訟法刑法刑事訴訟法ノ六法ヲ纂輯シ附スルニ皇室典範議院法衆議院議員選舉法會計法貴族院令裁判所構成法執達吏規則行政裁判法及ヒ附隨ノ法律及閣令省令訓令ヲ以スルモノナリ抑モ本書ハ昨二十三年十一月初テ出版セン所口幸ニ非常ノ好評ヲ得テ其發行高數萬部ノ多キニ至レリ是レ深ク愛讀諸君ニ謝スル所ナリ然ルニ爾來六法ニ關スル法令ノ發布頗ル多キヲ以テ令般更ニ之ヲ増訂再版ス但舊本購求アル諸君ノ爲ニ増訂ノ分ヲ一冊トシ郵券三錢ヲ得テ發送ス

内閣官報局編纂

往既法令全書

本書ハ維新以來發布ニ係ル勅令閣令省令訓令達告示(同指合)法制局裁定ハ勿論陸軍省令七號等官報ニ掲載セサル者モ亦之ヲ纂輯シ而シテ改廢加除アルモノハ上層ニ標記シテ其沿革ヲ知ルニ便ナラシメ又索引ハ數年分ヲ合セテ別冊ト爲シ之ヲ刊行シ現時發行ノ法令全書ニ接續シ法律規則ヲ大成セラル、モノナリ

○元年分	〔並製金六十五錢〕	○十一年分	〔並製金六十五錢〕
○二年分	〔並製金六十五錢〕	○十二年分	〔並製金六十五錢〕
○三年分	〔並製金六十五錢〕	○十三年分	〔並製金六十五錢〕
○四年分	〔並製金六十五錢〕	○十四年分	〔並製金六十五錢〕
○五年分	〔並製金六十五錢〕	○十五年分	〔並製金六十五錢〕
○六年分	〔並製金六十五錢〕	○十六年分	〔並製金六十五錢〕
○七年年分	〔並製金六十五錢〕	○十七年分	〔並製金六十五錢〕
○八年年分	〔並製金六十五錢〕	○十八年分	〔並製金六十五錢〕
○九年年分	〔並製金六十五錢〕	○十九年分	〔並製金六十五錢〕
○十年分	〔並製金六十五錢〕	○二十年分	〔並製金六十五錢〕

○廿一年分 〔並製金二圓五十錢〕
 〔上製金二圓九十錢〕

○廿二年分 〔並製金二圓九十錢〕
 〔上製金二圓九十錢〕

○廿三年分 〔並製金二圓四十四錢〕
 〔上製金二圓四十四錢〕

以上自元年 定價合計 並製金二十六圓九十壹錢
 至廿二年 上製金三十三圓九十壹錢

●代價ハ一回或ハ數回三分子御拂込アルモ苦カラス但其金額ニ應シテ送本スヘシ●荷造運賃ハ實費申受クヘシ●本文ハ並製トアルハ本綴紙表紙ニシテ本製ハ脊皮金字入惣クロース製ヲ云フ特ニ上製御法交コレナキ向エハ並製ヲ發送ス●十八年以降ノ分ハ分冊ニテモ發賣ス●郵便爲替ハ東京郵便局又ハ芝口郵便局エ宛テ御拂込アリタシ●郵券代用ハ一割増トス

法令全書廿四年分 每月一册出版

●一册定價金十錢●郵税金一錢五厘●惣目錄索引ハ無代價但郵税金二錢五厘ヲ要ス
 右ハ毎月出版ス御入用ノ向ハ半ヶ年分前金郵税トモ合セテ金六十九錢御送附アリタシ但郵便爲替ハ前項ノ撮合ニ依リ御取計ヒアラシマテ

類聚法規 自初編 目錄共全四十一册 自明治元年 正價金五十圓

●製本脊皮惣クロース製トス●荷造運賃ハ別ニ申受クヘシ
 維新以降官省ノ法令ハ勿論訓令告示ニ至ル迄盡ク之ヲ類聚シテ漏サス而シテ其改廢ヲ訂正シテ整頓ニ參看ヲ掲ケ以テ沿革ヲ明ニス實ニ本邦大成ノ類典ナリ

類聚法規 第十二編目錄共全四卷 豫約價金五圓五拾錢

●上等製ハ壹圓増
 右ハ二十二年分ナリ編纂印刷ノ体裁ハ前編ニ同シ

●日本類典第二編 自廿二年四月 全二册 正價金壹圓五拾錢 重量四百八十匁

●五十部以上一割引 ●郵税ハ三十二錢運便ハ貨錢先拂トス ●製本ハ惣クロース製

●同上附錄 民法 民事訴訟法 全一册 正價金六拾錢 郵税金十六錢

●市町村制正解 附理由 全一册 上製正價金七拾五錢 重量百七拾五匁 並製正價金五拾錢 重量九拾六匁

●市町村制質問錄 全一卷 正價金三拾錢 (製本ハボリ) 重量七拾匁

●日本行政法大意 全二卷 正價金一圓八十錢 重量二百八十六匁

●帝國憲法 義解 全一卷 正價金四十錢 重量七十匁

●皇室典範 義解 全一卷 正價金四十錢 重量七十匁

●商法註解 全十册 (第三册既刊)

●民訴訟法註解 全八册 (第四册既刊)

地方制度取調委員内務次官芳川顯正君序文 ○獨逸法學博士法制局 參事官山脇玄君 ○法制局書記官水野邊君校訂 ○片貝正晉君註釋

ヘキヲ期ス今ヤ世上ニ於テ新法典註解書ノ出版ヲ圖ル者頗ル多シ其精粗善惡ハ敢テ茲ニ喋々セス若シ本書ヲ購讀シテ其意ニ滿タサル向ハ二ヶ月内ニ返戻アルヘシ即チ代金ヲ返納ス
司法官試補澤井重藏君著 再版

●**増訂 民事訴訟實用** 附書式七十餘種 全一冊 正價金四拾錢 重量九十匁

本書ハ訴訟ノ始ヨリ終結ニ至ル迄實地應用ノ手續ヲ明カニセシ書ニシテ又書式六十有餘種ヲ附スルモノナリ今般更ニ増訂ヲ加ヘ書式十數種ヲ追補シ再刷出版ス

西岡逾明君題字○大審院評定官土師經典君校
大審院詰裁判所書記笹本榮藏君編

●**舊令罰則全書** 附同指令 自 元年 正價金壹圓六拾錢 重量三百匁

明治元年ヨリ廿一年八月ニ至ル其間發布ノ法律規則中罰則アル現行法令ヲ輯録シテ本則トシ又現行法施行ニ關係ノ法令及ヒ取扱手續施行細則等并ニ改正前ノ舊法令其他同指令及ヒ大審院判決例ヲ參照トス

●**全後編** 附同指令 自廿一年九月 正價金八拾錢 重量

本書ハ廿一年九月ヨリ廿三年十二月ニ至ル其間發布ノ法律規則中罰則アル現行法令ヲ輯録セシ書ニシテ乃チ前編ニ繼クモノナリ編纂印刷ノ體裁モ又前編ニ同シ

北島兼弘君
石渡傳藏君
德山銓一郎君 合著

●**會計法釋義** 全一冊 正價金三拾五錢 重量七十三匁

新會計法ハ從來ノ面目ヲ一洗シ事創始ニ屬スルモノ多ク隨テ疑問百出解釋ニ苦ムモノ又少ナカラス本書ハ上憲法ヨリ下行政規則及ヒ學理ニ涉リ之ヲ實際ニ徴シ反覆丁嚙ニ注文ノ意義ヲ解釋シ實施ノ手續ヲ明セシ良書ナリ

